

一般国道218号椎畠バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

打 扇 遺 跡

早 日 渡 遺 跡

矢 の 原 遺 跡

くら 蔵 田 遺 跡

1995

宮崎県教育委員会

一般国道218号椎畠バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

打 扇 遺 跡

早 日 渡 遺 跡

矢 の 原 遺 跡

くら 蔵 田 遺 跡

1995

宮崎県教育委員会

## 序 文

宮崎県教育委員会では椎畠バイパス建設に伴い平成元年から5カ年にわたり路線予定地内の埋蔵文化財の確認および発掘調査を実施してきました。本書は、打扇遺跡、早目渡遺跡、矢野原遺跡、並びに藏田遺跡から出土した遺構と遺物を収録したものです。

調査によって、縄文時代早期の遺構や遺物のほか、これまで五ヶ瀬川上流域で出土例の少なかった先土器時代の良好な資料が検出され、大きな成果を得ることができました。

本書が、埋蔵文化財への理解と認識を深める一助となるとともに、合わせて研究資料としても活用いただければ幸いです。

調査に際し、延岡土木事務所、北方町教育委員会、調査指導の先生をはじめ、地域の方々のご協力に対し、心から感謝申し上げます。

平成7年3月

宮崎県教育長  
田 原 直 廣

## 例　　言

1. 本書は、宮崎県教育委員会が一般国道218号椎畠バイパス建設に伴い、延岡土木事務所の依頼を受けて実施した4遺跡の発掘調査報告書である。
2. 遺跡の調査は、平成元年度、平成3～5年度にかけて実施し、その調査報告は平成6年度に行った。
3. 発掘調査の期間および調査体制は、第I章第1節のとおりである。
4. 矢野原遺跡、藏田遺跡の地形測量図および遺物取り上げには、コンピューター・システムを使用した。
5. 遺跡の空中写真は、スカイ・サーベイーに委託した。
6. 土器の色調については「新版標準土色帖」に掲る。
7. 本書に使用した位置図は、国土地理院発行の5万分の1図をもとに作成し、遺跡周辺地形図については、延岡土木事務所から提供を受けたものを基礎としている。
8. 本書の執筆は、各遺跡の発掘調査担当の調査員を行い、その外第I章第1節を谷口武純、同第2節を山田洋一郎が当たった。  
また、矢野原遺跡の縄文時代石器についての、実測・製図・執筆は日高広人氏（県文化課）にお願いした。
9. 矢野原遺跡の調査において、長友恒人、西川浩司先生（奈良教育大）に焼磧の年代測定をお願いし、玉稿をいただいた。
10. 遺物は、宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターに保管している。

# 本文目次

## 序文 例言

### 第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯 .....	1
第2節 位置と歴史的環境 .....	4

### 第Ⅱ章 打扁遺跡

第1節 遺跡の位置 .....	7
第2節 調査の概要 .....	7
第3節 土層 .....	7
第4節 造構 .....	7
第5節 造物 .....	7
第6節 小結 .....	8
第7節 打扁遺跡（2次調査） .....	18

### 第Ⅲ章 早日渡遺跡

第1節 調査区の設定と概要 .....	21
第2節 包含層の状態 .....	21
第3節 縄文時代早期の造構と遺物 .....	21
第4節 平安時代以降の造構と遺物 .....	60
第5節 まとめ .....	61

### 第Ⅳ章 矢野原遺跡

第1節 遺跡の環境 .....	73
第2節 調査の方法と経過 .....	73
第3節 遺跡の層位と包含層 .....	75
第4節 先土器時代の造構と遺物 .....	76
第5節 縄文時代早期の造構と遺物 .....	80
第6節 宮崎県北方町、矢野原遺跡の自然科学分析 .....	103
第7節 焼け石の熱ルミネッセンス年代測定 .....	115
第8節 まとめ .....	117

### 第Ⅴ章 蔵田遺跡

第1節 調査の概要 .....	139
第2節 層序 .....	139
第3節 旧石器時代の遺物分布状況と出土遺物 .....	141
第4節 縄文時代草創期の遺物 .....	155
第5節 弥生時代の造構と遺物 .....	159
第6節 時期不明の造構 .....	165
第7節 蔵田遺跡の小結 .....	169

### 報告書抄録

## 挿図目次

### 第Ⅰ章 はじめに

第1図 遺跡位置図	3
第2図 北方町主要遺跡位置図	5

### 第Ⅱ章 打量測跡

第1図 発掘区および構造分布図	9
第2図 土層断面図	9
第3図 織文土器・打製石斧実測図	10
第4図 打製石斧・砥石・石錐・陶磁器実測図	11
第5図 石鎚・石匙・その他の石器実測図	12
第6図 出土石器実測図	18
第7図 出土石器実測図	19

### 第Ⅲ章 早日波遺跡

第1図 調査区位置図	22
第2図 土層図・A - 2区構造分布図 (アカホヤ上面)	23

第3図 A - 4区織文土器・石器出土状況図	24
第4図 集石遺構実測図	25
第5図 織文土器実測図(Ⅰ)	27
第6図 織文土器実測図(Ⅱ)	28
第7図 織文土器実測図(Ⅲ)	30
第8図 織文土器実測図(Ⅳ)	31
第9図 織文土器実測図(Ⅴ)	32
第10図 織文土器実測図(Ⅵ)	34
第11図 織文土器実測図(Ⅶ)	36
第12図 織文土器実測図(Ⅷ)	37
第13図 織文土器実測図(Ⅸ)	38
第14図 織文土器実測図(Ⅹ)	39
第15図 織文土器実測図(Ⅺ)	40
第16図 織文土器実測図(Ⅻ)	41
第17図 織文土器実測図(Ⅼ)	42
第18図 織文土器実測図(Ⅽ)	43
第19図 織文土器実測図(Ⅾ)	44
第20図 織文土器実測図(Ⅿ)	45
第21図 織文土器実測図(ⅰ)	46
第22図 織文土器実測図(ⅱ)	47
第23図 石器実測図	58
第24図 土範実測図	60

### 第Ⅳ章 矢野原遺跡

第1図 周辺地形図	74
第2図 地形図	75
第3図 土層図	76
第4図 調査区および遺物分布図	77
第5図 遺物分布図(焼縄)	78
第6図 遺物分布図	79
第7図 遺構分布図	81
第8図 集石遺構実測図(1)	82
第9図 集石遺構実測図(2)	83

第10図 集石遺構実測図(3)	84
第11図 集石遺構実測図(4)	85
第12図 土壙実測図	87
第13図 土壙・集石遺構出土遺物実測図	88
第14図 3号土壙実測図および出土遺物実測図	89
第15図 遺物分布図	91
第16図 織文土器実測図(1)	92
第17図 織文土器実測図(2)	93
第18図 織文土器実測図(3)	94
第19図 織文土器実測図(4)	95
第20図 織文土器実測図(5)	96
第21図 石器分布図	98
第22図 石器実測図(1)	100
第23図 石器実測図(2)	101
第24図 石器実測図(3)	102

### 第Ⅴ章 蔵田遺跡

第1図 A地区・C地区土層実測図	139
第2図 蔵田遺跡グリッド図	140
第3図 A・C地区旧石器分布図	141
第4図 蔵田遺跡旧石器実測図(1)	142
第5図 蔵田遺跡旧石器実測図(2)	143
第6図 蔵田遺跡旧石器実測図(3)	144
第7図 蔵田遺跡旧石器実測図(4)	145
第8図 蔵田遺跡旧石器実測図(5)	146
第9図 蔵田遺跡旧石器実測図(6)	147
第10図 蔵田遺跡旧石器実測図(7)	148
第11図 蔵田遺跡旧石器実測図(8)	149
第12図 蔵田遺跡旧石器実測図(9)	150
第13図 蔵田遺跡旧石器実測図(10)	151
第14図 蔵田遺跡旧石器実測図(11)	152
第15図 蔵田遺跡旧石器実測図(12)	153
第16図 蔵田遺跡出土織文土器実測図(草創期)	156
第17図 織文時代石器実測図	157
第18図 アカホヤ面遺構分布図	158
第19図 蔵田遺跡A地区S A 1実測図	159
第20図 蔵田遺跡出土弥生土器実測図	160
第21図 蔵田遺跡弥生石器実測図(1)	162
第22図 蔵田遺跡弥生石器実測図(2)	163
第23図 蔵田遺跡弥生石器実測図(3)	164
第24図 蔵田遺跡A地区S C 1～S C 9実測図	166
第25図 蔵田遺跡A地区S C 10～S C 15実測図	167
第26図 蔵田遺跡C地区S C 1～4実測図	168

## 表 目 次

### 打届遺跡

表1 石器計測値一覧	13
表2 石器計測表	13
表3 上器觀察表	20

### 早日渡遺跡

表1 繩文土器觀察表(1)~(9)	48~56
表2 遺跡出土石器觀察表	59
表3 上鏡計量表	60
表4 繩文土器取り上げ回数毎状況表	61

### 矢野原遺跡

表1 土器觀察表	88
----------	----

## 図 版 目 次

図版1 打届遺跡発掘区全景	14
図版2 出土遺物(1)	15
図版3 出土遺物(2)	16
図版4 出土遺物(3)	17

### 早日渡遺跡

図版1 早日渡遺跡遺景、B地図	63
図版2 B-2区、B-4区	64
図版3 A地区調査前、A-4区調査風景、A-2区(アカホヤ面)、A-4区断層面	65
図版4 A-2区遺物出土状況、A-4区遺物出土状況、S1I4、S1I1	66
図版5 I a~i類、I j~k類、II b~f~h類、II f~V a~b~m類	67
図版6 II~V j~VId類、I a~b類、I b類、I b類	68
図版7 I c~f~h類、I h類、I d~h~l類、I類	69
図版8 II a類、II b類、II b~c類、II a~b~d~f~g類	70
図版9 I~II a~b~f~j~l~III c~VIA~b類、IV~V a~c~m類、Va類、Vd類、Vm類、Vd~j~l~VIA類	71
図版10 V~VId類、IV~V~VII~IX類、スクレイバー・砥石・凹石・敲石・磨石、打製石器	72

### 矢野原遺跡

図版1 先土器時代	129
図版2 繩文時代早期	130
図版3 第I文化層出土遺物	131
図版4 第I文化層出土遺物	132
図版5 第II文化層出土遺物	133
図版6 第II文化層出土遺物	134
図版7 第II文化層出土遺物	135
図版8 第II文化層出土遺物	136

### 表2 土器觀察表

119~121

### 表3 石器觀察表(1)~(10)

122~128

### 蘿田遺跡

#### 表1 蘿田遺跡旧石器計測表

154

#### 表2 繩文土器(草創期)觀察表

155

#### 表3 繩文土器(草創期)觀察表

156

#### 表4 蘿田遺跡弥生土器觀察表

161

#### 表5 蘿田遺跡弥生土器計測表

165

### 蘿田遺跡

#### 図版9 繩文土器

137

#### 図版10 繩文時代早期石器

138

### 蘿田遺跡

#### 図版1 蘿田遺跡近景 北から

170

#### 蘿田遺跡景A地区遺物出土状況

#### 図版2 蘿田遺跡A地区S C1完掘状況

171

#### 蘿田遺跡A地区土層断面

#### 図版3 蘿田遺跡S A 1 完掘状況

172

#### 蘿田遺跡C地区柱穴群完掘状況①

#### 図版4 蘿田遺跡C地区柱穴群完掘状況②

173

#### 蘿田遺跡C地区柱穴群完掘状況③

#### 図版5 蘿田遺跡出土古石器①

174

#### 蘿田遺跡出土古石器②

#### 図版6 蘿田遺跡出土古石器④

175

#### 蘿田遺跡出土古石器⑤

#### 図版7 蘿田遺跡出土繩文土器①

176

#### 蘿田遺跡出土弥生土器①

#### 図版8 蘿田遺跡出土弥生土器②

177

#### 蘿田遺跡出土弥生土器③

#### 図版9 蘿田遺跡出土弥生土器④

178

#### 蘿田遺跡出土弥生土器①

#### 図版10 蘿田遺跡出土弥生土器②

179

#### 蘿田遺跡出土弥生土器③

#### 図版11 蘿田遺跡出土弥生土器④

180

# 第Ⅰ章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

椎畠バイパスは、県北地域の交通網整備の一貫として、延岡土木事務所によって計画されたもので、それにもとない、延岡土木事務所より県文化課に埋蔵文化財の有無の照会があった。文化課では予定路線内の分布調査及び試掘調査を実施した結果、数箇所の遺跡の所在が確認され、道路建設により遺跡に影響が及ぶことが予想された。そこで、文化課と延岡土木事務所による協議を行い、施工上現状保存が困難な部分について記録保存のための発掘調査を行うことになった。

調査は、延岡土木事務所の依頼により平成元年度から平成4年度までの間に実施したが、その後バイパス建設とともに行われる、県営は場整備事業に伴う北方町教育委員会の発掘調査において傾斜地にも住居跡が数多く検出されたため、再度路線予定地を試掘した結果、1遺跡（藏田遺跡）を確認し平成5年度に調査を実施した。

各遺跡の発掘調査の期間および調査体制は、以下のとおりである。

### 打馬（うつぎ）遺跡

調査地 北方町大字巳字打馬  
期 間 平成元年10月12日～平成元年11月8日（第1次調査）  
平成4年9月1日～平成4年9月22日（第2次調査）  
調査員 近藤 協 長友郁子

### 早日渡（はやひと）追跡

調査地 北方町大字巳 174番地 外  
期 間 平成2年1月16日～平成2年3月20日  
調査員 長津宗重

### 矢野原（やのはる）遺跡

調査地 北方町大字辰字矢野原  
期 間 平成4年2月14日～平成4年3月28日（第1次調査）  
平成4年4月13日～平成4年9月3日（第2次調査）  
調査員 山田洋一郎 谷 口 武範

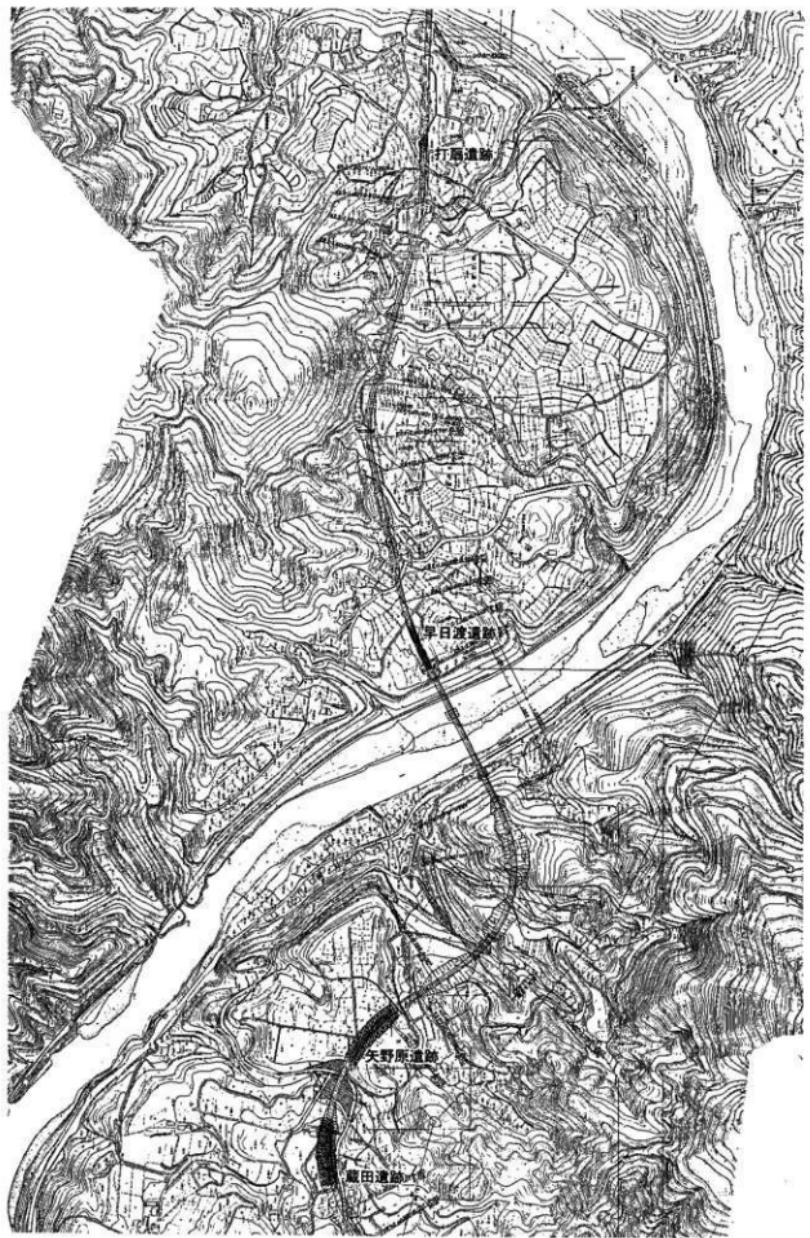
### 藏田（くらた）遺跡

調査地 北方町大字辰字藏田  
期 間 平成5年6月14日～平成5年10月7日  
調査員 山田洋一郎

## 調査の組織

調査主査 県教育委員会

教 育 長	児玉 郁男 (平成元～2年度)
	高山 義孝 (平成3～5年度)
	田原 直廣 (平成6年度)
教 育 次 長	増井 彰宏 (平成元～2年度)
	安田 天祥 (平成3～4年度)
	八木 洋 (平成5年度～)
	高山 義孝 (平成元～2年度)
	宮路 幸雄 (平成3～4年度)
	中田 忠 (平成5年度～)
文 化 課 長	久徳 菊雄 (平成元年度)
	梨岡 孝 (平成2年度)
	長友 嶽 (平成3年度)
	甲斐 敦雄 (平成4～5年度)
	江崎 富治 (平成6年度～)
同課長補佐	片野坂 次男 (平成元年度)
	串間 安國 (平成3～4年度)
	田中 雅文 (平成5年度～)
庶務係長	小倉 茂光 (平成元～2年度)
	税田 雄彦 (平成3～5年度)
	高山 恵元 (平成6年度～)
埋蔵文化財係長	岩永 哲夫 (平成元～4年度)
主幹兼埋蔵文化財	岩永 哲夫 (平成5年度～)
第1係長	
主 査	近藤 協 (現宮崎県総合博物館)
	長津 宗重 (現宮崎県総合博物館埋蔵文化財センター)
	谷口 武範
主任主事	山田 洋一郎
主 事	長友 郁子 (埋蔵文化財第2係)



第1図 遺跡位置図 (1 : 10,000)

## 第2節 位置と歴史的環境

打畠遺跡は、北方町巳 900（字尾辺）に、早日渡遺跡は北方巳 174（字馬場園）に、矢野原遺跡、藤田遺跡は、北方町辰字境谷に存在する。

本遺跡の所在する北方町は、宮崎県の北部に位置し、東は延岡市、南は門川町・北郷村、西は西臼杵郡日之影町、北は北川町の1市4町村と境を接する。町の南部を東西15km、南北23km余りの町域を占めて五ヶ瀬川が流れる。町域面積のほぼ89%が山林で占められ、北は1,000m～1,600m級の大崩山・鬼の目山・国見山・黒岩山などの山々が、東は400m～800m級の行謙山・幕子山などが、南西は速日峰（二見山）が西は比叡山などの山々が連なり平地はわずかに南部の五ヶ瀬川流域や中部でその支流である曾木川流域にみられる。

北方町の遺跡は、五ヶ瀬川流域の阿蘇溶穴凝灰岩上の台地や曾木川流域に展開しており、分布状況については数名の先達による精力的な実地調査によってある程度知られている。

ここでは、本遺跡周辺の遺跡を時代別に概観したい。

### 旧石器時代

矢野原遺跡・藤田遺跡は、北方町の旧石器時代の主要遺跡であるが、以前から知られている旧石器時代の遺跡としては岩土原遺跡がある。岩土原遺跡は矢野原遺跡の南東約5kmに位置している。発掘調査で縄文早期層の下層から半船底形細石核や小型細石刃などが出土している。他に笠下遺跡のI区とIV区でナイフ形石器や石核・剣片・尖頭器やスクレイバーが出土している。また、笠下原遺跡でも石核やスクレイバーが出土している。

### 縄文時代

早期の遺跡として駄小屋遺跡・東原遺跡・曾木原遺跡等が知られている。後期の遺跡では昭和41年に、鈴木重治氏によって菅原洞穴が調査され、鐘崎武士器が出土している。また、仲畑遺跡より磨削繩文系の土器が、足鍋遺跡では、西平式土器が採集されている。他に最近の調査で笠下遺跡では渠石遺構や押型文土器や撚糸文土器の土器類・石器として石鑿・スクレイバー・使用痕のある剣片や二次加工剣片などが出土している。

笠下原遺跡では、縄文前期の轟B式土器・曾木原式土器、中期の船元II式土器、後期の市木式土器、晚期の磨研土器・凸沿文土器等が出土している。南久保山小堀町遺跡では、縄文早期の押型文土器や撚糸文土器が晚期では磨研土器が出土している。

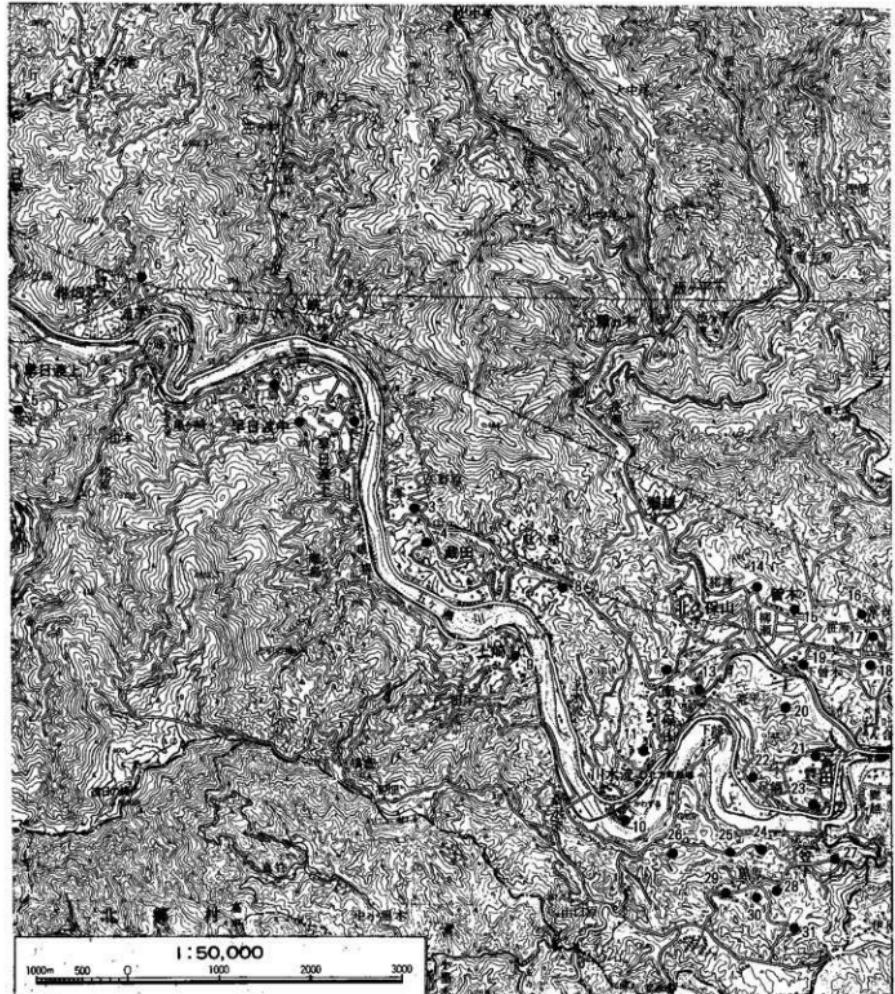
### 弥生時代～古墳時代

弥生から古墳にかけては、川水流・東原からの石包丁が出土しており、古墳後期の箱式石棺が駄小屋・川水流・後曾木遺跡・桜野遺跡の各地から発見されている。最近の調査では、笠下遺跡で住居跡から刀子・壺甕・高环・ミニチュアなどが出土している。速日峰遺跡では、古墳時代の住居跡が8軒ほど出土している。他に甕等が出土している。

### 歴史時代

歴史時代の遺跡は古代については不明である。中世になると笠下遺跡で石塔群や祭祀遺構が土師器の皿や明鏡などが出土している。また笠下原遺跡は、中・近世の陶磁器等が出土している。中世の宮崎は、まず伊東氏と土持氏が覇権を争い、大友氏、島津氏の支配の後豊臣秀吉の九州仕置を迎える。北方においても同様な展開であったと思われる。

江戸時代は前期を通じて延岡藩領となり内藤氏時代に木炭生産や鉱山開発が盛んに行われ明治新政府へと引き継がれた。



- |            |            |               |            |            |
|------------|------------|---------------|------------|------------|
| 1. 打扇遺跡    | 7. 速日峰遺跡   | 13. 南久保山小堀町遺跡 | 19. 下曾木遺跡  | 25. 上田下遺跡  |
| 2. 早日渡遺跡   | 8. 駄小屋遺跡   | 14. 仲畑遺跡      | 20. 年の神石棺群 | 26. 中山遺跡   |
| 3. 矢野原遺跡   | 9. 上崎遺跡    | 15. 後曾木遺跡     | 21. 権現原遺跡  | 27. 松尾原遺跡  |
| 4. 蔽田遺跡    | 10. 川水流遺跡  | 16. 荒谷遺跡      | 22. 足鍋遺跡   | 28. 伊木原遺跡  |
| 5. 荒平遺跡    | 11. 東原遺跡   | 17. 曾木遺跡      | 23. 角田上原遺跡 | 29. 笠下黒原遺跡 |
| 6. ジウモチ谷遺跡 | 12. 十朗ヶ尾遺跡 | 18. 黒仁田遺跡     | 24. 岩土原遺跡  | 30. 笠下炭越遺跡 |
|            |            |               |            | 31. 笠下遺跡   |

第2図 北方町主要遺跡位置図 (1 : 50,000)

#### 〈参考文献〉

- (1) 鈴木重治「本邦における土器起源に関する問題—岩土原遺跡の調査を中心に—」『南九州大学園芸学部研究報告』(1963)
- (2) 鈴木重治『日本の古代遺跡 25宮崎』(1985)
- (3) 橋昌信「九州地方の細石器文化」『鞍台史学』47 (1979)
- (4) 橋昌信「日本の細石器文化の地域性」『鞍台史学』60 (1984)
- (5) 延岡市教育委員会「赤木遺跡発掘調査概要報告」『延岡市文化財調査報告書Ⅲ』(1987)
- (6) 石川恒太郎『宮崎県の考古学』吉川弘文館 (1986)
- (7) 角川書店『角川日本地名辞典』45 (1986)
- (8) 北方町編集委員会『北方町史』(1972)
- (9) 田中茂『東臼杵郡北方村の古墳』北方村教育委員会 (1962)
- (10) 横山邦繼「石包丁出土地名表(宮崎県)」「速見考古」第4号 九州先史研究 (1973)
- (11) 沢賀臣「東臼杵郡北方町出土の弥生式土器」『宮崎考古』第1号 宮崎考古学会 (1975)
- (12) 北方町教育委員会「笠下遺跡」『北方町文化財報告書』1 (1990)
- (13) 北方町教育委員会「速日峰地区遺跡」『北方町文化財報告書』2 (1991)
- (14) 北方町教育委員会「速日峰地区遺跡Ⅱ」『北方町文化財報告書』3 (1992)
- (15) 北方町教育委員会「笠下原遺跡」『北方町文化財報告書』4 (1992)
- (16) 北方町教育委員会「南久保山小堀町遺跡」『北方町文化財報告書』5 (1992)
- (17) 北方町教育委員会「速日峰地区遺跡Ⅲ」『北方町文化財報告書』6 (1993)

# 打 扇 遺 跡

## 第Ⅱ章 打扇遺跡の調査

### 第1節 遺跡の位置

遺跡は、両脇に屹立する山間をぬいながら蛇行しつつ東流する五ヶ瀬川中流左岸の標高130mの地点にある。調査地は、五ヶ瀬川へと急落する北西向きの斜面にその大部分が位置しており、五ヶ瀬川水面から当調査区の最高位までの比高は約95mである。現況は急傾斜地を開墾してつくられた階段状の水田、畠地であり、最低位の水田面から、調査区最高位の耕作面までの水田筆数は12筆を数え、約20mの比高となる。

### 第2節 調査の概要

調査は路線道路幅20m、長さ800mにわたる調査対象区のなかで、低位面から高位面にかけて階段状に連なる水田耕作面に、8ヶ所の試掘溝を設定し遺跡の確認にあたった。調査区の大部分は傾斜が強いためか基本層序を形成しなかったが、上層の耕作面以外は攪乱を受けないオリジナル層であった。各々の試掘溝のうち遺物の出土をみたのは比較的緩傾斜となる第1試掘地点のみであった。第2～8試掘地点は、急傾斜の土層堆積状態を呈し、耕作土直下から、地山である礫が多く含む固い層となり、遺物の出土も認められなかった。以上の結果から、本遺跡の調査は第1試掘溝を設定した第1地点の約300m<sup>2</sup>を対象として実施している。

### 第3節 土 層 (第2図)

調査区は、傾斜地であるため当地域の基本層序である黒ボクーアカホヤ火山灰-黒褐色土-茶褐色土-明褐色土-の基本層序とは異なる。層序観察の基準となるアカホヤ火山灰層は、東端に僅かに遺存するだけで他は層位にからんでこない。主な遺物の包含層である5層は、先の東端での土層観察によりアカホヤ火山灰層直上に位置するものであることがわかる。6層は、先の層序と押型文土器の出土により縄文早期に比定すべきものであることがA・B土層断面の観察によって確認される。

### 第4節 遺 構 (第1図)

調査は、遺物包含層である5層(平均の厚さ20cm)を精査しつつ、遺構の検出にあたった。検出された遺構は柱穴である。5層上面より6層に掘り込まれた柱穴は合計15ヶ所を数える。ほとんどが円形から稍円形であり、深いもので検出面から75cmを計測する。柱穴埋土は、すべて同種のもので、炭化粒、チャート片を含んでいたものも検出された。柱穴は、集中はみられるもののその配列によって建物を再構築できるものではなかった。

### 第5節 遺 物

遺物は、5層・6層より出土した(主には5層)縄文早期土器、縄文後期土器、縄文晩期土器、弥生後期土器(1点)、土師器(1点)、近世陶器、陶磁器、石器である。いずれも小破片が多く、実測可能なもののうち口縁部、底部、特徴的な洞部を中心に掲載した。小片も含めて遺物の総点数150点である。

#### (1) 土 器 (第3図)

##### ① 縄文土器

①～④は押型文土器、①、②は山形押型文、③、④は梢円押型文がほどこされる。⑤～⑧は粗製の深鉢となろう。⑦⑧には貝殻条痕がみえる。⑨⑩には沈線。⑪は口縁直下を突唇状に肥厚させる深鉢である。⑫は山形となる口縁部、⑬は斜方向の鋭い凹線を刻む。⑭は沈線間に羽状細線文がみえる。⑮～⑯は研磨のある土器、⑰～⑲は深鉢の底部である。

## (2) 石 器

### ① 打製石鎌 (第5図)

①～④は打製石鎌である。このうち①～⑥までは形態から縄文早期に由来するものと考えられる。①⑤⑥は黒曜石製、②は姫島産黒曜石製。あとはチャート製。⑦～⑩は比較的大型の三角形鎌である。とくに⑪は砂岩製（あるいは安山岩か）とおもわれる大型品である。他はすべてチャート製となる。

### ② 石 鋏 (第5図)

⑯は比較的小型の製品でチャート製。⑯は高質の黒曜石製である。

### ③ その他の (第5図)

⑰は靴べら状を呈する石器でスクレイバー的な使用目的か。⑯⑰は石鎌状の形態を有する。

### ④ 石 斧 (第3、4図)

石斧は打製石斧5点、磨製石斧2点、有肩打製石斧2点である。なお、破片と考えられるものは多数出土している。⑩～⑫は短冊形の打製石斧。⑬・⑭は撥形を呈するいずれも、泥岩片を含む灰青色砂岩である。⑮は頂部、両側面に敲打痕のみられる磨製石斧片である。⑯・⑰は有肩打製石斧の上部折損片。石材は泥岩片を含む灰青色砂岩である。

### ⑤ 砥 石 (第4図)

⑯は砥石の半折損品。砂岩製である。

### ⑥ 石 鍤 (第4図)

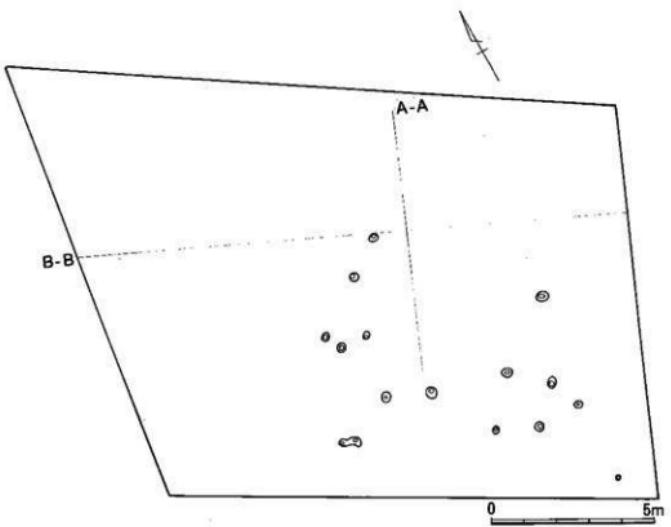
偏平な砂岩の自然石を用いている。両端に打欠痕のある典型的な石鍤である。

## (3) 陶磁器 (第4図)

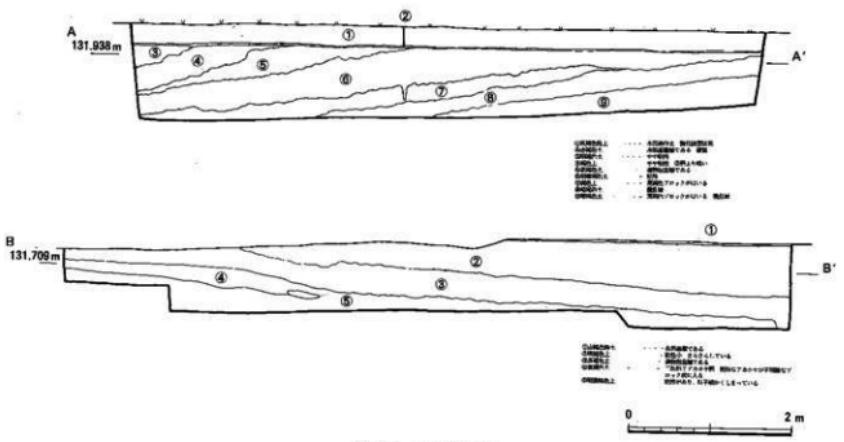
⑩～⑭・⑯は染付である。格子文・丸文・梅樹文等を持つ碗が多い。⑭は口縁が急反する鉢となろう。やや上手のものかとおもわれる。⑯・⑰は鉄釉のかかる茶器である。

## 第6節 小 結

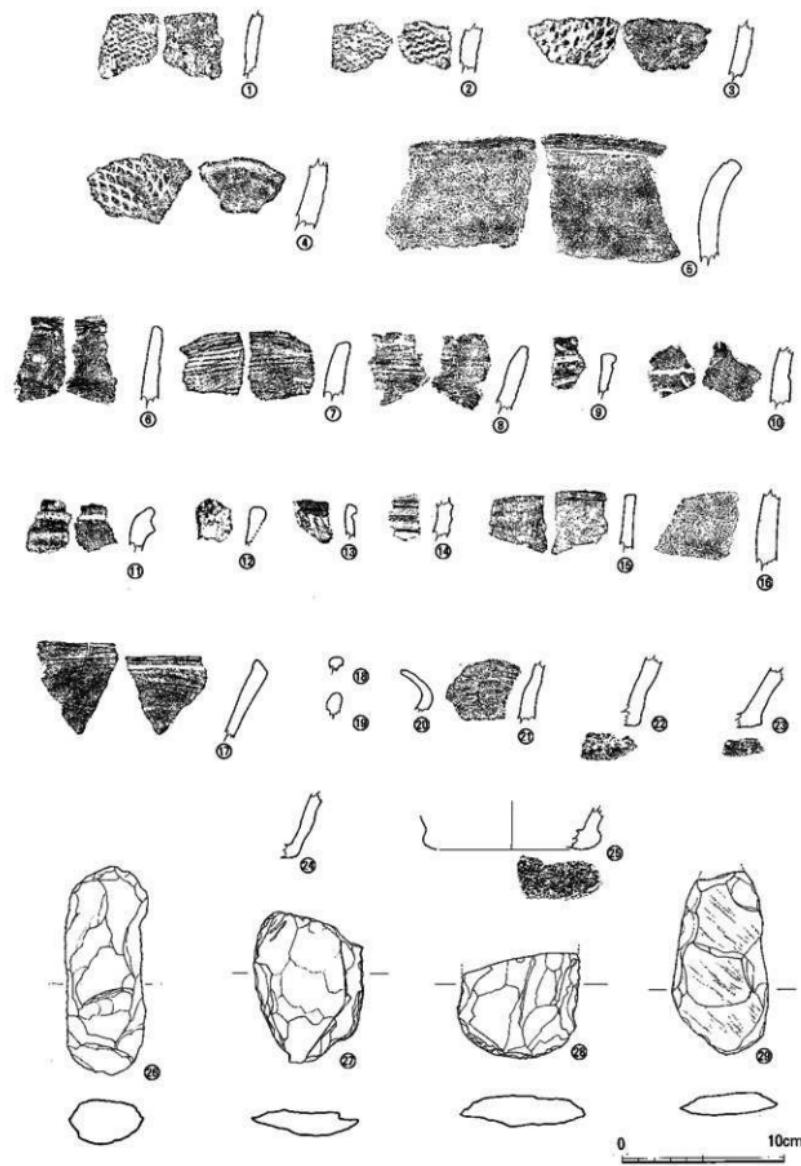
本遺跡は300m<sup>2</sup>という小規模な調査区であったが、比較的多彩な遺物が出土している。これは、条件のよい緩斜面であればたとえ狭隘であっても極力生活・生業空間として利用せざるをえなかった五ヶ瀬川上流県北部地区遺跡の一つの特徴を端的に示す好例といえよう。遺跡は縄文早期から、後期前半、後期後半を主に営まれ、近世にいたっている。生活面として利用された主要な時期は縄文時代後期後半にあり、出土遺物である縄文後期後半の土器、打製石鎌と打製石斧、有肩打製石斧、石鍤は同時代遺跡と比べてとりたててきわだった差異をみいだすことはできず、ごく通常のあり方をしめしているといえる。なお、近世陶磁器については、染付の発色、やや暗灰色をおびた胎土から近隣に所在した小峰窯産の可能性が高いことを指摘しておきたいと思う。



第1図 発掘区および遺構分布図



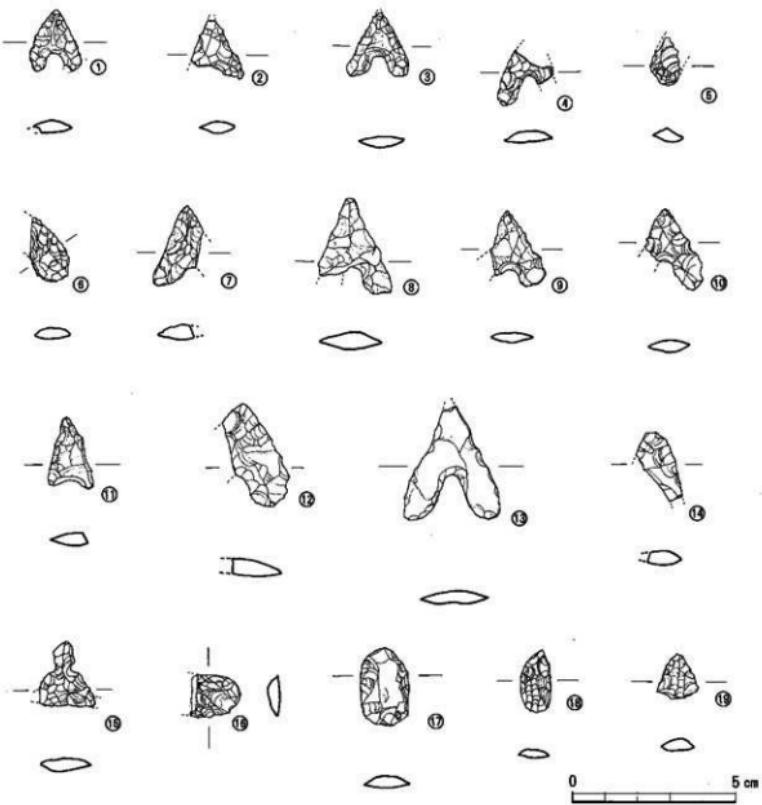
第2図 土層断面図



第3図 繩文土器・打製石斧実測図（1／3）



第4図 打製石斧・砥石・石鎚・陶磁器実測図（1／3）



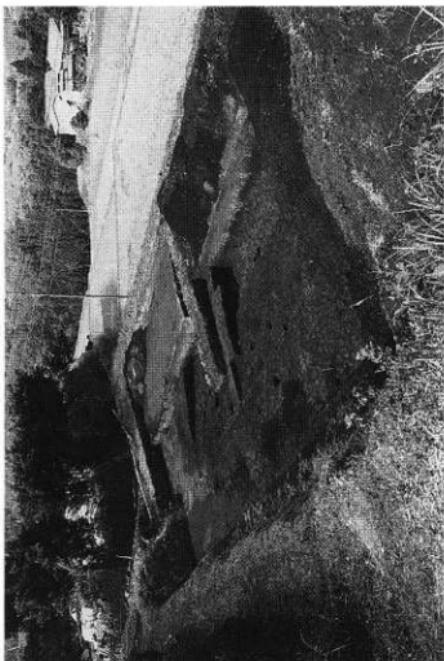
第5図 石器・石片・その他の石器実測図

表1 石器計測値一覧

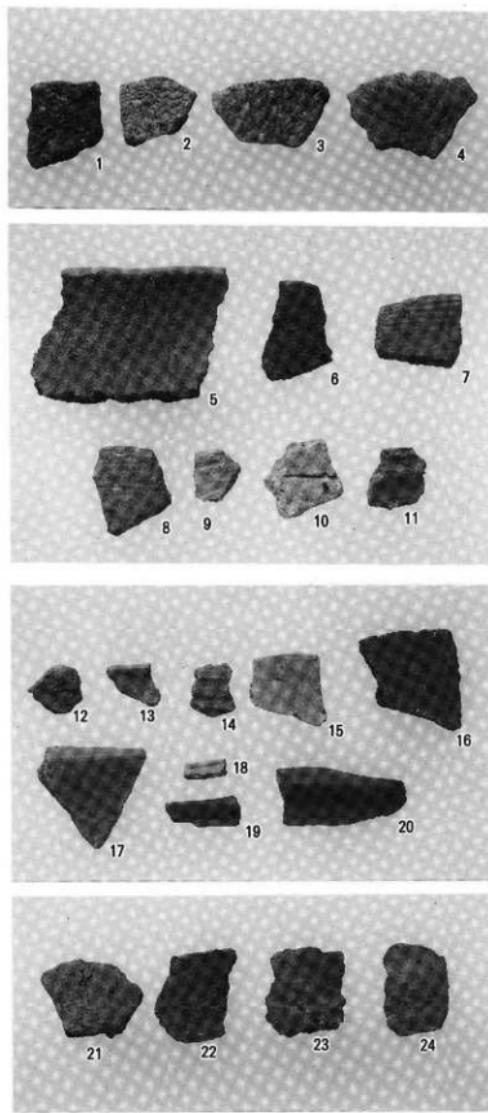
遺物番号	全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石 材	破損状況
1	1.9	1.6	0.45	0.9	黒曜石	脚部の一部
2	1.8	1.65	0.4	0.8	黒曜石(短島産)	先端と脚部の一部
3	2.0	1.8	0.45	1.3	チャート	先端の一部
4	1.45	2.0	0.4	0.7	チャート	先端と脚部の一部
5	—	—	—	—	黒曜石	脚部が一部遺存
6	1.95	—	0.4	—	チャート	半折損
7	2.5	—	0.5	1.3	チャート	脚部の一方折損
8	2.9	—	0.55	2.1	チャート	脚部の一方折損
9	2.35	—	0.35	1.0	チャート	脚部の一方折損
10	2.5	—	0.4	1.2	チャート	脚部の一方折損
11	2.25	1.4	0.4	1.2	チャート	
12	3.2	—	0.5	2.9	チャート	脚部の一方折損
13	3.5	3.0	0.45	3.1	砂岩か	先端の一部欠損
14	—	—	0.49	1.0	チャート	先端・脚部欠損
	2.45	1.45	0.6	2.4	チャート	
	1.9	0.95	0.25	0.5	黒曜石	
	1.45	1.35	0.4	0.7	チャート	

表2 石器計測表(第6図)

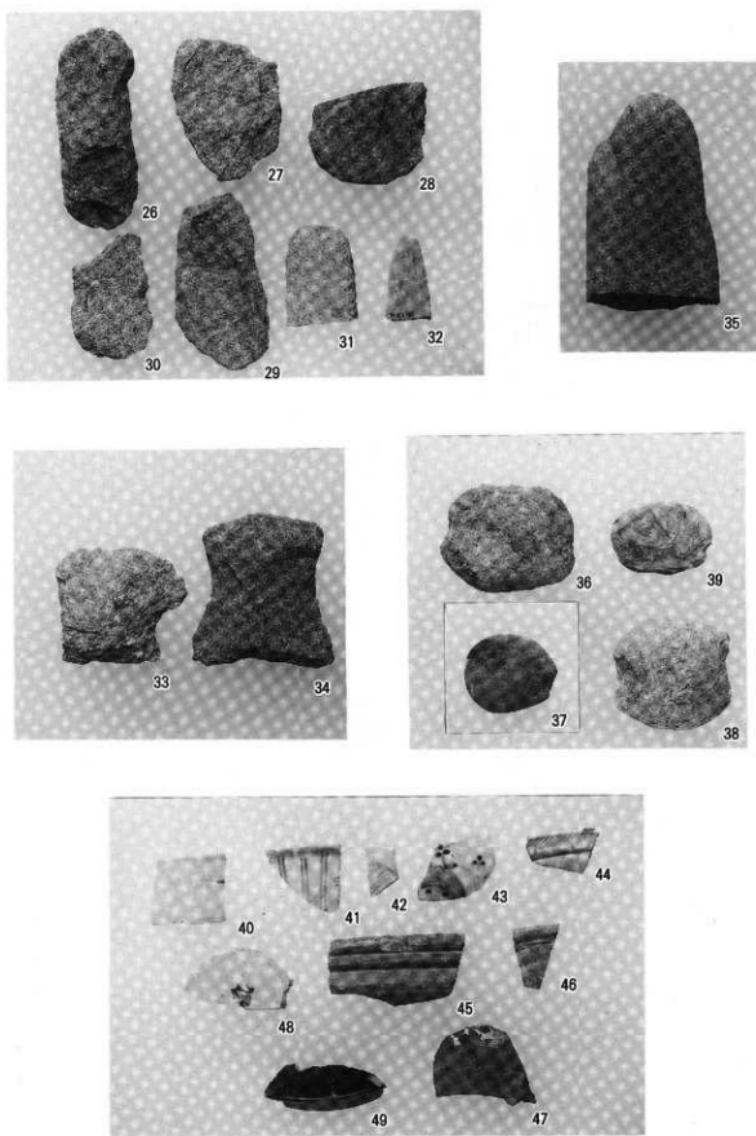
報告書番号	器種	全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石 材	備考
1	打製石鏃	2.7	1.8	0.4	1.4	チャート	脚部欠損
2	打製石鏃	3.2	2.4	0.55	1.6	チャート	脚部欠損
3	打製石鏃	3.2	2.6	0.45	2.7	頁岩	先端・脚部欠損
4	打製石鏃	3.05	2.1	0.35	1.8	チャート	
5	打製石鏃	1.5	1.5	0.35	0.6	チャート	脚部欠損
6	打製石鏃	1.4	1.5	0.3	0.3	黒曜石	脚部のみ
7	打製石鏃	1.6	1.9	0.2	0.5	チャート	剥片鏃
8	打製石鏃	1.45	1.45	0.25	0.4	チャート	先端部欠損
9	打製石鏃	1.8	1.85	0.4	1.0	流紋岩	脚部欠損
10	打製石鏃	1.15	1.35	0.3	0.4	チャート	
11	打製石鏃	2.2	1.25	0.5	1.25	チャート	トロトロ石器
12	打製石鏃	2.1	1.75	0.6	2.1	チャート	
13	尖頭器	2.87	2.27	0.9	5.5	チャート	
14	尖頭器	2.8	2.3	0.45	4.0	チャート	
15	尖頭器	3.35	3.05	1.0	18.0	チャート	
16	スクレイパー	3.2	6.1	1.25	14.0	頁岩	
17	磨石	8.9	8.4	4.2	370.0	砂岩	
18	調整剥片	8.6	2.8	1.2	20.0	頁岩	
19	石鏃	6.7	5.2	1.3	69.0	砂岩	
20	石鏃	6.1	5.2	1.6	60.0	緑色岩類	



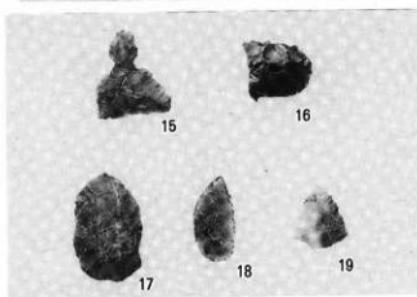
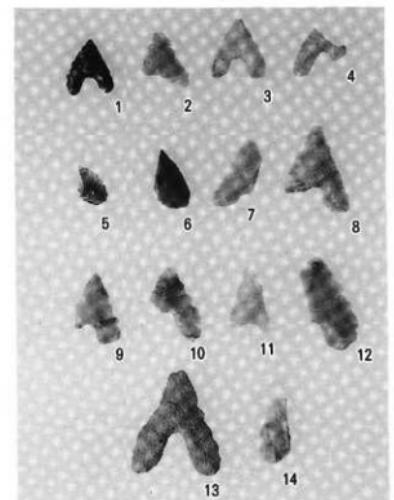
打削遺跡発掘区全景



出土遺物（1）



出土遺物（2）



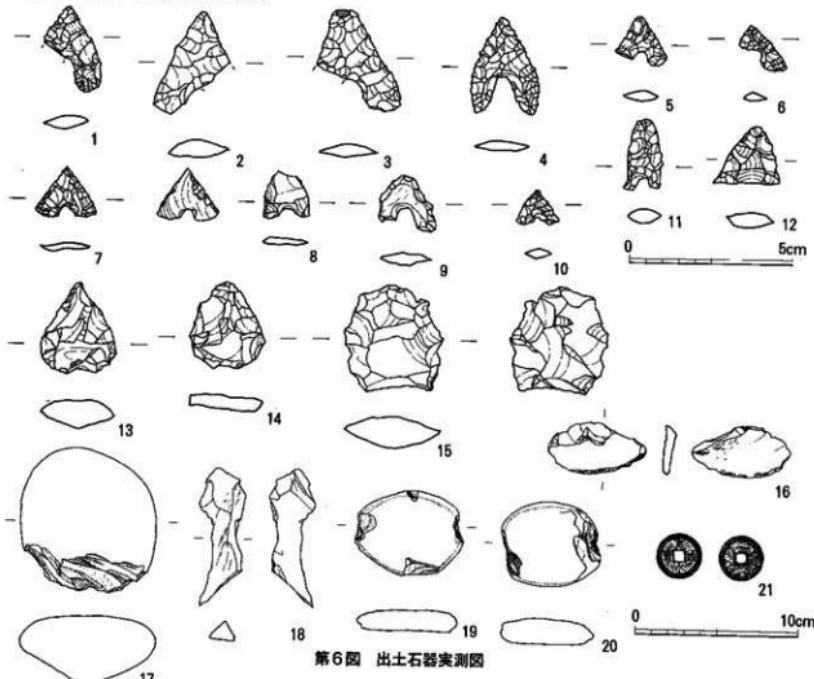
出土遺物（3）

## 第7節 打扁遺跡（2次調査）

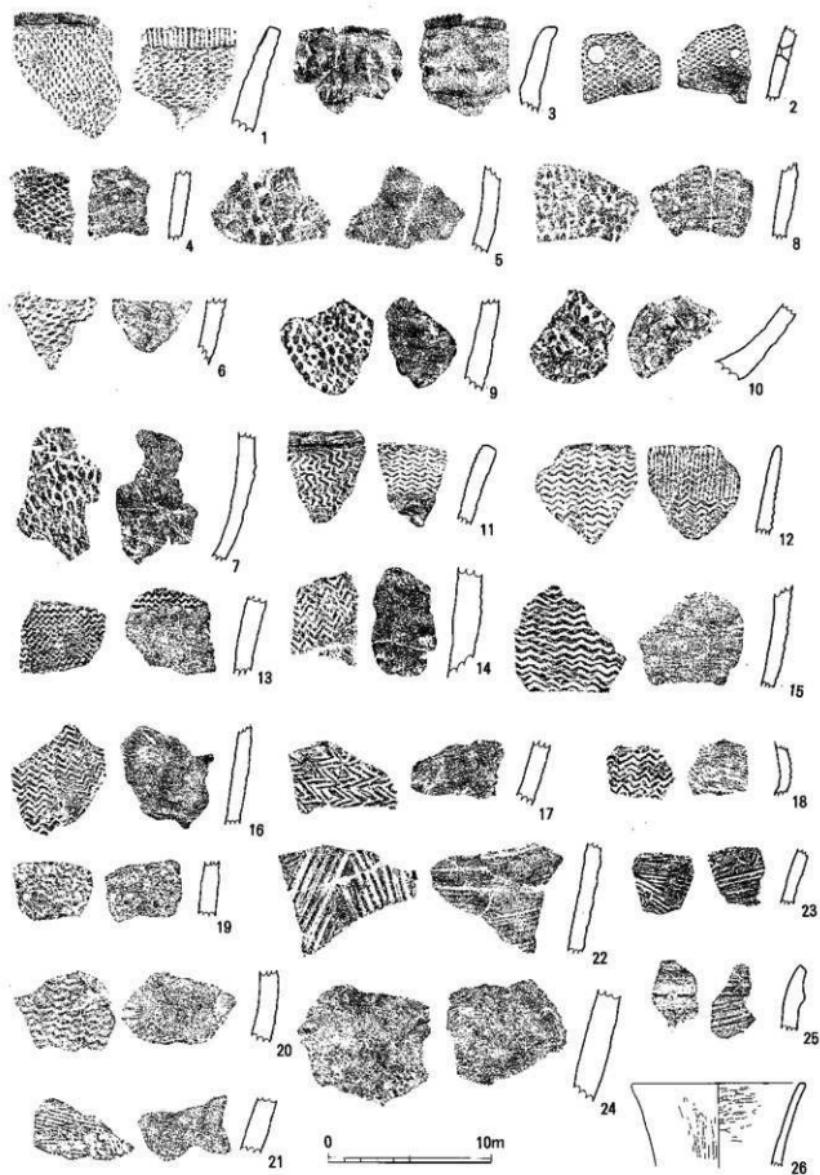
打扁第2遺跡は、宮崎県東臼杵郡北方町已900番地外に所在する遺跡である。A地区が打扁第1遺跡の南側に、B地区が東側に位置し、A地区は早日渡地区遺跡14区に隣接する。標高はA地区で約141m、B地区で約137mである。遺跡は九州山地の中を流れる五ヶ瀬川により作られた谷の北西斜面にあり、遺跡内の傾斜が激しい。現在の五ヶ瀬川からの比高差は約100m強である。

遺跡の発掘前の状況は段々畑であった。土層断面は北に向かって傾斜しており、I層が耕作土、II層が赤褐色硬質土でいわゆる水田の「床土」である。III層はこの遺跡を水田とする時にせられた盛り土である。IV層はアカホヤ層で遺跡の一部に残存するのみであった。V層は黄褐色土で縄文時代早期の遺物包含層である。炭化粒を含み、バサついた感触がある。VI層は黒褐色硬質土で炭化粒を含む。VII層は黄褐色粘質土でややバサつき気味でVI層のブロックを含む。VIII層は茶褐色粘質土で小砂利を含む。その色調は下部にいくにつれて明るくなる。IX層は明黄褐色粘質土で、質的には上層のVIII層に似ているが小砂利を含まず、やや軟らかい。

傾斜の激しい遺跡であり、遺構の確認は難しいと思われたが性格不明の土壌が1基確認された。遺構内からの遺物の出土は無いが、埋土から縄文時代早期の遺構と考えられる。遺物は縄文時代早期の押型文土器片を中心に出土した。石器はチャート製の石鏃が出土している。遺物は遺跡内の傾斜が激しいことから原位置をとどめてはいないと考えられる。



第6図 出土石器実測図



第7図 出土土器実測図

表3 土器観察表

図番号	出土地区	部 位	文 樣	調 整	色 調		胎土の特徴	備 考
					外器面	内器面		
1	A	口縁部	外面上に横円押型文 内面上に横体彫痕、 横円押型文	口唇部はヨコナデ 内外面ともにナデ	淡黄 褐灰	にぶい黄橙	砂粒を含む	内面炭化物付着
2	A	胴部	外面上に横円押型文 内面上に横円押型文	外面はナデ 内面上はヨコナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	長石を微量含む	穿孔
3	A	口縁部	外面上に粗大化した 横円押型文	口唇部はヨコナデ 内外面前方にカブレ、各面底 内面はヨコナデ	橙 灰褐	橙	長石を微量含む	
4	B	胴部	外面上に横円押型文	外面はナデ 内面上はヨコナデ	にぶい褐	黒褐	石英、長石、 角閃石を含む	
5	B	"	外面上に横円押型文	外面はナデ 内面上は○○○○○○	にぶい赤褐	にぶい橙 赤褐	石英、長石、角 閃石を微量含む	風化が激しい
6	A	"	外面上に横円押型文	外面はナデ 内面上は斜方向のナデ	浅黄橙	灰褐	石英、長石、角 閃石を微量含む	
7		"	外面上にやや粗大化 した横円押型文	外面はナデ 内面上は斜方向のナデ	にぶい橙	にぶい橙	石英、長石、角 閃石、雲母を含む	
8	B	"	外面上に横円押型文	内外面ともにナデ	にぶい橙	にぶい橙	石英、長石、角 閃石を微量含む	風化が激しい
9	A	"	外面上に横円押型文	外面はナデ 内面上はヨコナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	砂粒を含む	
10	A	底部付近	外面上に横円押型文 一部ナデ消し	外面はナデ、一部施文 ナデ消し 内面はヨコナデ、ナデ	橙	橙	石英、長石、角 閃石を微量含む	
11	A	口縁部	外面上に山形押形文 内面上に山形押形文	口唇はヨコナデ 内外面ともにナデ	褐灰	にぶい橙	石英、長石、 角閃石を含む	
12	B	"	外面上に山形押形文 内面上に山形押形文 の後に横体彫痕	内外面ともにナデ	浅黄橙 橙	明黄褐	砂粒を含む	
13	A	胴部	外面上に山形押形文 内面上に山形押形文	内外面ともにナデ	褐	橙	石英、長石、 角閃石を含む	
14	A	"	外面上に山形押形文	外面はナデ 内面上は斜方向のナデ 指痕痕	橙	橙	石英、長石、角 閃石、砂粒を含む	
15	A	"	外面上に山形押形文	外面はナデ 内面上はヨコナデ	褐 にぶい橙	にぶい橙	石英、長石を含む	
16	A	"	外面上に山形押形文 一部ナデ消し	外面はナデ、一部施文ナ デ消し 内面上はナデ、一部 工具による跡痕のナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	石英、長石、角 閃石を微量含む	
17	A	"	外面上に山形押形文	外面はナデ 内面上はヨコナデ	にぶい橙	橙	砂粒を含む	
18	B	"	外面上に山形押形文	外面はナデ 内面上はヨコナデ	にぶい黄橙 灰褐	浅黄 橙	きめ細か	
19	B	"	外面上に山形押形文	外面はナデ 内面上は風化著しい	明黄褐	浅黄	石英、長石、角 閃石を微量含む	風化が激しい
20	B	"	外面上に山形押形文	外面はナデ 内面上は斜方向のナデ	明赤褐 暗赤褐	黑褐 浅黄	石英、長石、角 閃石を微量含む	風化が激しい
21	A	"	——	外面は横方向の貝殻 彫痕 内面上はナデ	橙 黄橙	灰褐 褐	石英、長石、角 閃石を多量含む	
22	B	"	内外面 貝殻条痕文	外面は貝殻彫痕 内面上は横・斜方向の貝 殻条痕	にぶい橙 にぶい褐	にぶい橙	砂粒を含む	
23	A	口縁付近	——	外面は横・斜方向の貝 殻条痕 内面上は横方 向の貝殻条痕	黑褐	浅黄	長石、石英を含む	外面 スス付着
24	A	胴部	——	内外面ともにナデ	明赤褐	明赤褐	石英、長石、角 閃石を微量含む	
25	A	口縁部	外面に貼付突帯	U形突帯はヘリ状工具による ヨコナデ 外面上はヨコナデ 内面上は斜方向の貝殻条痕	明赤褐	明赤褐	石英、長石、角 閃石を微量含む	繩文晚期
26	A	口縁部	——	口縁はヨコナデ 外面上はヨコナデ、斜方向のミ ガキ 内面上は横方向のミ ガキ	橙 明黄橙	浅黄橙	砂粒を微量含む	弥生時代後期

# 早 日 渡 遺 跡

## 第Ⅲ章 早日渡遺跡の調査

### 第1節 調査区の設定と概要

早日渡遺跡（北方町已 174字馬場園）は、北方町の中心から北東へ約 5.6km 離れた五ヶ瀬川右岸の九州山地地域の五ヶ瀬峠の阿蘇溶結岩台地の丘陵地（標高約 107m、比高 77m）に位置する。

平成 2 年 1 月 16 日～3 月 31 日に発掘調査を行った。まず A-1～5 区の試掘調査を行い、A-1 区と 5 区に  $2 \times 4$ m のトレンチをそれぞれ 2 本、A-3 区と 4 区に各 1 本入れた。その結果を踏まえて、A-2～4 区と B 区に  $5 \times 5$ m のグリッドを磁北方向に設定し、 $1,410\text{m}^2$  の面積を本調査した。A-2～4 地区 ( $320\text{m}^2$ ) ではアカホヤ下層の縄文早期の土器としては、楕円押型文土器・山形押型文土器・撚糸文土器・縄文土器・条痕文土器が出土した。石器としては打製石器・磨石などが出土した。同時期の遺構としては集石遺構が 5 基検出された。アカホヤ上層ではピットが検出されたが、掘立柱建物は建たなかった。B 地区  $1,090\text{m}^2$  では土鍤が出土し、竪穴状遺構が 1 検出されたが、掘立柱建物は検出されなかった。

### 第2節 包含層の状態

当遺跡の基本層序は、第 I 層がぶい褐色土層 (Hue 7.5YR 5/4・水田)、第 II 層が褐色土層 (Hue 7.5YR 4/3・アカホヤ粒子混じり)、第 III 層がぶい褐灰色土層 (Hue 7.5YR 4/2)、第 IV 層が褐灰色土層 (Hue 7.5YR 4/3・アカホヤブロック混じり)、第 V 層が黄褐色土層 (Hue 10YR 5/6・アカホヤ層)、第 VI 層が黒褐色土層 (Hue 7.5YR 3/1)、第 VII 層が褐色土層 (Hue 7.5YR 4/6)、第 VIII 層が明褐色土層 (Hue 7.5YR 5/8) である（第 2 図）。遺物はアカホヤ層下の第 VI 層と第 VII 層から出土している。

### 第3節 縄文時代早期の遺構と遺物

アカホヤ層下層の VII 層（明褐色土層）上面で集石遺構が 5 基検出され、楕円押型文・山形押型文・格子目押型文・貝殻条痕文土器が出土した（第 3 図）。IV 層（アカホヤ層）上面（第 2 図）では遺構は検出されず、また包含層としても残存しておらず、前期以降の土器も出土していない。

#### (1) 集石遺構（第 4 図）

集石遺構は A-4 区で 5 基検出された。

S I 1

S I 1 は A-4 区に位置し、長径 78cm、短径 62cm、深さ 6cm の楕円形のプランの土壤に、長径 84cm、短径 78cm の範囲に焼石が集中している。中央部に平らな石を 7 枚配置している。

S I 2

S I 2 は A-4 区に位置し、長径 105cm、短径 98cm、深さ 27cm の楕円形のプランの土壤に、長径 113cm、短径 107cm の範囲に焼石が集中している。

S I 3

S I 3 は A-4 区に位置し、長径 108cm、短径 101cm、深さ 9cm の楕円形のプランの土壤に、長径 128cm、短径 113cm の範囲に焼石が集中している。

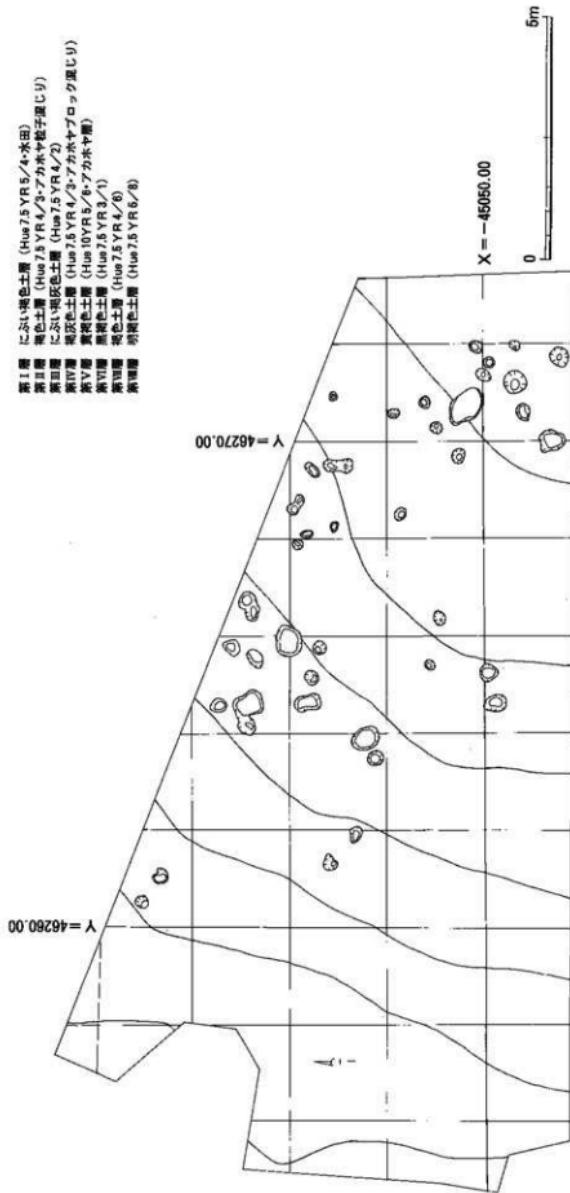
S I 4

S I 4 は A-4 区に位置し、長径 94cm、短径 88cm、深さ 10cm の楕円形のプランの土壤に、長径 99cm、

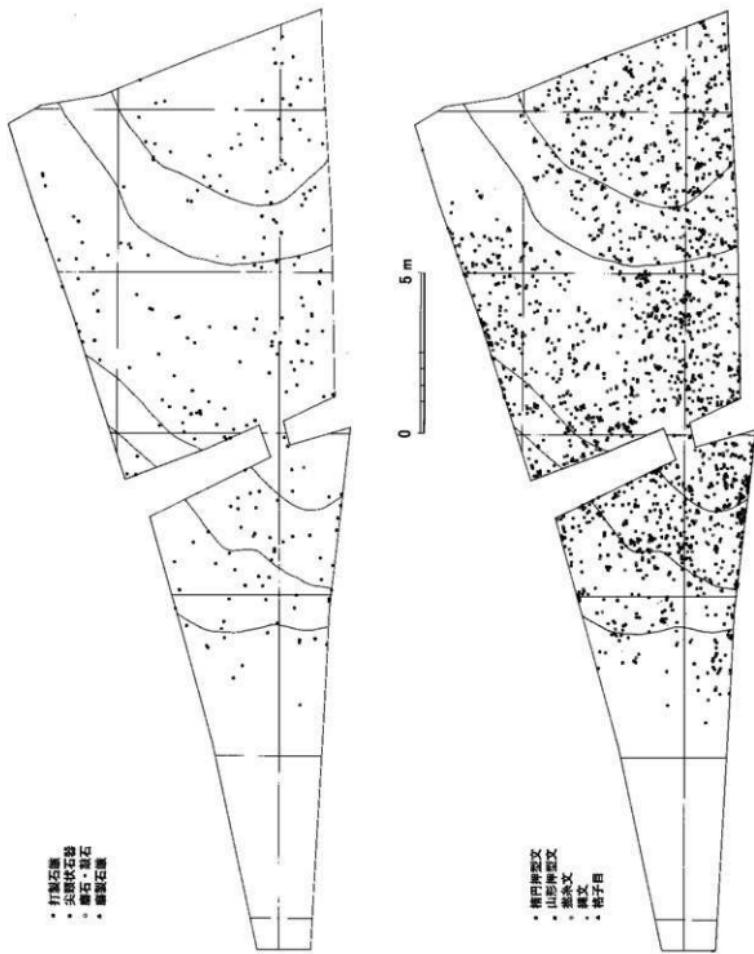
第1図 調査区位置図 (1 : 2,000)

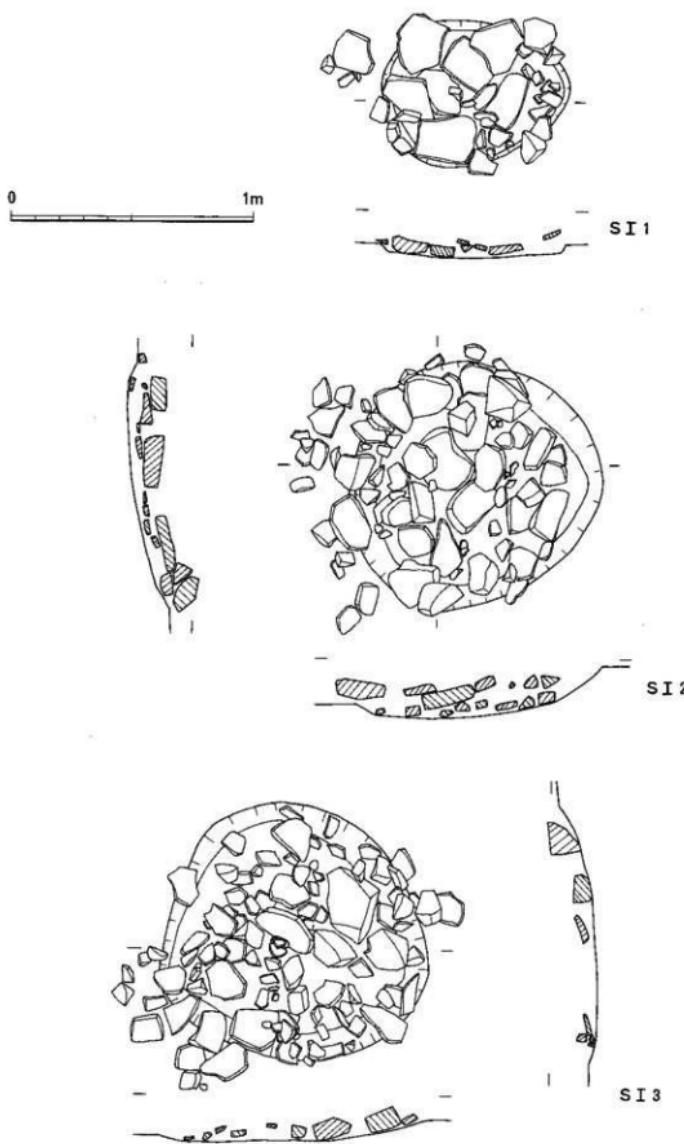


第2図 土壌図・A-2区地盤分布図(アカホヤ上面)



第3图 A-4区绳文土器·石器出土状况图





第4図 集石造構実測図

短径97cmの範囲が焼石に集中している。

(2) 繩文土器 (第5~22図)

早期の土器群は楕円・山形などの回転施文による押型文土器を中心として、撚糸文・縄文・沈線文・刺突文・条痕文などの土器がある。ここでは文様によって次のように分類する。

I類 楕円押型文土器 (第5~7・10~14図)

I a類 (第5図1~2、第10図107~110)

表面には横あるいは斜方向の楕円押型文を、内面には横方向の楕円押型文を施し、口縁部は外反する。口唇部には施文原体を押圧している1類 (107~110) としていない2類 (1~2) がある。

I b類 (第5図3~7、第10図111~117、第11図118~124・126、第12図127~137・139、第13図140~148)

表面には縦方向の楕円押型文を、内面には横方向の楕円押型文を施し、口縁部は外反する。口唇部には施文原体を押圧している1類 (3~4・111~124) としていない2類 (5~7・126~137・139~148) がある。

I c類 (第5図8~12、第13図149~152)

表面には口縁部の無文帯の下位に縦方向の楕円押型文を、内面には横方向の楕円押型文を施し、口縁部は外反する。

I d類 (第5図13~15、第14図164)

表面には縦方向の楕円押型文を、内面にはヨコナデを施し、口縁部は外反する。口唇部には施文原体を押圧している。

I e類 (第5図16)

表面には横方向の楕円押型文を、内面には横走沈線文を施し、口縁部は外反する。口唇部には施文原体を押圧している。

I f類 (第5図17~20、第13図153~154・156)

表面には横あるいは斜・縦方向の楕円押型文を、内面には原体条痕の下位に横方向の楕円押型文を施している。156の内面には原体条痕の下位に横方向の列点文を施している。

I g類 (第13図155)

表面には口縁部の無文帯の下位に横方向の楕円押型文を、内面には原体条痕の下位に横方向の楕円押型文を施し、口縁部は外反する。

I h類 (第5図21、第6図25~26、第13図157~162、第14図163~173)

表面には横あるいは縦方向の楕円押型文を、内面には原体条痕を施し、口縁部は外反する。

I i類 (第5図22~23)

表面には口縁部の無文帯の下位に縦方向の楕円押型文を、内面には原体条痕を施し、口縁部は外反する。

I j類 (第6図27~35~37、第14図167~172)

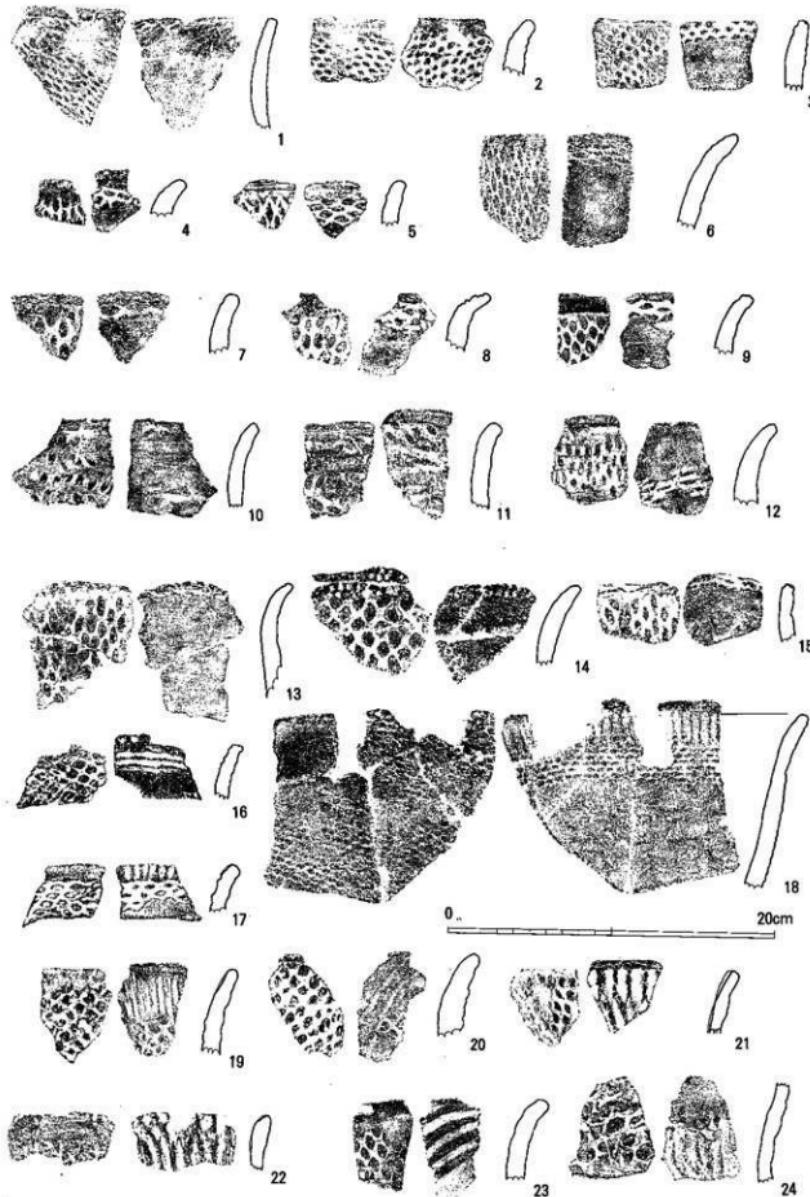
表面には横・斜方向の楕円押型文を、内面にはヨコナデを施し、口縁部は外反する。171の口唇部には施文原体を押圧している。

I k類 (第6図28~30、第14図165~166)

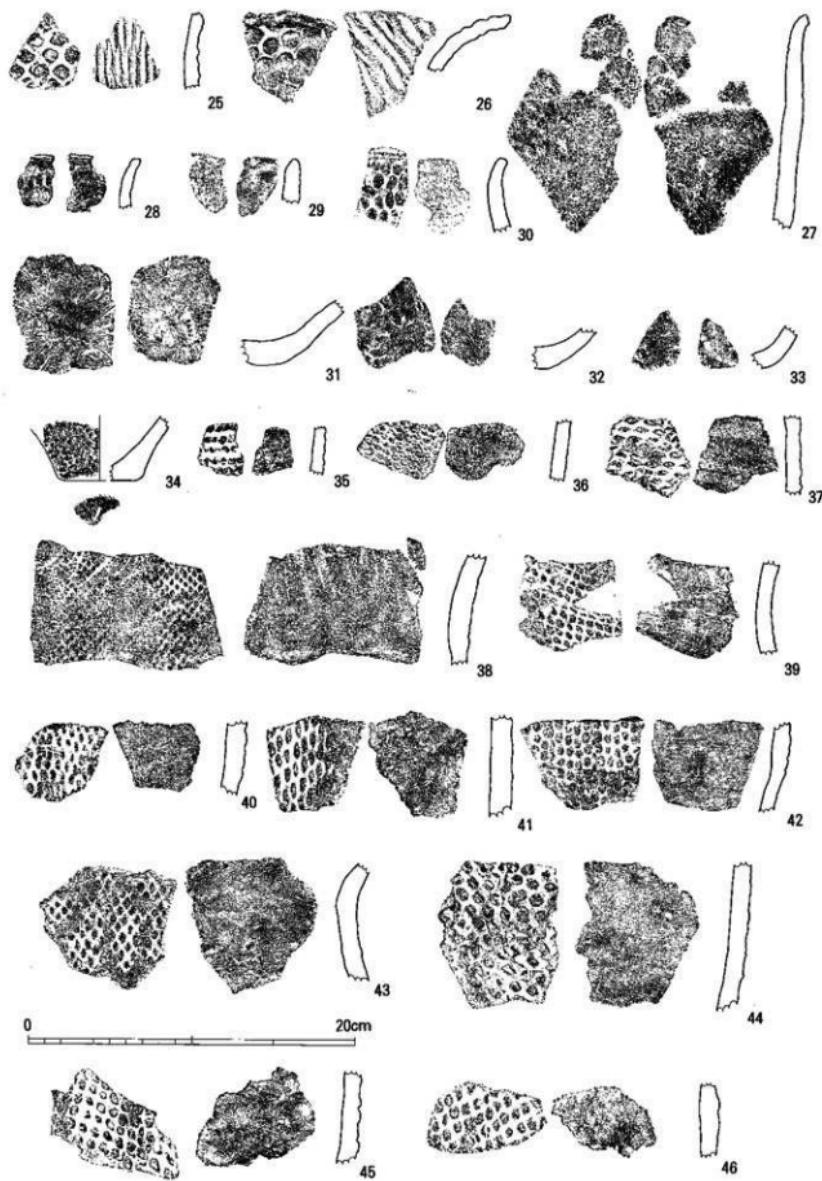
表面には縦方向の楕円押型文を、内面にはヨコナデを施し、口縁部は外反する。

I l類 (第14図174~175)

表面には口縁部の無文帯の下位に縦方向の楕円押型文を、内面にはヨコナデを施し、口縁部は外反



第5図 楽文土器実測図(1) 1~24



第6図 純文土器実測図(II) 25~46

する。175の口唇部には施文原体を押圧している。

胸部（第6図35～46、第7図47～49、第14図174・175）

35～37・49は横方向の楕円押型文であるのに対して、38～48は横方向の楕円押型文である。

181・184は表面には縦方向の楕円押型文を、内面土器にはナデを施し、円形穿孔を1個有する。

底部（第6図31～34・第14図186～190）

31～33・187は楕円押型文の丸底であるのに対して、34・189・190は平底である。190は木の葉底である。

II類 山形押型文土器（第7・8・15～18図）

楕円押型文の分類に従い、これを分類する。

II a類（第15図191、第16図195、第17図213・214、第18図236）

表面には横あるいは斜方向の山形押型文を、内面には横方向の山形押型文を施し、口縁部は外反する。口唇部には施文原体を押圧している1類（191・195）としていない2類（213・214・236）がある。

II b類（第7図50～57、第15図192・193、第16図194・197～202、第17図203・205～208・210・212・215～220）

表面には縦方向の山形押型文を、内面には横方向の山形押型文を施し、口縁部は外反する。口唇部には施文原体を押圧している1類（192～194・197～203・205～208・210・212）としていない2類（50～57・215～220）がある。209の口縁部内面は無文帯の下位に横方向の山形押型文を施し、口唇部には施文原体を押圧している。235の口縁部内面は無文帯の下位に横方向の山形押型文を施しているが、口唇部に施文原体を押圧していない。

II c類（第17図204）

表面には口縁部の無文帯の下位に縦方向の山形押型文を、内面には横方向の楕円押型文を施し、口縁部は外反する。

II d類（第18図226）

表面には縦方向の山形押型文を、内面にはヨコナデを施し、口縁部は外反する。226は口唇部には施文原体を押圧している。

II e類（第7図62～67、第8図68～70、第18図227・230・231）

表面には横あるいは斜・縦方向の山形押型文を、内面には原体条痕の下位に横方向の山形押型文を施している。231は口唇部に沈線を有する。

II f類（第18図228・229）

表面には口縁部の無文帯の下位に横方向の山形押型文を、内面には原体条痕の下位に横方向の山形押型文を施し、口縁部は外反する。

II g類（第7図60・61）

表面には横あるいは縦方向の山形押型文を、内面には原体条痕を施し、口縁部は外反する。

II h類（第18図232）

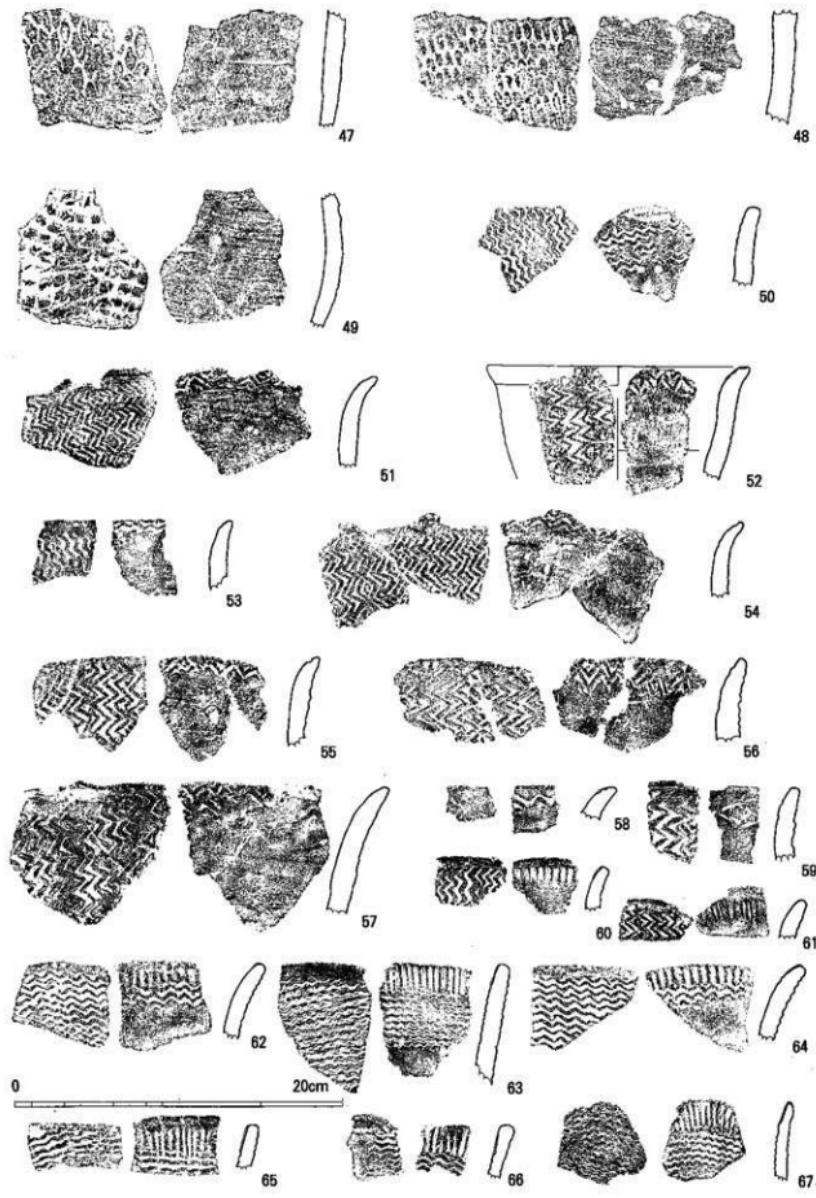
表面には横・斜方向の山形押型文を、内面にはヨコナデを施し、口縁部は外反する。

II i類（第18図233）

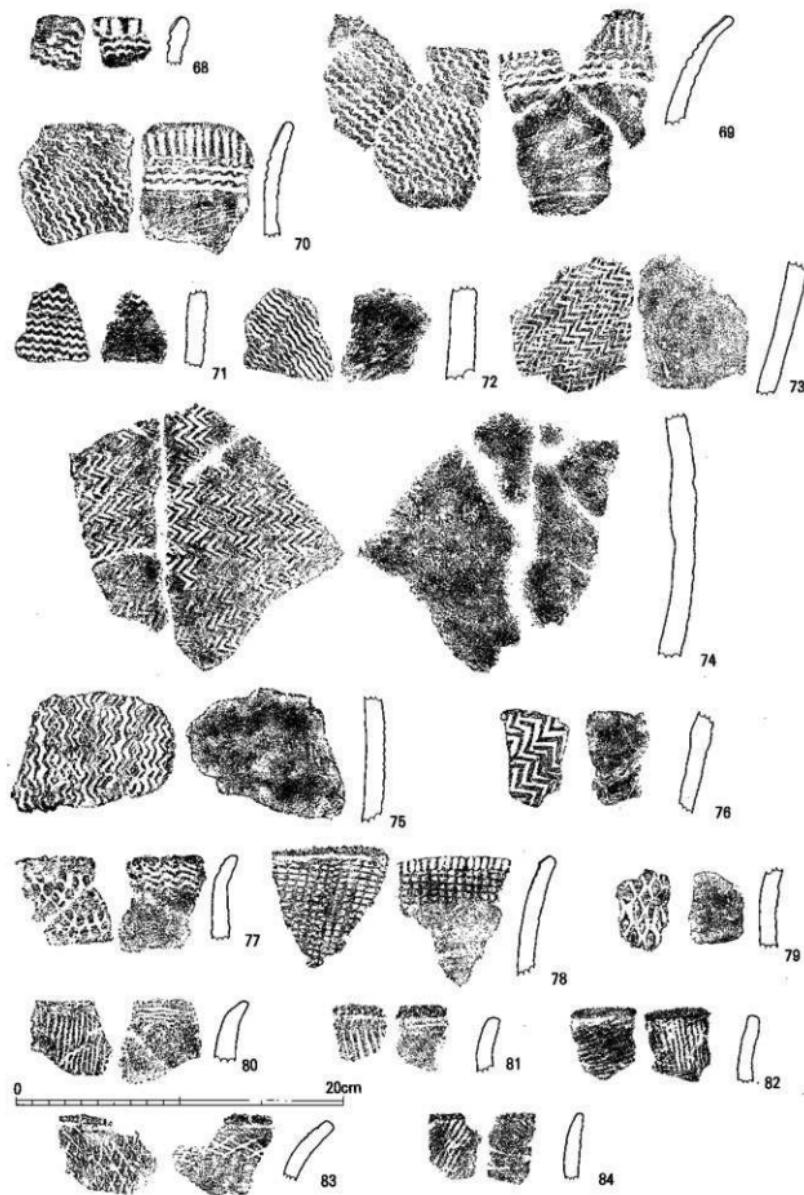
表面には縦方向の楕円押型文を、内面にはヨコナデを施し、口縁部は外反する。

II j類（第18図234）

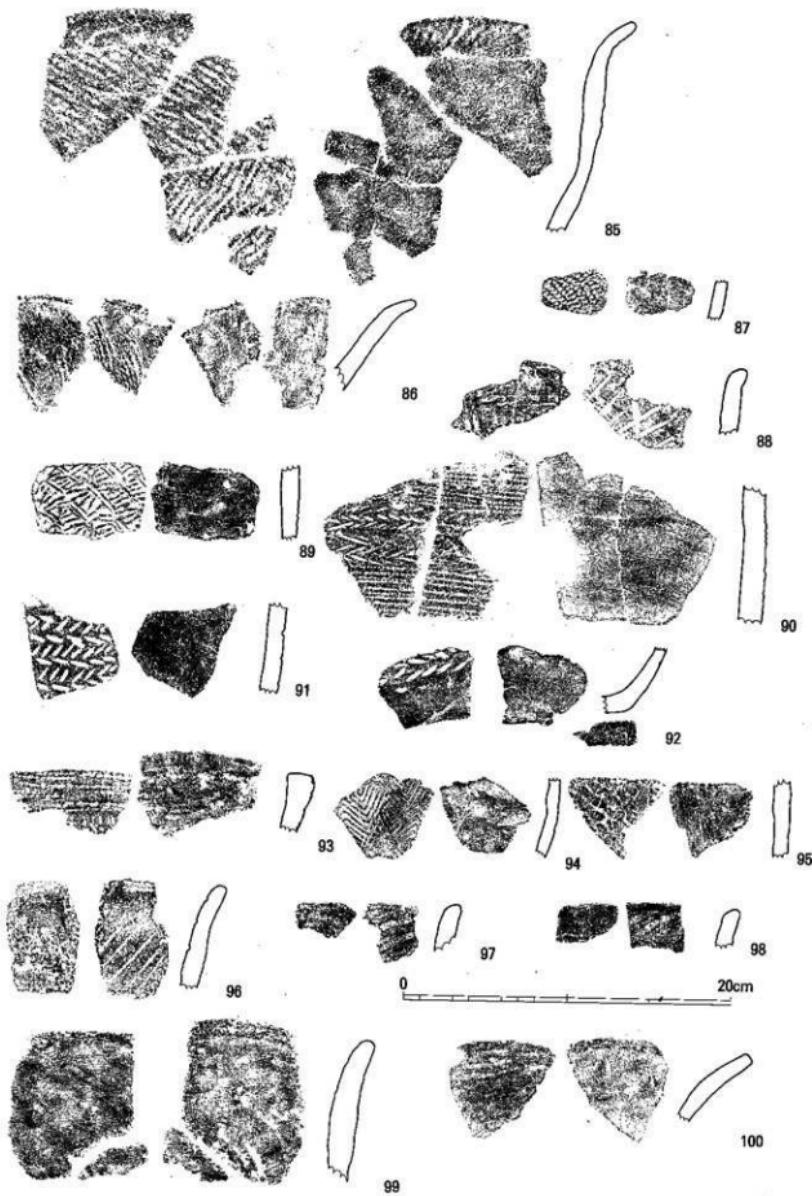
表面には口縁部の無文帯の下位に縦方向の山形押型文を、内面にはヨコナデを施し、口縁部は外反する。



第7図 繩文土器実測図(Ⅲ) 47~67



第8図 繩文土器実測図(IV) 68~84



第9図 縄文土器実測図(V) 85~100

洞部（第8図71～76・第18図237～241）

71・237・239は横方向の山形押型文、73～76・238・240は縦方向の山形押型文、241は斜方向の山形押型文を施している。

底部（第18図242～244）

242・243は縦方向の山形押型文を施した丸底の底部である。

### III類 2種類の施文原体が使用される変形押型文（第8・18図）

III a類（第8図77、第18図245～247）

表面には縦方向の山形押型文を、内面には横方向の山形押型文を施し、口縁部は外反する。口唇部には施文原体を押圧している1類（247）としていない2類（77・247）がある。

III c類（第18図245）

表面には口縁部の無文帶の下位に縦方向の山形押型文を、内面には横方向の梢円押型文を施し、口縁部は外反する。

### IV類 格子目押型文土器（第8・18・19図）

IV a類（第19図251）

表面には格子目押型文を、内面には格子目押型文を施し、口縁部は外反する。口唇部には施文原体を押圧している。

IV b類（第18図249、第19図250）

表面には口縁部の無文帶の下位に格子目押型文を、内面には格子目押型文の下位に列点文を施し、口縁部は外反する。

IV c類（第8図78）

表面には格子目押型文を、内面には原体条痕の下位に格子目押型文を施し、口縁部は外反する。

IV d類（第19図254・255）

表面には格子目押型文を、内面には原体条痕を施し、口縁部は外反する。

### V類 摺糸文土器（第8・19・20図）

梢円押型文の分類に従い、これを分類する。

V a類（第8図82、第19図256・257・260・263・265）

表面には横あるいは斜方向の摺糸文を、内面には横あるいは縦方向の摺糸文を施し、口縁部は外反する。口唇部に摺糸文を施している1類（256・257）としていない2類（82・260・263・265）がある。

V b類（第8図80、第19図259・262・264・267・269）

表面には縦方向の摺糸文を、内面には横あるいは斜方向の摺糸文を施し、口縁部は外反する。口唇部に摺糸文を施している1類（259・267・269）としていない2類（80・81・262・264）がある。

V c類（第19図261、第20図268）

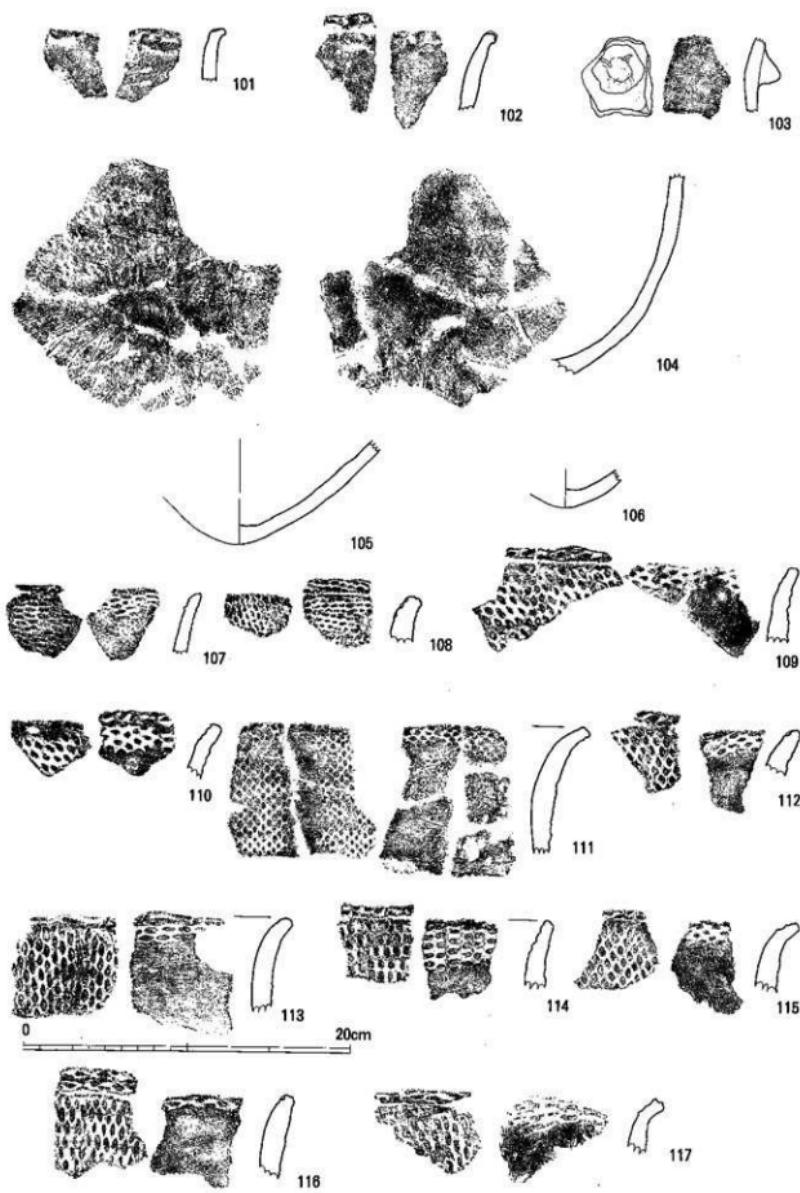
表面には口縁部の無文帶の下位に縦・斜方向の摺糸文を、内面には横・斜方向の摺糸文を施し、口縁部は外反する。268の口縁部の内面は無文帶の下位に斜方向の摺糸文を施している。

V d類（第19図258、第20図278～280・283・285・292）

表面には縦方向の摺糸文を、内面にはヨコナデを施し、口縁部は外反する。口唇部に摺糸文を施している1類（278～280・283）としていない2類（258・285・295）がある。

V j類（第20図281・282・286・287・289）

表面には横・斜方向の摺糸文を、内面にはヨコナデを施し、口縁部は外反する。口唇部には摺糸文を施している1類（281・282）としていない2類（286・287・289）がある。



第10図 縄文土器実測図 (VI) 101~117

V 1類 (第20図 288・290・291・294)

表面には口縁部の無文帶の下位に縦・斜方向の撚糸文を、内面にはヨコナデを施し、口縁部は外反する。口唇部には撚糸文を施している1類(294)としていない2類(288・290・291)がある。

V m類 (第8図83、第20図 271~277)

271に代表されるように表面には縦あるいは斜方向の網目状の撚糸文を、内面には横方向の網目状の撚糸文を施し、口縁部は外反する。丸底の底部はナデを施している。272のように細かい網目状撚糸文と271のように粗いものがある。なお272の口縁部は直口気味である。276・277は副部片である。

VI類 繩文土器 (第20・21図)

VI a類 (第20図 295~297、第21図 298・299)

表面には斜方向の繩文を、内面には斜方向の繩文を施し、口縁部は外反する。295・297・299は口唇部に繩文を施している。

VI b類 (第21図 300)

表面には横方向の繩文を、内面には縦方向の繩文を施し、口縁部は外反する。

VI c類 (第21図 301~303)

表面には縦方向の繩文を、内面にはヨコナデを施し、口縁部は外反する。口唇部に繩文を施している1類(302)としていない2類(301・303)がある。

VI d類 (第9図86・87)

表面には斜方向の繩文を、内面にはナデを施し、口縁部は外反する。

VI e類 (第21図 304)

表面には斜方向の繩文を、内面には列点文を施し、口縁部は外反する。

胸部 (第21図 305~312)

305~312は縦あるいは斜方向の繩文を施している。

底部 (第21図 313・314)

314が丸底であるのに対して、313は平底気味の丸底である。

VII類 刺突文・叩き状・押圧文系の文様のある土器である (第21図 320)。

320は内外面とも斜方向の沈線文を施している。

VIII類 同一土器面に沈線文・繩文・押引文・刺突文などの文様が組み合う土器である (第21図 324・

第22図 325)。

321は縦方向の山形押型文と縦方向の繩文を施した。324は沈線と貝殻腹縁刺突文の組み合わせである。

IX類 条痕文土器 (第22図 327)

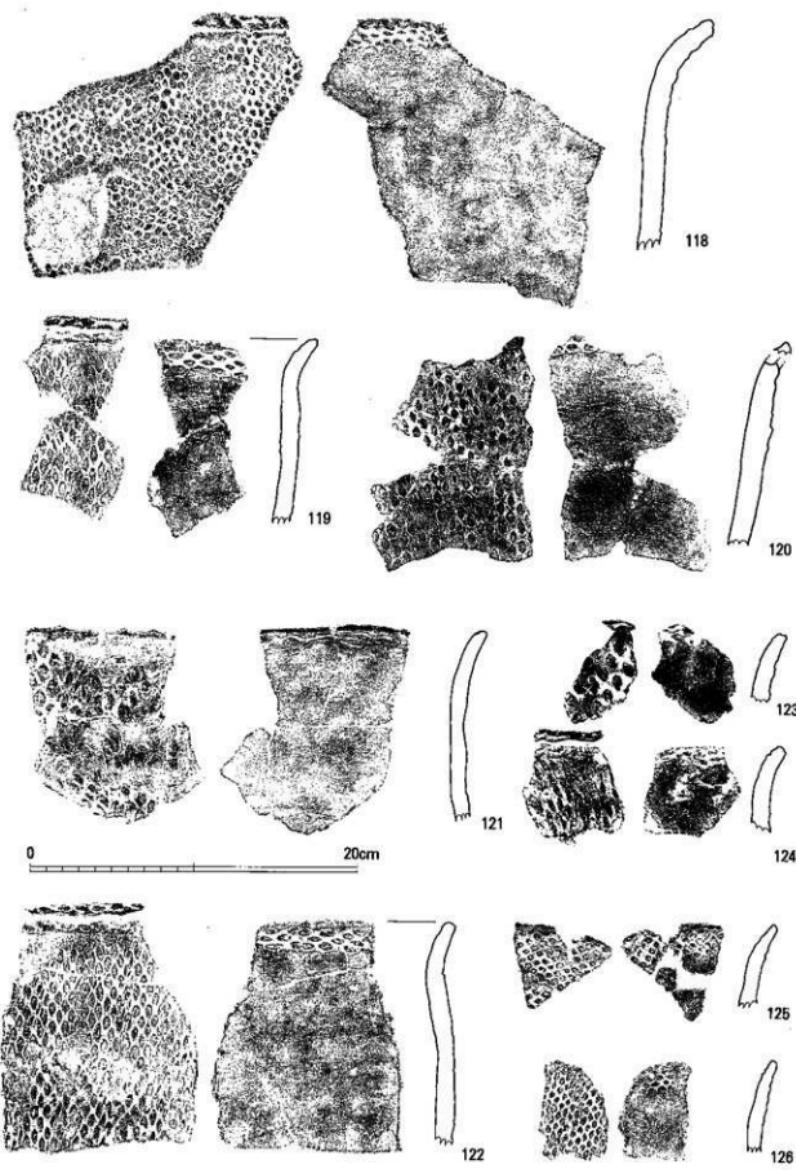
327は横方向の貝殻条痕を施している。

X類 無文土器 (第10図 102、第22図 329~331・335・336)

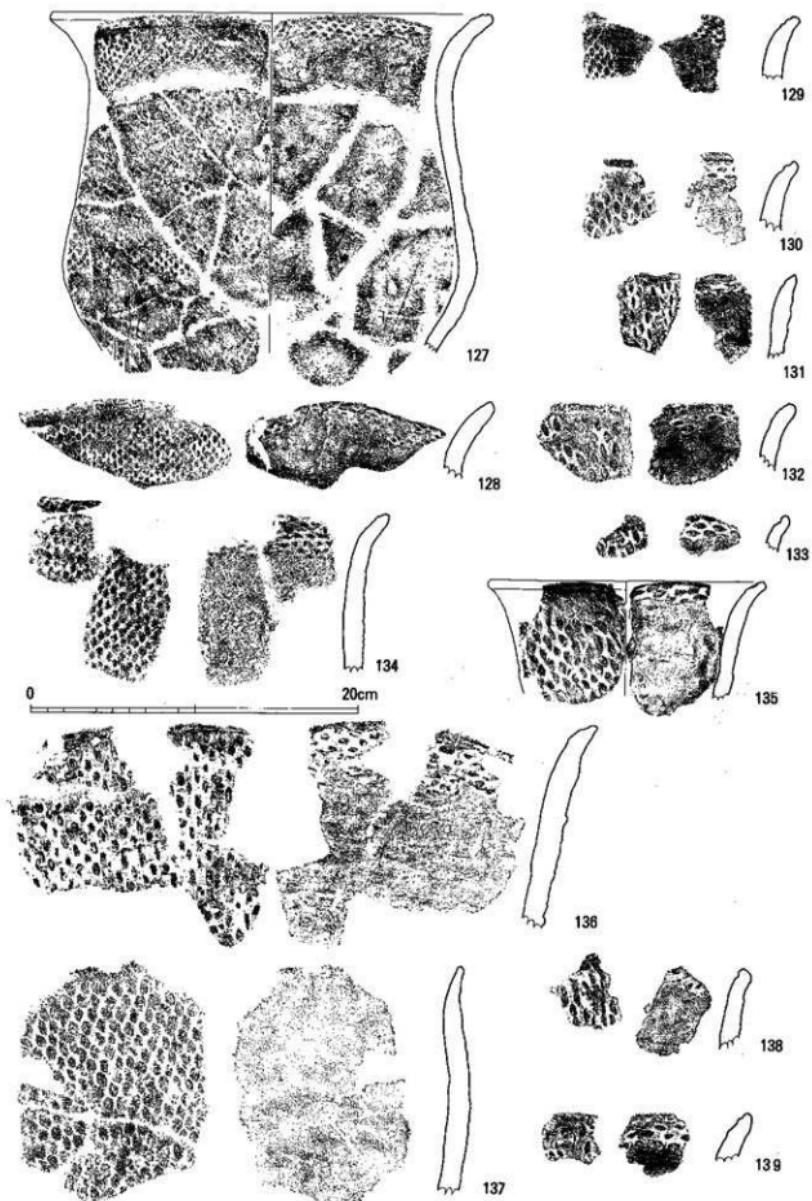
331・335・336は内面に原体条痕を施した外反する口縁部である。329・330は内外面とも無文の外反する口縁部である。102は口縁部外面に粘土瘤を付けた土器で、内外面ともナデを施している。

底部 (第22図339~341)

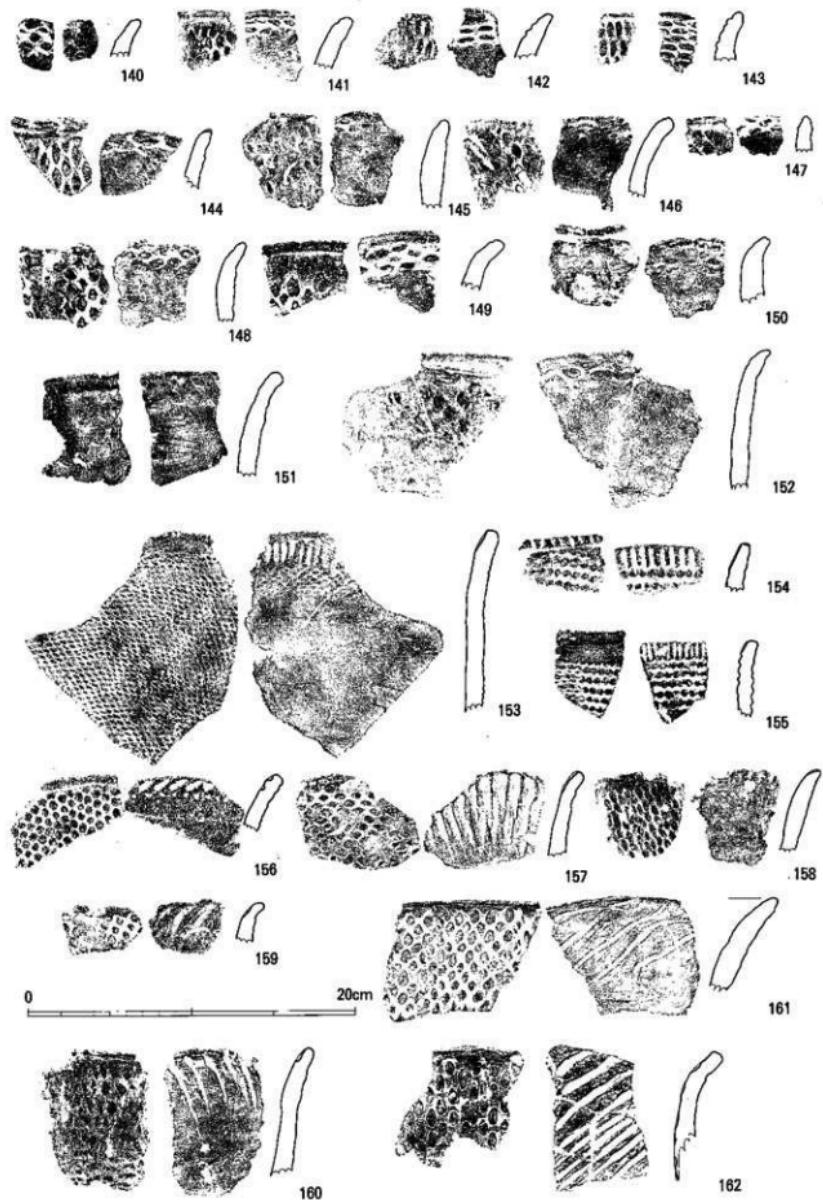
339が丸底であるのに対して、340・341は平底である。



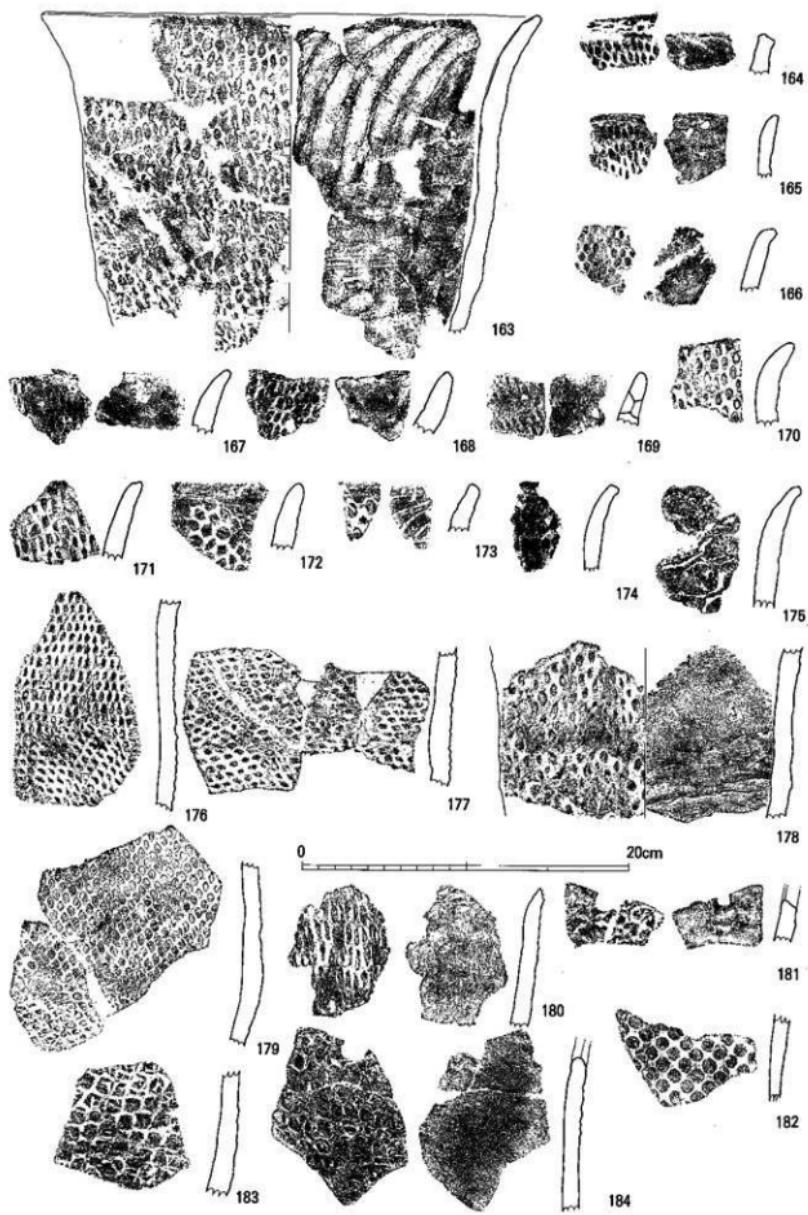
第11図 繩文土器実測図（VII） 118～126



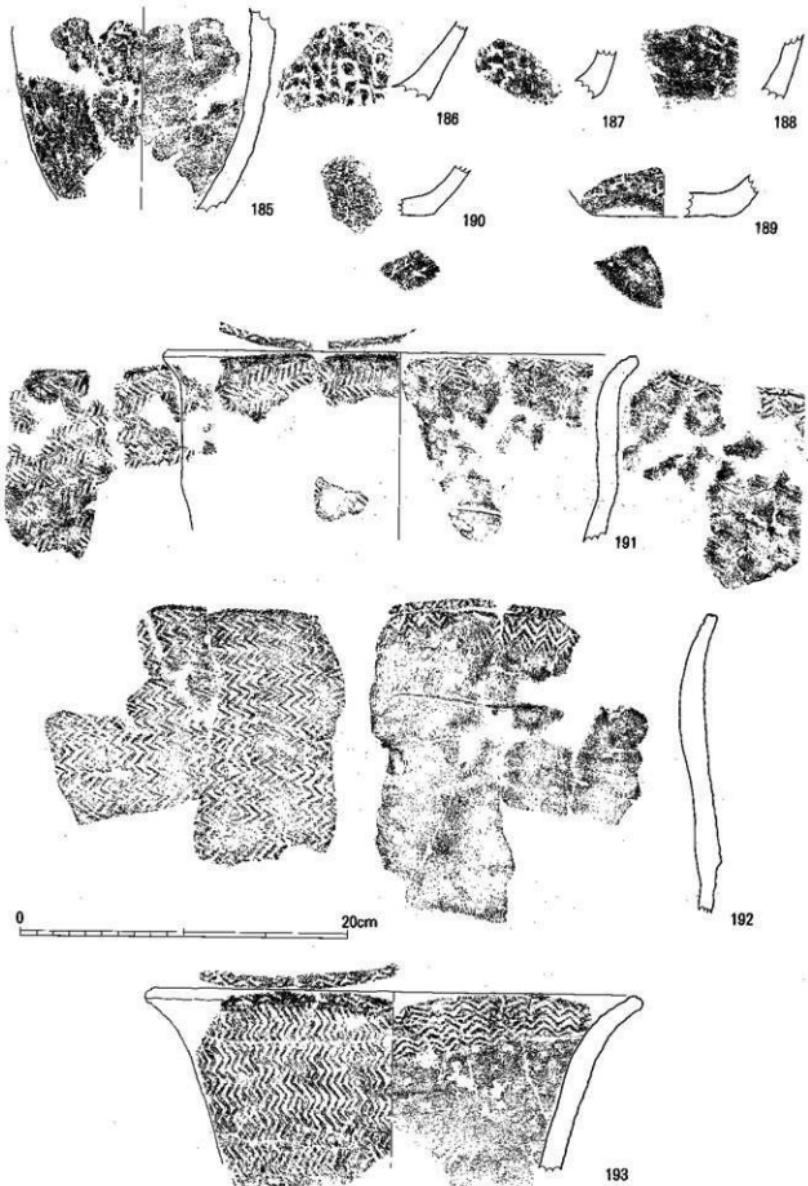
第12図 繩文土器実測図 (III) 127~139



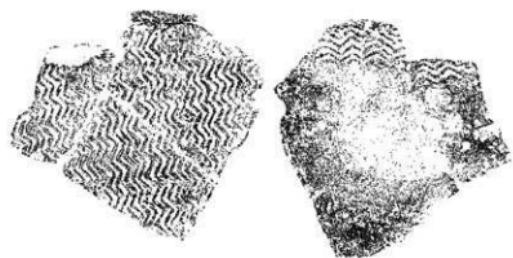
第13図 漢文土器実測図 (IX) 140~162



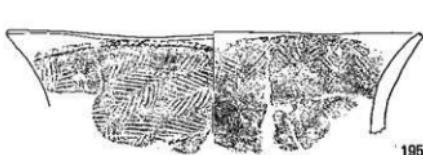
第14図 槌文土器実測図（X） 163～184



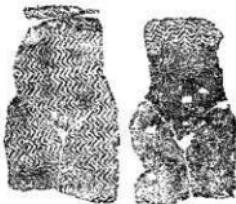
第15図 繩文土器実測図 (XI) 185~193



194



195



196



197

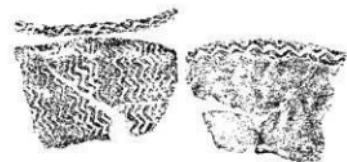


198

199

200

201

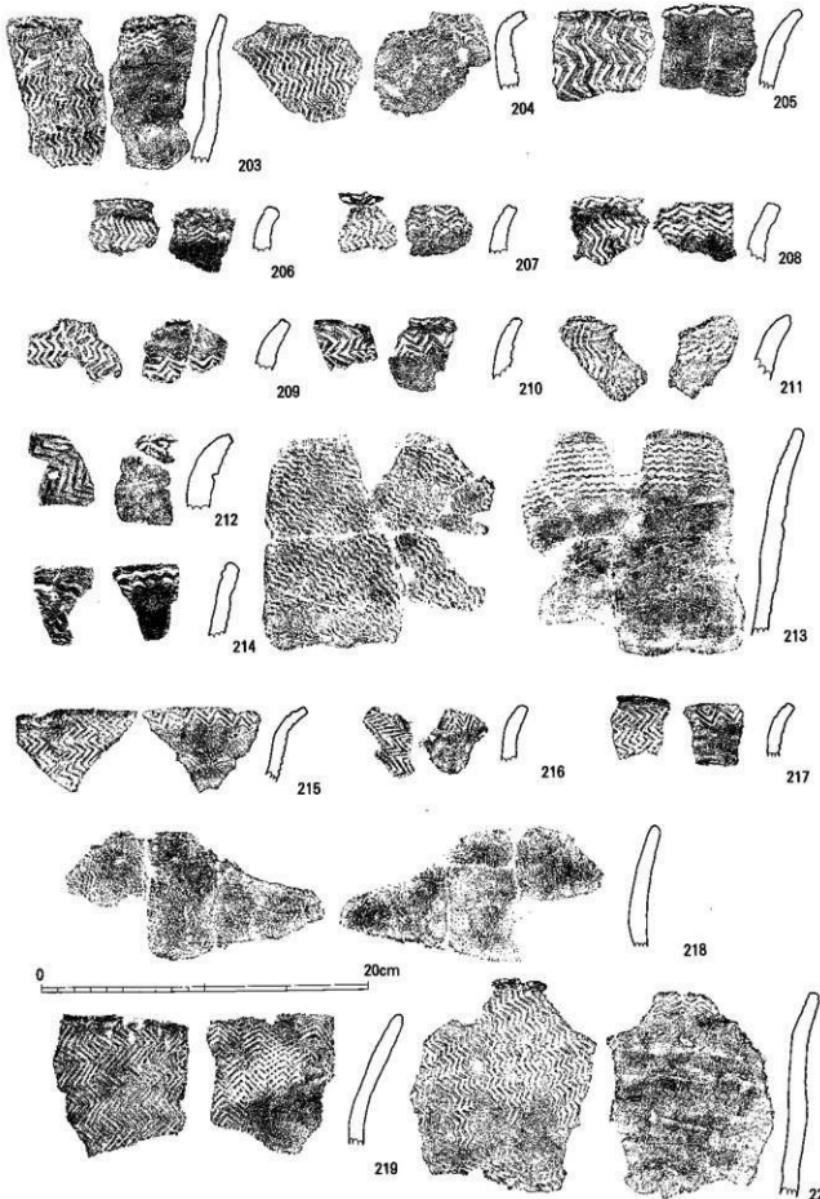


202

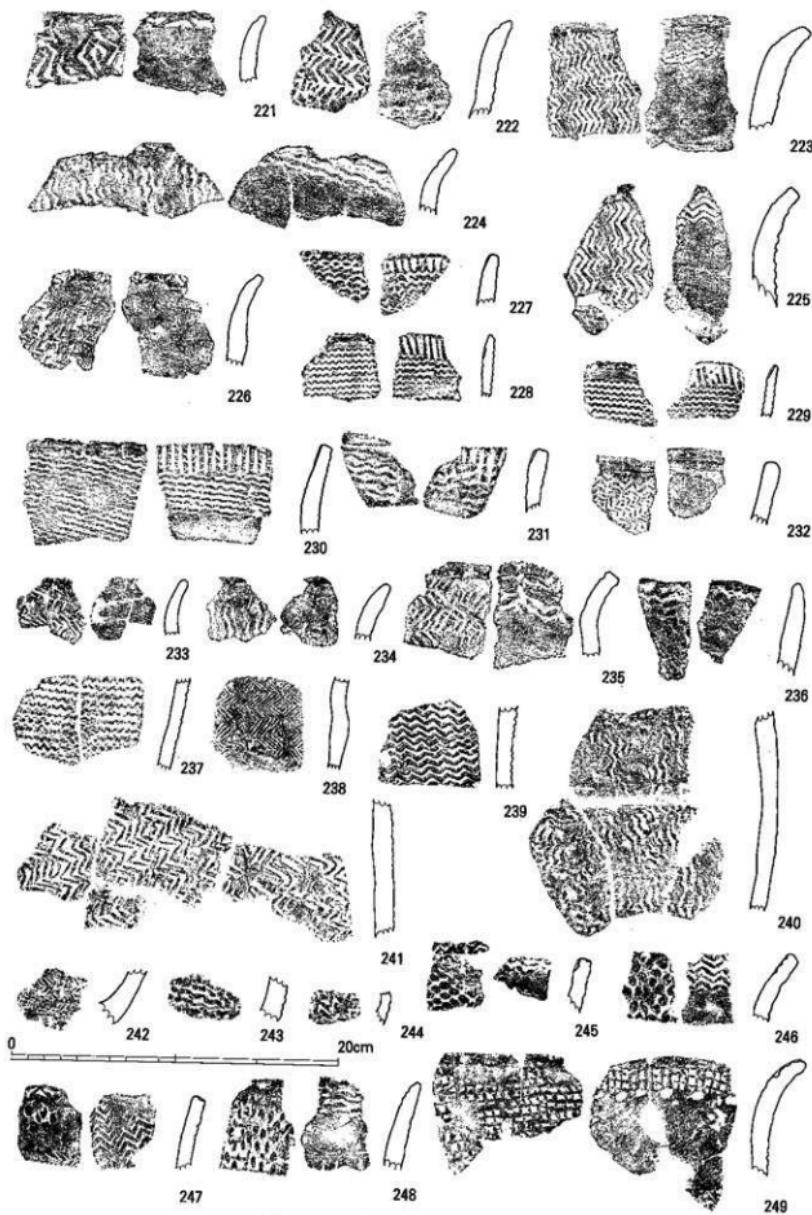
0

20cm

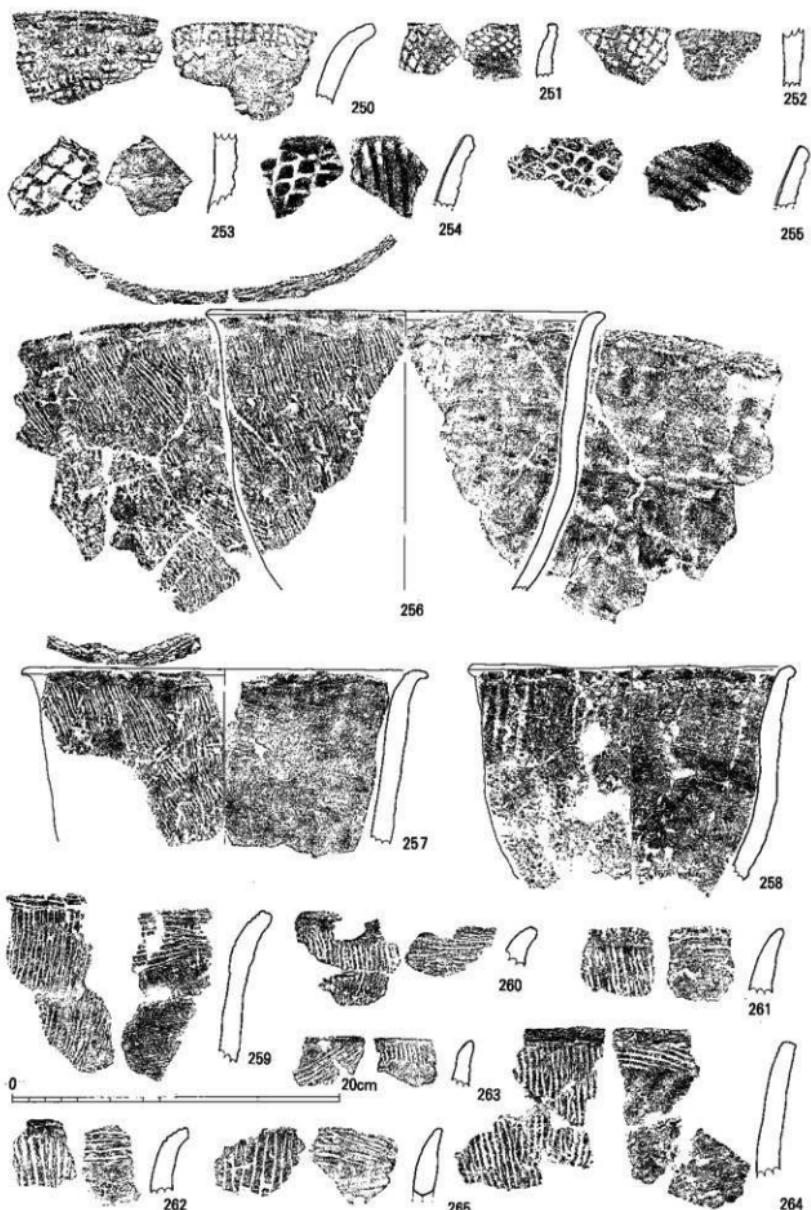
第16図 繩文土器実測図 (XII) 194~202



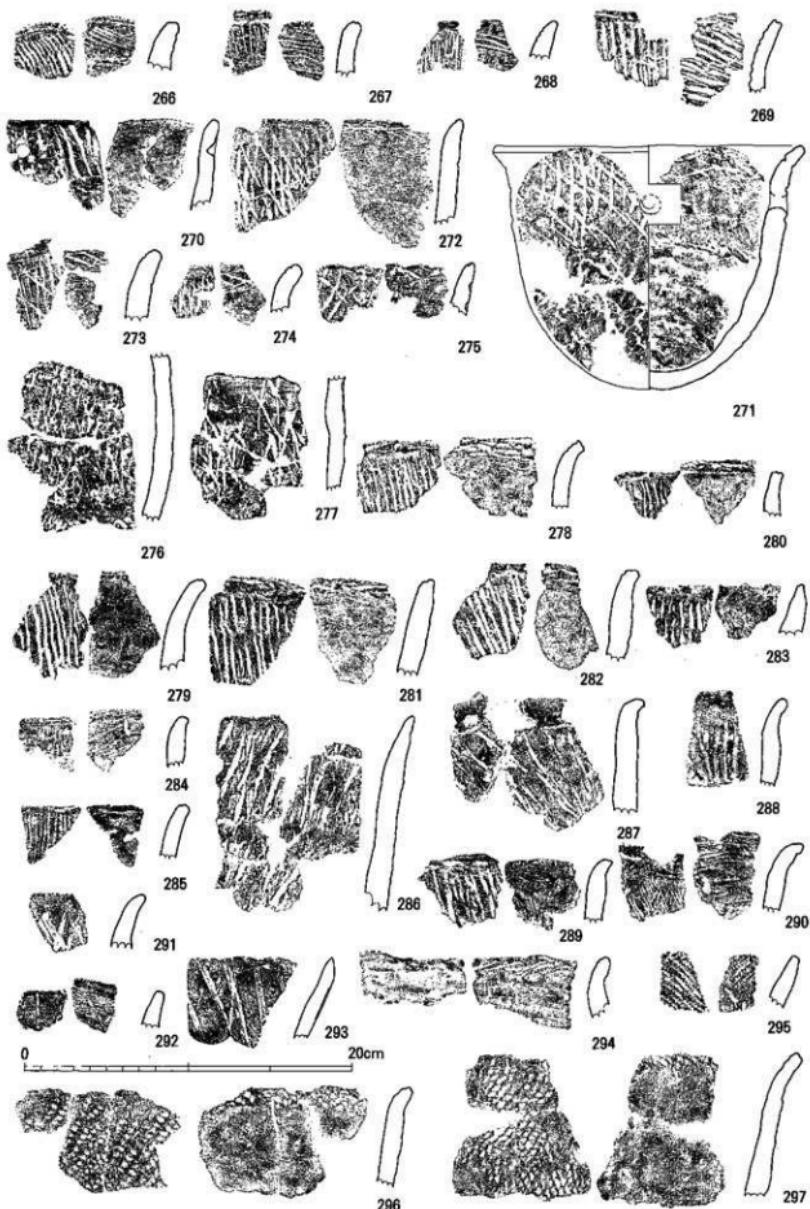
第17図 縄文土器実測図 (XIII) 203~220



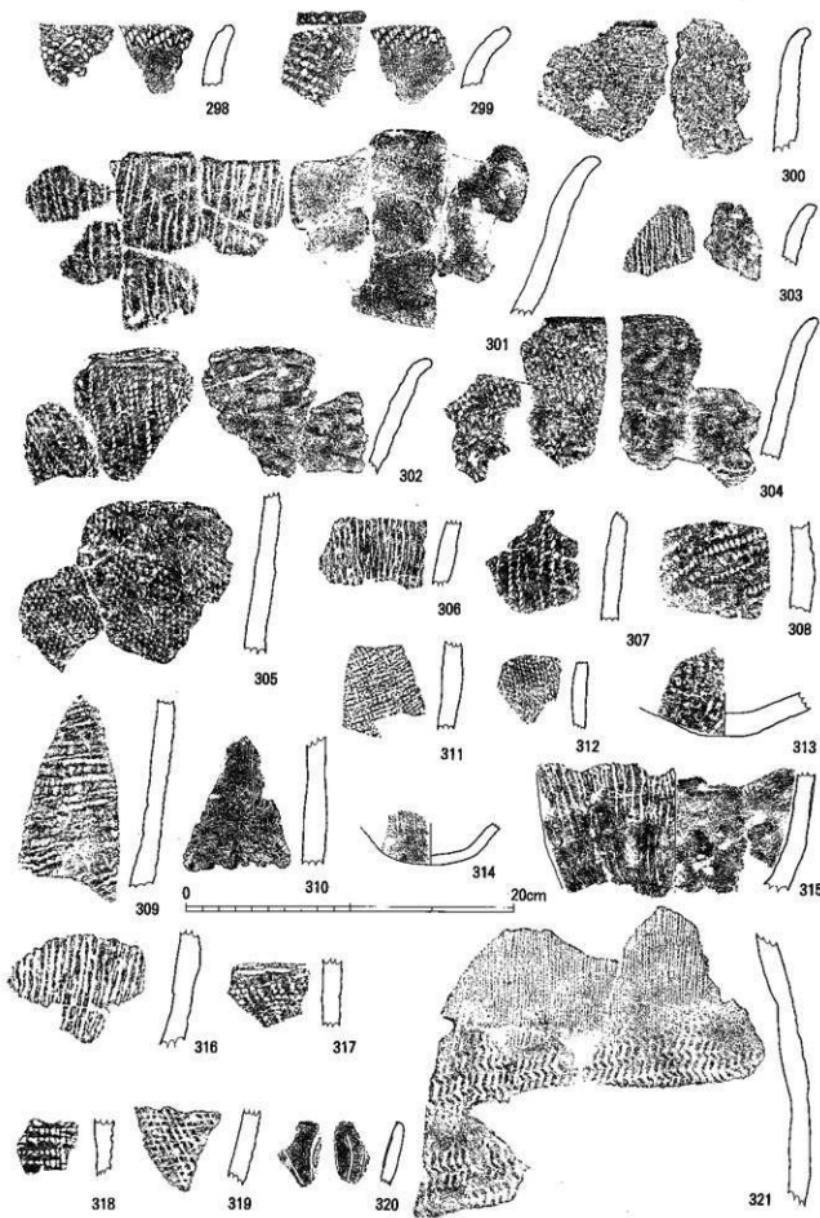
第18図 縄文土器実測図 (XIV) 221~249



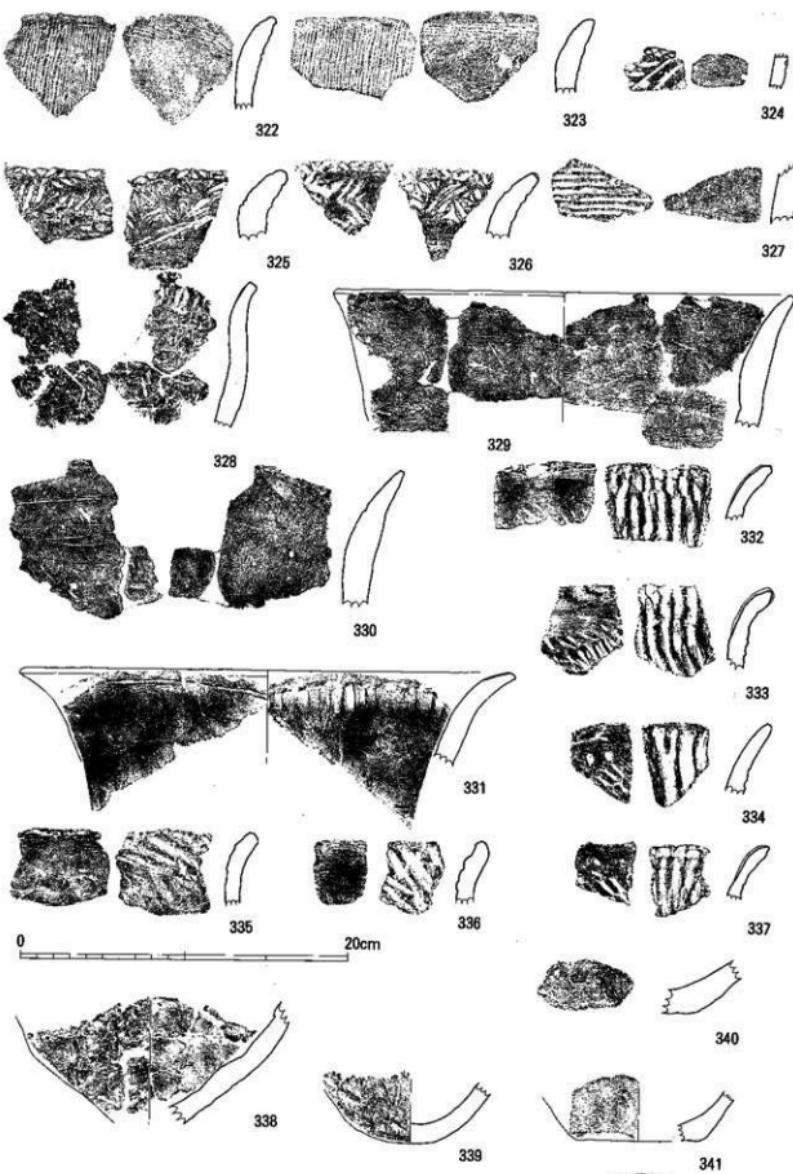
第19図 縄文土器実測図 (XV) 250~265



第20図 縄文土器実測図 (XVI) 266～297



第21図 縹文土器実測図 (XII) 298~321



第22図 繩文土器実測図 (III) 322~341

表1 織文土器観察表(1)

器物番号	直径	基盤	器底	文様および測量		施成	色	剖面	胎土	備考	分類	
				外 面	内 面							
第5回 1	A-2	深 筋	口縁部	斜方の縦円溝文 斜方の横円溝文 下にコナダ	良好	灰	赤	1~4mmの黒い柱状の砂粒と1~2mmの白色、うす茶色の斑模様1mm以下の薄い光る砂粒を含む	1mmの黒い柱状の砂粒と1~2mmの白色、うす茶色の斑模様1mm以下の薄い光る砂粒を含む	1a		
第5回 2	A-2	深 筋	口縁部	複方向横円溝文	複方向横円溝文	良好	灰	(GYR A/2)	(GYR A/2)	1mmの黒い柱状の砂粒と1~2mmの白色、うす茶色の斑模様1mm以下の薄い光る砂粒を含む	1a	
第5回 3	A-2	深 筋	口縁部	斜方の縦円溝文 斜方の横円溝文 下にコナダ	良好	淡 茶	淡 茶	1mmの黒い柱状の砂粒と1~2mmの白色、うす茶色の斑模様1mm以下の薄い光る砂粒を含む	1mmの黒い柱状の砂粒と1~2mmの白色、うす茶色の斑模様1mm以下の薄い光る砂粒を含む	口縫部 施成不明	1b	
第5回 4	A-2	深 筋	口縁部	ナフの下に複方 向横円溝文	ナフの下に複方 向横円溝文	良好	明 赤	明 赤	2mm、最も多くなるタマゴの砂粒と0.5~2mmの灰色色	白地に朱色の砂粒を含む	口縫部 施成不明	1b
第5回 5	A-2	深 筋	口縁部	ナフの下に複方 向横円溝文	ナフの下に複方 向横円溝文	良好	明 赤	明 赤	2mm、最も多くなるタマゴの砂粒と0.5~2mmの灰色色	白地に朱色の砂粒を含む	口縫部 施成不明	1b
第5回 6	A-2	深 筋	口縁部	複方の横円溝文 下にコナダ	良好	明 赤	明 赤	2mm、最も多くなるタマゴの砂粒と0.5~2mmの灰色色	白地に朱色の砂粒を含む	口縫部 施成不明	1b	
第5回 7	A-2	深 筋	口縁部	複方向横円溝文 下にコナダ	良好	明 赤	明 赤	2mmの黒い柱状の砂粒と1~4mmの白色、茶色、白地に朱色の砂粒を含む	2mmの黒い柱状の砂粒と1~4mmの白色、茶色、白地に朱色の砂粒を含む	1b		
第5回 8	A-2	深 筋	口縁部	複方向横円溝文 下にコナダ	良好	明 赤	明 赤	2mmの黒い柱状の砂粒と1~4mmの白色、茶色、白地に朱色の砂粒を含む	2mmの黒い柱状の砂粒と1~4mmの白色、茶色、白地に朱色の砂粒を含む	1c		
第5回 9	A-2	深 筋	口縁部	ナフの下に複方 向横円溝文	ナフの下に複方 向横円溝文	良好	明 赤	明 赤	2mmの黒い柱状の砂粒と1~4mmの白色、茶色、白地に朱色の砂粒を含む	2mmの黒い柱状の砂粒と1~4mmの白色、茶色、白地に朱色の砂粒を含む	1c	
第5回 10	A-2	深 筋	口縁部	ナフの下に複方 向横円溝文 下にコナダ	良好	明 赤	明 赤	2mmの黒い柱状の砂粒と1~4mmの白色、茶色、白地に朱色の砂粒を含む	2mmの黒い柱状の砂粒と1~4mmの白色、茶色、白地に朱色の砂粒を含む	1c		
第5回 11	A-2	深 筋	口縁部	複ナフの下位に 複方の横円溝文	複ナフの下位に 複方の横円溝文	良好	暗 茶	暗 茶	1~4mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	白地に朱色の砂粒を含む	1c	
第5回 12	A-2	深 筋	口縁部	複方の横円溝文 下にコナダ	良好	明 赤	明 赤	1~4mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	白地に朱色の砂粒を含む	1c		
第5回 13	A-2	深 筋	口縁部	複方の横円溝文 下にコナダ	良好	明 赤	明 赤	1~4mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	白地に朱色の砂粒を含む	1c		
第5回 14	A-2	深 筋	口縁部	複方の横円溝文	ナフ	良好	明 赤	明 赤	1~4mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	白地に朱色の砂粒を含む	1d	
第5回 15	A-2	深 筋	口縁部	複方の横円溝文	ナフ	良好	明 赤	明 赤	1~4mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	白地に朱色の砂粒を含む	1d	
第5回 16	A-2	深 筋	口縁部	複方の横円溝文 下にコナダ	良好	明 赤	明 赤	1~4mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	白地に朱色の砂粒を含む	1c		
第5回 17	A-2	深 筋	口縁部	複方の横円溝文 下にコナダ	良好	黑	黑	3mm以下の黒い柱状の砂粒と0.5mm以下の黒く見る砂粒を含む	3mm以下の黒い柱状の砂粒と0.5mm以下の黒く見る砂粒を含む	口縫部 施成不明	1d	
第5回 18	A-2	深 筋	口縁部 ～脚部	複方向横円溝文 下にコナダ	良好	明 赤	明 赤	1~2mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	1~2mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	口縫部 施成不明	1d	
第5回 19	A-2	深 筋	口縁部	複方向横円溝文 下にコナダ	良好	明 赤	明 赤	2mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	1~2mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	口縫部 施成不明	1d	
第5回 20	A-2	深 筋	口縁部	複方の横円溝文 下にコナダ	良好	明 赤	明 赤	1~4mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	1~4mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	1f		
第5回 21	A-2	深 筋	口縁部	複方の横円溝文 下にコナダ	良好	明 赤	明 赤	1~4mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	1~4mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	1f		
第5回 22	A-2	深 筋	口縁部	ナフ	良好	暗 茶	暗 茶	1~4mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	1~4mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	1f		
第5回 23	A-2	深 筋	口縁部	複方の横円溝文 下にコナダ	良好	明 赤	明 赤	1~4mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	1~4mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	1f		
第5回 24	A-2	深 筋	脚 部	複方向横円溝文 向脚部	良好	明 赤	明 赤	1~4mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	1~4mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	1f		
第5回 25	A-2	深 筋	口縁部	複方の横円溝文 向脚部	良好	明 赤	明 赤	1~4mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	1~4mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	1f		
第5回 26	A-2	深 筋	口縁部	ナフの後方脚 内横溝文	良好	明 赤	明 赤	1~4mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	1~4mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	1f		
第5回 27	A-2	深 筋	口縁部	複方向横円溝文 化風の凸溝部不規	良好	明 赤	明 赤	1~4mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	1~4mmの黒い柱状の砂粒と0.5~2mmの灰色色	1f		
第5回 28	A-2	深 筋	口縁部	複方の横円溝文 ヨコナダ	良好	明 赤	明 赤	0.5mm~1mmのうす茶色、灰褐色の砂粒を含む	0.5mm~1mmのうす茶色、灰褐色の砂粒を含む	1k		
第5回 29	A-2	深 筋	口縁部	複方向横円溝文	ナフ	良好	暗 茶	暗 茶	1mm以下の黒い柱状の砂粒と0.5~1mmの白色の砂粒を含む	1mm以下の黒い柱状の砂粒と0.5~1mmの白色の砂粒を含む	1k	
第5回 30	A-2	深 筋	口縁部	複方の横円溝文	ナフ	良好	暗 茶	暗 茶	1mm以下の黒い柱状の砂粒と0.5~1mmの白色の砂粒を含む	1mm以下の黒い柱状の砂粒と0.5~1mmの白色の砂粒を含む	1k	
第5回 31	A-2	深 筋	底 部	複円溝文	ナフ	良好	明 赤	明 赤	1.5~3mmの黒い柱状の砂粒と0.5~1mmの白色の砂粒を含む	1.5~3mmの黒い柱状の砂粒と0.5~1mmの白色の砂粒を含む	丸底	1
第5回 32	A-5	深 筋	底 部	ヨコナダの下位に 複方の横円溝文	ナフ	良好	明 赤	明 赤	0.5mm~1mmのうす茶色、灰褐色の砂粒を含む	0.5mm~1mmのうす茶色、灰褐色の砂粒を含む	丸底	1
第5回 33	A-2	深 筋	底 部	複方の横円溝文 ヨコナダ	良好	明 赤	明 赤	1mm以下の黒い柱状の砂粒と0.5~1mmの白色の砂粒を含む	1mm以下の黒い柱状の砂粒と0.5~1mmの白色の砂粒を含む	丸底	1	
第5回 34	A-2	深 筋	底 部	複方の横円溝文 ヨコナダ	良好	明 赤	明 赤	1mm以下の黒い柱状の砂粒と0.5~1mmの白色の砂粒を含む	1mm以下の黒い柱状の砂粒と0.5~1mmの白色の砂粒を含む	丸底	1	
第5回 35	A-2	深 筋	底 部	ヨコ方向の横円溝文 ヨコナダ	良好	明 赤	明 赤	1.5~3mmの黒い柱状の砂粒と0.5~1mmの白色の砂粒を含む	1.5~3mmの黒い柱状の砂粒と0.5~1mmの白色の砂粒を含む	平底	1	
第5回 36	A-2	深 筋	底 部	複方の横円溝文 ヨコナダ	良好	明 赤	明 赤	1mm以下の黒い柱状の砂粒と0.5~1mmの白色の砂粒を含む	1mm以下の黒い柱状の砂粒と0.5~1mmの白色の砂粒を含む	平底	1	
第5回 37	A-2	深 筋	底 部	複方の横円溝文	ナフ	良好	明 赤	明 赤	1mm以下の黒い柱状の砂粒と0.5~1mmの白色の砂粒を含む	1mm以下の黒い柱状の砂粒と0.5~1mmの白色の砂粒を含む	平底	1
第5回 38	A-2	深 筋	底 部	複方の横円溝文	ナフ	良好	明 赤	明 赤	0.5mm~1mmのうす茶色、灰褐色の砂粒を含む	0.5mm~1mmのうす茶色、灰褐色の砂粒を含む	1	

### 縹文土器觀察表 (2)

織文土器観察表 (3)

番号	測定	グリッド	基種	器部	文様および装飾		表	著者	分類	
					外面	内面				
第8回	77	A-2	深 鈎	口縁部	横方向の横円形刻文	横好	に い い 番 横 (SYR 5/4)	に い い 番 横 (SYR 5/4)	1~4mmの白色・灰色の帶状の移動と1mm以下の白・黒の移動を多く含む	
第8回	78	A-2	深 鈎	口縁部	横方向の山形刻文	横好	に い い 番 横 (SYR 5/4)	に い い 番 横 (SYR 6/6)	1mm以下の移動、1mm以下の透明、2mm以下の半透明、黒く光る移動を多く含む	
第8回	79	A-2	深 鈎	胴 部	横方向の帯子目印文	ヨコナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 4/2)	横 帯 (SYR 5/6)	1.5~2mmの灰色・褐色の移動を含む
第8回	80	A-2	深 鈎	口縁部	ナメ下に横方向の横交叉文	横好	に い い 番 横 (SYN 6/6)	明 明 番 横 (SYR 6/4)	1mm以下の白色の移動、1mm以下の透明・白色の移動、1mm以下の白色の移動、黒く光る移動を含む	
第8回	81	A-2	深 鈎	1.縫部	ヨコナデ下位に横方向の横交叉文	横好	に い い 番 横 (SYR 4/2)	横 帯 (SYR 6/4)	1mm以下の白色の移動、1mm以下の透明・白色の移動、黒く光る移動を含む	
第8回	82	A-2	深 鈎	口縁部	横方向の横交叉文	横好	に い い 番 横 (SYR 6/2)	横 帯 (SYR 6/2)	内面一部 黒斑	
第8回	83	A-2	深 鈎	口縁部	横方向の横目状紋	横好	に い い 番 横 (SYR 6/4)	横 帯 (SYR 6/4)	内面一部 黑斑	
第8回	84	A-2	深 鈎	口縁部	横方向の横交叉文	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 4/2)	横 帯 (SYR 6/2)	外側・内面とも黒斑
第8回	85	A-2	深 鈎	口縁部	横方向の横交叉文	横好	に い い 番 横 (SYR 6/4)	横 帯 (SYR 6/4)	1~4mmの白色・灰色、1mm以下の透明・白色の移動、0.5~2mmの透明・白色の移動を含む	
第8回	86	A-2	深 鈎	口縁部	横方向の横交叉文	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 5/6)	横 帯 (SYR 5/6)	内面一部 黑斑
第8回	87	A-2	深 鈎	胴 部	斜方向の横交叉文	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 6/4)	横 帯 (SYR 5/6)	内面一部 黑斑
第8回	88	A-2	深 鈎	口縁部	斜方向の横交叉文	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 4/2)	横 帯 (SYR 4/2)	VJ
第8回	89	A-2	深 鈎	口縁部	横方向の横交叉文	横好	に い い 番 横 (SYR 6/4)	横 帯 (SYR 6/4)	1~4mmの白色・灰色の移動、2mm以下の白色・黑色の移動、1mm以下の透明・白色の移動を含む	
第8回	90	A-2	深 鈎	口縁部	横方向の横交叉文	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 6/2)	横 帯 (SYR 7/4)	内面一部 黑斑
第8回	91	A-2	深 鈎	口縁部	横方向の横交叉文	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 6/4)	横 帯 (SYR 7/4)	II
第8回	92	A-2	深 鈎	底 底	ハセの伏文	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 6/4)	横 帯 (SYR 7/4)	II
第8回	93	A-2	深 鈎	口縁部	横方向の横交叉文	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 6/2)	横 帯 (SYR 7/4)	半球
第8回	94	A-2	深 鈎	口縁部	横方向の横交叉文	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 6/4)	横 帯 (SYR 7/4)	II
第8回	95	A-2	深 鈎	口縁部	横方向の横交叉文	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 6/2)	横 帯 (SYR 7/4)	II
第8回	96	A-2	深 鈎	口縁部	横方向の横交叉文	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 6/4)	横 帯 (SYR 7/4)	II
第8回	97	A-2	深 鈎	口縁部	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 6/2)	横 帯 (SYR 7/4)	II	
第8回	98	A-2	深 鈎	口縁部	横方向の横交叉文	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 6/4)	横 帯 (SYR 7/4)	II
第8回	99	A-2	深 鈎	口縁部	横方向の横交叉文	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 6/2)	横 帯 (SYR 7/4)	II
第8回	100	A-2	深 鈎	口縁部	ナデ	ヨコナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 6/4)	横 帯 (SYR 5/6)	II
第8回	101	A-2	深 鈎	口縁部	ナデ	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 6/4)	横 帯 (SYR 5/6)	II
第8回	102	A-2	深 鈎	口縁部	ナデ	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 6/4)	横 帯 (SYR 6/4)	口縫跡 周縫跡
第8回	103	A-2	深 鈎	口縁部	こぶ状突起	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 6/6)	横 帯 (SYR 6/6)	X
第8回	104	A-2	深 鈎	胴 部	2倍山形の横交叉文	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 6/6)	横 帯 (SYR 6/6)	内面底部 黑斑
第8回	105	A-2	深 鈎	底 底	化成の開闢不規	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 4/2)	横 帯 (SYR 5/4)	外側底部 黑斑
第8回	106	A-2	深 鈎	底 底	ナデ	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 6/6)	横 帯 (SYR 5/4)	内面底部 黑斑
第8回	107	A-4	深 鈎	口縁部	横方向の横交叉文	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 6/6)	横 帯 (SYR 5/4)	I A
第8回	108	A-4	深 鈎	口縁部	横方向の横交叉文	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 5/4)	横 帯 (SYR 5/4)	I A
第8回	109	A-4	深 鈎	口縁部	横方向の横交叉文	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 6/4)	横 帯 (SYR 4/2)	I A
第8回	110	A-4	深 鈎	L部	横方向の横交叉文	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 6/4)	横 帯 (SYR 4/2)	内面底部 黑斑
第8回	111	A-4	深 鈎	口縁部	横方向の横交叉文	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 6/4)	横 帯 (SYR 4/2)	I A
第8回	112	A-4	深 鈎	口縁部	横方向の横交叉文	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 5/4)	横 帯 (SYR 4/2)	口縫跡 周縫跡
第8回	113	A-4	深 鈎	口縁部	横方向の横交叉文	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 6/4)	横 帯 (SYR 4/2)	I d
第8回	114	A-4	深 鈎	口縁部	横方向の横交叉文	ナデ	横好	に い い 番 横 (SYR 6/4)	横 帯 (SYR 4/2)	I d

#### 細文土器觀察表 (4)

### 繩文土器觀察表（5）

縄文土器観察表 (6)

番号	地図番号	グリッド	基準	面別	文様および調整		焼成	色		土	備考	分類
					外面	内面		表面	内面			
第108	191	A-4	済林	山形	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	において赤褐色 (SYR 4/3)	1m以下の中程度の砂粒を多少含む		口唇部 底原形	Ⅲ-a
第109	192	A-4	済林	山形	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	明赤褐色 (SYR 5/6)	7mm以下の赤褐色の砂粒を多く含む、1m以下 の灰・光沢の砂粒を多く含む		口唇部 底原形	Ⅲ-b
第110	193	A-4	済林	山形	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	灰・黄褐色 (SYR 6/6)	6mm以下の赤褐色を多く含む、1m以下 の灰・光沢の砂粒を多く含む		口唇部 底原形	Ⅲ-b
第111	194	A-4	済林	山形	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	灰 (SYR 4/2)	5mm以下の赤褐色を多く含む、1m以下 の灰・光沢の砂粒を多く含む		口唇部 底原形	Ⅲ-b
第112	195	A-4	済林	1面削	ヨナゲの下位に 斜方山形押印文		良好	灰 (SYR 4/1)	3mm以下の白色を多く含む、2mm以下の白色・紫色 の砂粒を多く含む		口唇部 底原形	Ⅲ-a
第113	196	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文		良好	赤 (SYR 4/6)	7mm以下の赤褐色を多く含む、1m以下 の灰・光沢の砂粒を多く含む	外側一部 底原形	Ⅲ	
第114	197	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	において黄褐色 (SYR 4/2)	1~2mmの白色の砂粒と、1.5mm以下の赤褐色を多く 含む砂粒を多く含む	口唇部 底原形	Ⅲ-b	
第115	198	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 5/6)	6mm以下の赤褐色を多く含む、1m以下 の灰・光沢の砂粒を多く含む	口唇部 底原形	Ⅲ-b	
第116	199	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	灰 (SYR 4/6)	3mm以下の白色を多く含む、2mm以下の白色・紫色 の砂粒を多く含む	口唇部 底原形	Ⅲ-b	
第117	200	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 4/1)	1~2mmの白色の砂粒、1m以下 の白色の砂粒と灰 色の砂粒を含む	口唇部 底原形	Ⅲ-b	
第118	201	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	において黄褐色 (SYR 4/4)	0.5~1mmの白色の砂粒と、1mm以下の 赤褐色を多く含む	口唇部 底原形	Ⅲ-b	
第119	202	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 4/2)	1~2mmの白色の砂粒を含む	口唇部 底原形	Ⅲ-b	
第120	203	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 4/3)	1~2mmの白色の砂粒、5mm以下の 赤褐色の砂粒と、1m以下 の灰色の砂粒を含む	口唇部 底原形	Ⅲ-b	
第121	204	A-4	済林	1面削	ナガの下位に斜方山 形押印文		良好	青 (SYR 4/3)	7mm以下の赤褐色の砂粒 と、1m以下 の灰色の砂粒を含む	口唇部 底原形	Ⅲ-b	
第122	205	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	灰 (SYR 4/2)	1mm以下の 赤褐色の砂粒、薄青の砂粒を少し含む		Ⅲ-c	
第123	206	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 4/6)	1~4mmの・灰色の砂粒、2mm以下 の赤褐色の砂粒 の砂粒を含む	口唇部 底原形	Ⅲ-b	
第124	207	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 4/2)	4mm以下の白色の砂粒、2mm以下の 赤褐色の砂粒、1m以下 の灰色の砂粒を含む	口唇部 底原形	Ⅲ-b	
第125	208	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 4/2)	1~2mmの白色の砂粒、1.5mm以下の 赤褐色の砂粒を含む	口唇部 底原形	Ⅲ-b	
第126	209	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 4/6)	1~4mmの・灰色の砂粒、2mm以下 の赤褐色の砂粒 の砂粒を含む	口唇部 底原形	Ⅲ-b	
第127	210	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 4/6)	3mm以下の 赤褐色の砂粒を少し含む		口唇部 底原形	Ⅲ-b
第128	211	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 4/2)	1~2mmの白色の砂粒、3mm以下 の赤褐色の砂粒と 灰色の砂粒、1m以下 の灰色の砂粒を含む	口唇部 底原形	Ⅲ	
第129	212	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 4/2)	1~2mmの白色の砂粒と 灰色の砂粒を含む	口唇部 底原形	Ⅲ-b	
第130	213	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 4/2)	1~2mmの白色の砂粒と 灰色の砂粒を含む	口唇部 底原形	Ⅲ-a	
第131	214	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 4/6)	0.5~1mmの 赤褐色の砂粒を含む		口唇部 底原形	Ⅲ-a
第132	215	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 4/2)	1~2mmの白色の砂粒、黑色で光沢の砂粒を含む		口唇部 底原形	Ⅲ-b
第133	216	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 4/2)	1~2mmの白色の砂粒、1.5mm以下の 赤褐色の砂粒と 灰色の砂粒、1m以下 の灰色の砂粒を含む	口唇部 底原形	Ⅲ-b	
第134	217	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 4/2)	1~2mmの白色の砂粒と 灰色の砂粒を含む	口唇部 底原形	Ⅲ-b	
第135	218	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 4/4)	0.5~1mmの 赤褐色の砂粒を含む	口唇部 底原形	Ⅲ-b	
第136	219	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 4/2)	1~2mmの白色の砂粒と 灰色の砂粒を含む	口唇部 底原形	Ⅲ-b	
第137	220	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 4/2)	1~2mmの白色の砂粒と 灰色の砂粒を含む	口唇部 底原形	Ⅲ-b	
第138	221	A-4	済林	1面削	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 4/2)	1~2mmの白色の砂粒と 灰色の砂粒を含む		Ⅲ	
第139	222	A-4	済林	1面削	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	明赤褐色 (SYR 5/6)	1m以下の中程度の 赤褐色の砂粒を含む	口唇部 底原形	Ⅲ	
第140	223	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 5/6)	6mm以下の 赤褐色の砂粒を多く含む		口唇部 底原形	Ⅲ
第141	224	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 4/4)	4mm以下の 赤褐色の砂粒と 灰色の砂粒、1.5mm以下の 赤褐色の砂粒と 灰色の砂粒、1m以下 の白色の砂粒を含む	口唇部 底原形	Ⅲ	
第142	225	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 4/2)	4mm以下の 赤褐色の砂粒と 灰色の砂粒を多く含む	口唇部 底原形	Ⅲ	
第143	226	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文 下にコナデ		良好	青 (SYR 4/4)	0.5~1mmの 赤褐色の砂粒を含む	口唇部 底原形	Ⅲ-d	
第144	227	A-4	済林	口縁部	斜方山形押印文		良好	青 (SYR 4/2)	1~2mmの 赤褐色の砂粒を含む	口唇部 底原形	Ⅲ-d	
第145	228	A-4	済林	口縁部	ナガの下位に 斜方山形押印文		良好	青 (SYR 4/4)	白色・灰白色・黒色で光沢の砂粒を多く含む	口唇部 底原形	Ⅲ-d	

縄文土器觀察表 (7)

器番号	器形番号	器形	文様および調査		色	表面	胎土	備考	分類	
			外 国	内 面						
第184号	229 A-4	深 裂	山型部	ナガの下に横方 向に波状文	良好	褐 灰 黑 (SYR 7/6) (SYR 8/4)	灰白色・薄青色の細粒を多く含む		II g	
第185号	230 A-4	深 裂	口輪部	威力向山型押印文	良好	褐 灰 黑 (SYR 4/2) (SYR 4/2)	1~2mmの褐色・黑色・灰色の粒と、黒色で光る 半透明の細粒を含む		II f	
第186号	231 A-4	深 裂	口輪部	威力向山型押印文	良好	褐 灰 黑 (SYR 4/2) (SYR 4/2)	1~2mmの褐色・黑色・灰色の粒と、黒色で光る 半透明の細粒を含む	口輪部 波状文	II f	
第187号	232 A-4	深 裂	山型部	威力向山型押印文 下に波状文	ナデ	良好	白 (SYR 4/3) (SYR 6/5)	白色の細粒を含む		II j
第188号	233 A-4	深 裂	口輪部	威力向山型押印文	ナデ	良好	白 (SYR 7/6) (SYR 7/2)	1mm以下のやや質な白色的砂粒と、黒色透明の光る 砂粒、黒色で光る細粒を少しある		II k
第189号	234 A-4	深 裂	口輪部	威力向山型押印文	ナデ	良好	浅 灰 黑 (SYR 4/4) (SYR 4/4)	1mm以下のやや質な白色的砂粒と、黒色透明の光る 砂粒を含む		II l
第190号	235 A-4	深 裂	口輪部	威力向山型押印文 阿蘇文下にナデ	良好	褐 (SYR 6/6) (SYR 6/6)	4mm以下の褐色の砂粒と、 1mm以下の褐色の細粒を含む		II b	
第191号	236 A-4	深 裂	口輪部	威力向山型押印文 下にナデ	良好	明 黄 黑 (SYR 4/6) (SYR 4/6)	1~1.5mmの黄色の砂粒と、1mm以下の黄色 で光る砂粒を含む		II a	
第192号	237 A-4	深 裂	脚 部	威力向山型押印文	ナデ	良好	褐 (SYR 7/5) (SYR 7/5)	1cm・3mmの褐色を含む、透明の砂粒、黒色で 光る細粒を多く含む		II
第193号	238 A-4	深 裂	脚 部	威力向山型押印文 下にナデ	ナデ	良好	褐 (SYR 4/2) (SYR 7/4)	2mm以下のやや質な黄色の砂粒と、 1mm以下の褐色の砂粒を含む		II
第194号	239 A-4	深 裂	脚 部	威力向山型押印文	ヨコナデ	良好	褐 (SYR 4/2) (SYR 7/6)	1mm以下の褐色の砂粒と、1mm以下の自 色・黒色の細粒を含む		II
第195号	240 A-4	深 裂	脚 部	威力向山型押印文	ヨコナデ	良好	褐 (SYR 7/4) (SYR 7/4)	2mm以下の褐色の砂粒と、1mm以下の黒 色で光る砂粒と、黒色透明の砂粒を含む		II
第196号	241 A-2	深 裂	脚 部	威力向山型押印文	ナデ	良好	褐 (SYR 5/4) (SYR 5/4)	3mm以下の褐色・透明の砂粒と、1mm以下の 褐色の砂粒と、黒色透明の砂粒を含む		II
第197号	242 A-4	深 裂	底 底	威力向山型押印文	ナデ	良好	褐 (SYR 5/4) (SYR 5/4)	1mm以下の褐色の砂粒と、1mm以下の自 色・黒色の細粒を含む		II
第198号	243 A-4	深 裂	底 底	威力向山型押印文	ナデ	良好	褐 (SYR 6/6) (SYR 6/6)	2.5mm以下のやや質な黄色の砂粒と、1mm以下の 黑色で光る砂粒と、黒色透明の砂粒を含む		II
第199号	244 A-4	深 裂	底 底	威力向山型押印文	ヨコナデ	良好	褐 (SYR 5/6) (SYR 5/6)	1mm以下の褐色の砂粒を含む	丸底	II
第200号	245 A-4	深 裂	口輪部	ナナフリ下に横方 向に波状文	良好	褐 (SYR 6/6) (SYR 6/6)	3mm以下の褐色の砂粒と、1mm以下の黄色の砂粒 を多く含む	口輪部 原形判定	II c	
第201号	246 A-4	深 裂	口輪部	威力向山型押印文 下にナデ	良好	褐 (SYR 5/3) (SYR 7/1)	4mm以下の黄色の砂粒と、3mm以下の褐色の砂粒と、 1mm以下の褐色の細粒を含む		II	
第202号	247 A-4	深 裂	口輪部	威力向山型押印文 下にナデ	良好	褐 (SYR 8/3) (SYR 8/2)	0.1~1mmの褐色・白色・真白色の砂粒を含む	口輪部 原形判定	II	
第203号	248 A-4	深 裂	口輪部	威力向山型押印文 下にヨコナデ	良好	明 明 黄 (SYR 5/6) (SYR 5/6)	2mm以下の褐色の砂粒と、1mm以下の黄色・ 白色で光る砂粒を含む		I	
第204号	249 A-4	深 裂	口輪部	ナナフリ下に威力向 山型押印文	ヨコナデ	良好	褐 (SYR 7/4) (SYR 7/3)	5mm以下の褐色の砂粒と、0.1~2mmの褐色・白色・ 赤褐色の砂粒、黒色で光るラメ状の砂粒を含む		IV b
第205号	250 A-4	深 裂	口輪部	ナナフリ下に威力向 山型押印文	ヨコナデ	良好	褐 (SYR 4/3) (SYR 5/4)	1.1~1.5mmの褐色の砂粒と、1mm以下の褐色・ 黑色で光る砂粒と、黒色透明の砂粒を含む		IV b
第206号	251 A-4	深 裂	口輪部	威力向山型押印文 下にナデ	良好	褐 (SYR 4/1) (SYR 5/2)	2mm以下の褐色の砂粒と、1mm以下の褐色を 多く含む	口輪部 原形判定	IV b	
第207号	252 A-4	深 裂	脚 部	威力向山型押印文	ナデ	良好	褐 (SYR 7/4) (SYR 4/2)	1~1.5mmの褐色・白色・真白色の砂粒と、 1mm以下の褐色で光る砂粒を含む		IV
第208号	253 A-4	深 裂	脚 部	威力向山型押印文	ヨコナデ	良好	褐 (SYR 4/1) (SYR 5/2)	5mm以下の褐色の砂粒と、1mm以下の褐色で光 る砂粒を含む		IV
第209号	254 A-4	深 裂	口輪部	ナナフリ下に威力向 山型押印文	ヨコナデ	良好	褐 (SYR 4/1) (SYR 5/4)	1~1.5mmの褐色の砂粒と、1mm以下の褐色・ 白色で光る砂粒を含む		I
第210号	255 A-4	深 裂	山型部	威力向山型押印文	ヨコナデ	良好	褐 (SYR 4/1) (SYR 5/2)	1mm以下の褐色の砂粒と、1mm以下の褐色・ 白色で光る砂粒を含む	口輪部 原形判定	IV b
第211号	256 A-4	深 裂	口輪部	威力向山型押印文 下にナデ	良好	褐 (SYR 7/6) (SYR 4/1)	5mm以下の褐色の砂粒と、1mm以下の褐色で光 る砂粒を含む	口輪部 燒成火	V a	
第212号	257 A-4	深 裂	口輪部	威力向山型押印文 下にナデ	良好	褐 (SYR 4/1) (SYR 6/2)	5mm以下の褐色の砂粒と、1mm以下の褐色で光 る砂粒を含む	口輪部 燒成火	V a	
第213号	258 A-4	深 裂	口輪部	威力向山型押印文 下にナデ	ヨコナデ	良好	褐 (SYR 3/4) (SYR 3/6)	1mm以下の褐色の砂粒と、1mm以下の褐色を 多く含む		V d
第214号	259 A-4	深 裂	口輪部	威力向山型押印文 下位にナデ	ヨコナデ	良好	褐 (SYR 4/3) (SYR 4/3)	1~5mmの褐色の砂粒を含む	口輪部 燒成火	V b
第215号	260 A-4	深 裂	口輪部	威力向山型押印文	ナデ	良好	褐 (SYR 4/3) (SYR 4/4)	1~5mmの褐色の砂粒を含む	口輪部 燒成火	V a
第216号	261 A-4	深 裂	口輪部	威力向山型押印文 下位にナデ	ヨコナデ	良好	褐 (SYR 5/3) (SYR 5/6)	1~5mmの褐色の砂粒を含む	口輪部 燒成火	V c
第217号	262 A-4	深 裂	口輪部	威力向山型押印文 下位にナデ	ヨコナデ	良好	褐 (SYR 4/3) (SYR 4/4)	1~5mmの褐色の砂粒を含む	口輪部 燒成火	V b
第218号	263 A-4	深 裂	口輪部	威力向山型押印文 下位にナデ	ヨコナデ	良好	褐 (SYR 4/3) (SYR 5/4)	1~5mmの褐色の砂粒と、0.5~2mmの褐色・ 白色の砂粒	口輪部 燒成火	V a
第219号	264 A-4	深 裂	口輪部	ヨコナデ下に威力 山型部	ヨコナデ	良好	褐 (SYR 5/6) (SYR 5/6)	1mm以下の褐色の砂粒と、0.5~2mmの褐色・ 白色の砂粒		V b
第220号	265 A-4	深 裂	口輪部	威力向山型押印文 下位にナデ	ヨコナデ	良好	褐 (SYR 4/3) (SYR 6/6)	1mm以下の褐色の砂粒と、0.5~2mmの褐色・ 白色の砂粒を含む		V a
第221号	266 A-4	深 裂	口輪部	威力向山型押印文	ヨコナデ	良好	褐 (SYR 3/1) (SYR 4/6)	0.5~1mmの褐色の砂粒と、1mm以下の褐色で光 る砂粒を含む		V

縄文土器観察表(8)

器 器 番 号	グリッド	種 類	部 位	文 様 お よ び 圖 案		施 成	色 調 外 面 内 面		地 土	備 考	分 類
				外 面	内 面		外 面	内 面			
第21回 267	A-4	深 製	口縁部	威力向の縄文	ナガの下に威力向の縄文	直	灰	灰	1~5mm褐色の帶状を含む	口縁部 黒火灰	Vb
第22回 268	A-4	深 製	口縁部	ナガの下に威力向の 縦彫り文	ナガの下に威力向の 縦彫り文	直	灰	灰 黑 灰	1~2mmの褐色・縦の帯状を含む		Vc
第23回 269	A-4	深 製	口縁部	威力向の縄文	ヨコナガの下に威力 向の縦彫り文	直	灰	灰 黑 灰	6mm以下の褐色の帯状、0.5mm以下の黒色帯状を含む 黒色帯合む	口縁部 黒火灰	Vb
第24回 270	A-4	深 製	口縁部	威力向の縄文	ナゲ	直	灰	灰 黑 灰	2~3mmの褐色・縦の帯状、1mmの灰の帯状を含む	未記述 円筒穿孔	V
第25回 271	A-4	深 製	口縁部	威力向の縦彫り文 の下にナゲ	威力向の縦彫り文 の下にナゲ	直	灰	灰	1~5mm褐色の帯状を含む	4.5mm以下の褐色の帯状、1mm以下の黒色の 帯状、1mm以下の黒色帯状を含む	Vm
第26回 272	A-4	深 製	口縁部	ナガの下に威力向 の縦彫り文	威力向の縦彫り文 の下にナゲ	直	灰	灰	1~2mmの褐色・縦の帯状を含む、15mm 以下に黒く光る黒色の帯状を含む	縦彫り文 一筆一横	Vc
第27回 273	A-4	深 製	口縁部	ナガの下に威力向 の縦彫り文	威力向の縦彫り文 の下にナゲ	直	灰	灰	1~5mm褐色の帯状を含む		Vc
第28回 274	A-4	深 製	口縁部	威力向の縦彫り文 の下にナゲ	威力向の縦彫り文 の下にナゲ	直	灰	灰	黒く光るナゲの縦彫り、0.1~1mmの白・灰色の 帯状、5mmの黒色帯状を含む		Vm
第29回 275	A-4	深 製	口縁部	威力向の縦彫り文 の下にナゲ	威力向の縦彫り文 の下にナゲ	直	灰	灰	光るナゲの縦彫り、0.1~1mmの白・灰色の 帯状、5mmの黒色帯状を含む		Vm
第30回 276	A-4	深 製	口縁部	威力向の縦彫り文	ナゲ	直	灰	灰	1mm以下の褐色・縦の帯状、1~5mmの黒色の 帯状を含む	威力向一 筆ス付管	Vm
第31回 277	A-4	深 製	口縁部	威力向の縦彫り文	ナゲ	直	灰	灰	1~5mmの褐色・縦の帯状を含む	威力向 威力向の 縦彫り文	Vm
第32回 278	A-4	深 製	口縁部	ナガの下に威力向 の縦彫り文	威力向の下に威力向 の縦彫り文	直	灰	灰	1mm以下の褐色、1~5mmの黒色の 帯状、1mm以下の黒色帯状を含む	威力向 威力向の 縦彫り文	Vd
第33回 279	A-4	深 製	口縁部	威力向の縦彫り文	ヨコナゲ	直	灰	灰	1~5mm褐色の帯状を含む	威力向 威力向の 縦彫り文	Vd
第34回 280	A-4	深 製	口縁部	威力向の縦彫り文	ナゲ	直	灰	灰	1~5mm褐色の帯状を含む	威力向 威力向の 縦彫り文	Vd
第35回 281	A-4	深 製	口縁部	ナゲ下に威力向 の縦彫り文	ナゲ	直	灰	灰	3.5mm以下の褐色の帯状、1.5mm以下の灰の 帯状、1mm以下の黒色帯状を含む	威力向 威力向の 縦彫り文	Vj
第36回 282	A-4	深 製	口縁部	ナゲ下に威力向 の縦彫り文	ナゲ	直	灰	灰	4.5mm以下の褐色の帯状、2mm以下の砂の 帯状、1mm以下の黒色帯状を含む	威力向 威力向の 縦彫り文	Vj
第37回 283	A-4	深 製	口縁部	ナゲ下に威力向 の縦彫り文	ナゲ	直	灰	灰	1~5mm褐色の帯状を含む	威力向 威力向の 縦彫り文	Vd
第38回 284	A-4	深 製	口縁部	威力向の縦彫り文	ナゲ	直	灰	灰	1mm以下の褐色帯状を含む		V
第39回 285	A-4	深 製	口縁部	ナゲ下に威力向 の縦彫り文	ナゲ	直	灰	灰	1mm以下の褐色帯状を含む		Vd
第40回 286	A-4	深 製	口縁部	威力向の縦彫り文	ヨコナゲ	直	灰	灰	1mm以下の褐色帯状を含む		Vj
第41回 287	A-4	深 製	口縁部	ナゲ下に威力向 の縦彫り文	ヨコナゲ	直	灰	灰	1~5mm褐色の帯状を含む		Vj
第42回 288	A-4	深 製	口縁部	ナゲ下に威力向 の縦彫り文	ナゲ	直	灰	灰	6.5~9mmの白色の帯状と黒で光る細縞を少部分 含む		V1
第43回 289	A-4	深 製	口縁部	威力向の縦彫り文	ナゲ	直	灰	灰	1~3mmの白色、黑色、褐色の帯状を含む		V1
第44回 290	A-4	深 製	口縁部	ナガ下に威力向 の縦彫り文	ヨコナゲ	直	灰	灰	1mm以下の褐色帯状を含む		V1
第45回 291	A-4	深 製	口縁部	ヨコナゲの下に 威力向の縦彫り文	ナゲ	直	灰	灰	1mm以下の褐色・縦の帯状と黒色の 帯状を含む		V1
第46回 292	A-4	深 製	口縁部	威力向の縦彫り文	ヨコナゲ	直	灰	灰	1mm以下の褐色帯状を多く含む		Vd
第47回 293	A-4	深 製	口縁部	威力向の縦彫り文	威力向の縦彫り文	直	灰	灰	1mm以下の褐色帯状と白色の 帯状で光る砂粒を含む		Vd
第48回 294	A-4	深 製	口縁部	威力向の縦彫り文	ヨコナゲ	直	灰	灰	3mm以下の褐色の帯状、4mm以下の砂の砂粒、3 mm以下の黒色帯状、1mm以下の黒色帯状を含む		V
第49回 295	A-4	深 製	口縁部	ナゲ下に威力向 の縦彫り文	ナゲ	直	灰	灰	3~5mmの白色の帯状と黒で光る細縞を多く含む	口縁部 黒火灰	V1
第50回 296	A-4	深 製	口縁部	威力向の縦彫り文	ヨコナゲ	直	灰	灰	3~5mmの白色の帯状と黒で光る細縞を多く含む	口縁部 黒火灰	V1
第51回 297	A-4	深 製	口縁部	威力向の縦彫り文	威力向の縦彫り文	直	灰	灰	3~5mmの白色の帯状と黒で光る細縞を多く含む	口縁部 黒火灰	V1
第52回 298	A-4	深 製	口縁部	威力向の縦彫り文	ヨコナゲ	直	灰	灰	3~5mmの白色の帯状と黒で光る細縞を多く含む	口縁部 黒火灰	V1
第53回 299	A-4	深 製	口縁部	ナゲ下に威力向 の縦彫り文	ナゲ	直	灰	灰	3~5mmの白色の帯状と黒で光る細縞を多く含む	口縁部 黒火灰	V1
第54回 300	A-4	深 製	口縁部	威力向の縦彫り文	ヨコナゲ	直	灰	灰	3~5mmの白色の帯状と黒で光る細縞を多く含む	口縁部 黒火灰	V1
第55回 301	A-4	深 製	口縁部	威力向の縦彫り文	ナゲ	直	灰	灰	3~5mmの白色の帯状と黒で光る細縞を多く含む	口縁部 黒火灰	V1
第56回 302	A-4	深 製	口縁部	威力向の縦彫り文	ヨコナゲ	直	灰	灰	3~5mmの白色の帯状と黒で光る細縞を多く含む	口縁部 黒火灰	V1
第57回 303	A-4	深 製	口縁部	威力向の縦彫り文	ナゲ	直	灰	灰	3~5mmの白色の帯状と黒で光る細縞を多く含む	口縁部 黒火灰	V1
第58回 304	A-4	深 製	口縁部	威力向の縦彫り文	ヨコナゲ	直	灰	灰	3~5mmの白色の帯状と黒で光る細縞を多く含む	口縁部 黒火灰	V1

縄文土器観察表 (9)

両手 番号	測定 番号	グリッド	岩 鮮	器 基	文様および箇所		色	調 査	考 察	分類	
					外 面	内 面					
第21回	305	A-4	深 鮮	銅 部	斜方向の幾文	ヨコナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	15mm以下の白色地、黒褐色の斑点、1mm以下の黒褐色、黒褐色を含む	VII	
第21回	306	A-4	深 鮮	銅 部	斜方向の幾文	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	4.5mm以下の黒褐色、3mm以下の黒褐色斑点、光る黒褐色、1mm以下の黒褐色を含む	V	
第21回	307	A-4	深 鮮	口部	斜方向の幾文	ヨコナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	6mm以下の黒褐色、1mm以下の黒褐色斑点、黒褐色、1mm以下の黒褐色を含む	VII	
第21回	308	A-4	深 鮮	肩 部	斜方向の幾文	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	2.5mm以下の白色地、1mm以下の黒褐色、黒褐色に光る黒褐色、1mm以下の白色地を含む	VII	
第21回	309	A-4	深 鮮	肩 部	やや斜め方向の幾文	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 7/6)	4mm以下の白色地、2mm以下の白色地に黒褐色斑点、1mm以下の黒褐色を含む	VII	
第21回	310	A-4	深 鮮	肩 部	斜方向の幾文	ヨコナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	5mm以下の黒褐色、1mm以下の黒褐色斑点、黒褐色、1mm以下の黒褐色を含む	V	
第21回	311	A-4	深 鮮	肩 部	幾文	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	5mm以下の白色地、1mm以下の黒褐色斑点、1mm以下の黒褐色を含む	VII	
第21回	312	A-4	深 鮮	肩 部	斜方向の幾文	ヨコナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	1mm以下の黒褐色、1mm以下の黒褐色斑点、1mm以下の黒褐色を含む	VII	
第21回	313	A-4	深 鮮	底 部	斜方向の幾文	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	4mm以下の白色地、1mm以下の黒褐色斑点、1mm以下の白色地に黒褐色斑点、黒褐色に光る黒褐色を含む	丸底	VII
第21回	314	A-4	深 鮮	底 部	斜方向の幾文	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	1.5mm以下の白色地、1mm以下の黒褐色斑点、1mm以下の黒褐色を含む	丸底	VII
第21回	315	A-4	深 鮮	脚 部	斜方向の幾文	ヨコナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	10mm以下の黒褐色、4mm以下の黒褐色斑点、2mm以下の白色地、黒褐色に光る黒褐色を含む	V	
第21回	316	A-4	深 鮮	脚 部	斜方向の幾文	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	1mm以下の黒褐色、1mm以下の黒褐色斑点、1mm以下の黒褐色を含む	VII	
第21回	317	A-4	深 鮮	脚 部	やや斜め方向の下枝	斜方向のナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	3mm以下の白色地、1mm以下の黒褐色斑点、1.5mm以下の白色地に黒褐色斑点、黑褐色に光る黒褐色を含む	VII	
第21回	318	A-4	深 鮮	脚 部	斜方向の幾文	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	1.5mm以下の白色地、1mm以下の黒褐色斑点、1mm以下の白色地に黒褐色斑点、1mm以下の白色地を含む	IV	
第21回	319	A-4	深 鮮	脚 部	斜方向の幾文	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	10mm以下の黒褐色、4mm以下の黒褐色斑点、2mm以下の白色地、黒褐色に光る黒褐色を含む	I	
第21回	320	A-4	深 鮮	脚 部	斜方向の幾文	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	4mm以下の白色地、1mm以下の黒褐色斑点、1mm以下の白色地に黒褐色斑点、1mm以下の白色地を含む	VII	
第21回	321	A-4	深 鮮	脚 部	斜方向の山形幾文	斜方向のナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	2mm以下の白色地を少し含む	VII	
第21回	322	A-4	深 鮮	口部	斜方向の幾文	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	5mm以下の白色地、3mm以下の黒褐色斑点、1mm以下の白色地に黒褐色斑点、1mm以下の白色地を含む	VII	
第21回	323	A-4	深 鮮	口部	斜方向の幾文	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	4mm以下の白色地、黒褐色地を含む	V	
第21回	324	A-4	深 鮮	口部	斜方向の幾文	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	2mm以下の白色地、1mm以下の黒褐色斑点、1mm以下の白色地に黒褐色斑点、1mm以下の白色地を含む	V	
第21回	325	A-4	深 鮮	口部	斜方向の幾文	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	1mm以下の白色地、1mm以下の黒褐色斑点、1mm以下の白色地に黒褐色斑点、1mm以下の白色地を含む	VII	
第21回	326	A-4	深 鮮	口部	斜方向の幾文	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	1~4mmの白色地、黑色の墨跡を多く含む	口部斑 墨跡斑	
第21回	327	A-4	深 鮮	口部	後方の斜形幾文	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	1~4mmの白色地、黑色の墨跡を多く含む	口部斑 墨跡斑	
第21回	328	A-4	深 鮮	口部	斜方向の斜形幾文	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	1mm~5mmの乳白色、黑色の墨跡を含む		
第21回	329	A-4	深 鮮	口部	斜方向の斜形幾文	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	5mm以下の白色地の墨跡、1mm以下の白色地に黒褐色の墨跡、1mm以下の白色地を含む	X	
第21回	330	A-4	深 鮮	口部	斜方向の斜形幾文	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	4.5mm以下の白色地、1mm以下の白色地に黒褐色の墨跡、1mm以下の白色地を含む	X	
第21回	331	A-4	深 鮮	口部	斜方向の斜形幾文	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	9mm以下の白色地の墨跡、黑色、灰色、透明で光る墨跡少しある	X	
第21回	332	A-4	深 鮮	口部	ヨコナデ下枝の横 斜方向の斜形幾文	斜方向の斜形幾文	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	5mm以下の白色地の墨跡、1mm以下の白色地の墨跡、2mm以下の白色地を含む	I	
第21回	333	A-4	深 鮮	口部	ヨコナデ下枝の横 斜方向の斜形幾文	斜方向の斜形幾文	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	5mm以下の白色地の墨跡、1mm以下の白色地を含む	I	
第21回	334	A-4	深 鮮	口部	ヨコナデ下枝の横 斜方向の斜形幾文	斜方向の斜形幾文	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	1mm以下の白色地の墨跡、1mm以下の白色地を含む	I	
第21回	335	A-4	深 鮮	口部	ヨコナデ下枝の横 斜方向の斜形幾文	斜方向の斜形幾文	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	1mm以下の白色地の墨跡で光る黒褐色を含む	I	
第21回	336	A-4	深 鮮	口部	ヨコナデ下枝の横 斜方向の斜形幾文	斜方向の斜形幾文	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	1mm以下の白色地の墨跡、1mm以下の白色地の墨跡、2.5mm以下の黒褐色の墨跡、1mm以下の白色地を含む	X	
第21回	337	A-4	深 鮮	口部	ヨコナデ下枝の横 斜方向の斜形幾文	斜方向の斜形幾文	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	4.5mm以下の白色地の墨跡、黑色、灰色の墨跡を含む	I	
第21回	338	A-4	深 鮮	肩 部	ナデ	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	黑褐色の墨跡で光る黒褐色を含む		
第21回	339	A-4	深 鮮	肩 部	ナデ	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	3mm以下の白色地の墨跡、1mm以下の白色地の墨跡、0.5~3mmの白色地、黑色、灰色の墨跡を含む	X	
第21回	340	A-4	深 鮮	肩 部	ナデ	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	1mm以下の白色地の墨跡、1mm以下の白色地を含む	平底	
第21回	341	A-4	深 鮮	底 部	ナデ	ナデ	白好 (SYR H 6/6)	白好 (SYR H 6/6)	黑褐色、黄褐色のガラス質の墨跡、0.5~3mmの白色地、黑色、灰色の墨跡を含む	平底	

### (3) 石 器 (第23図)

当遺跡から出土した石器は、打製石鐵・尖頭状石器・スクレイバー・砥石・凹石・敲石・磨石など320点である。石器組成比率は打製石鐵253点(79.1%)・尖頭状石器52点(16.3%)・磨石10点(3.1%)・敲石2点(0.6%)・スクレイバー1点(0.3%)・砥石1点(0.3%)・凹石1点(0.3%)であり、狩獵具偏重という縄文時代早期の一般的傾向を示している。

#### 打製石鐵 (第23図1~20)

遺跡からは出土石器総数の79.1%を占める253点の石鐵が出土した。完形品が91点で全体の36.0%を占め、欠損品のうち全体の27.3%の69点が片脚部の欠損である。石鐵の重量は0.5~1.0gが44点と多く、次いで0~0.5gが29点、1.0~1.5gが10点である。平均は長さ1.7cm、幅1.6cm、0.8gである。形態はすべて凹基無茎鐵で、その中でも基部の抉りが非常に深い錐型鐵が主体である。2・3は幅が長さよりも長いタイプである。15・16は抉りが浅く、長さが長いタイプである。幅9は先端部を欠如しているが、抉りが1.1cmと非常に深く典型的な錐型鐵である。石材はチャートが81.4%、砂岩が39.5%、黒曜石3.6%で、チャートが主体である。

#### 尖頭状石器 (第23図21・22・23)

尖頭状石器は尖頭石器、円基式石鐵などと呼ばれる一群で、基部は多くは円基である。遺跡からは出土石器総数の16.3%を占める52点の石鐵が出土した。21は端部を欠如しているが、長さ幅がほぼ同じで、基部は平基である。重さは1.6gと打製石鐵の平均の倍の重さである。22は幅よりも長さが長く、基部は円基である。重量は5.3gとかなり重い。23は長さが幅の2倍以上の円基のタイプである。石材はチャートが96.2%も占めており、当石器製作に石材の選択が実施された可能性がある。

#### 磨製石鐵 (第23図25)

25は抉りが浅く、幅と長さがほぼ等しく、側縁が内済状に膨らむ凹基無茎鐵である。重さが3.7gと打製石鐵の平均の5倍である。

#### スクレイバー (第23図26)

26は抉りを入れ、刃部を打ち欠いて整形しているが、先端部は折れている。

#### 砥石 (第23図27)

砥石は両端部を欠如しており、断面は五角形である。石材は砂岩である。

#### 凹石 (第23図28)

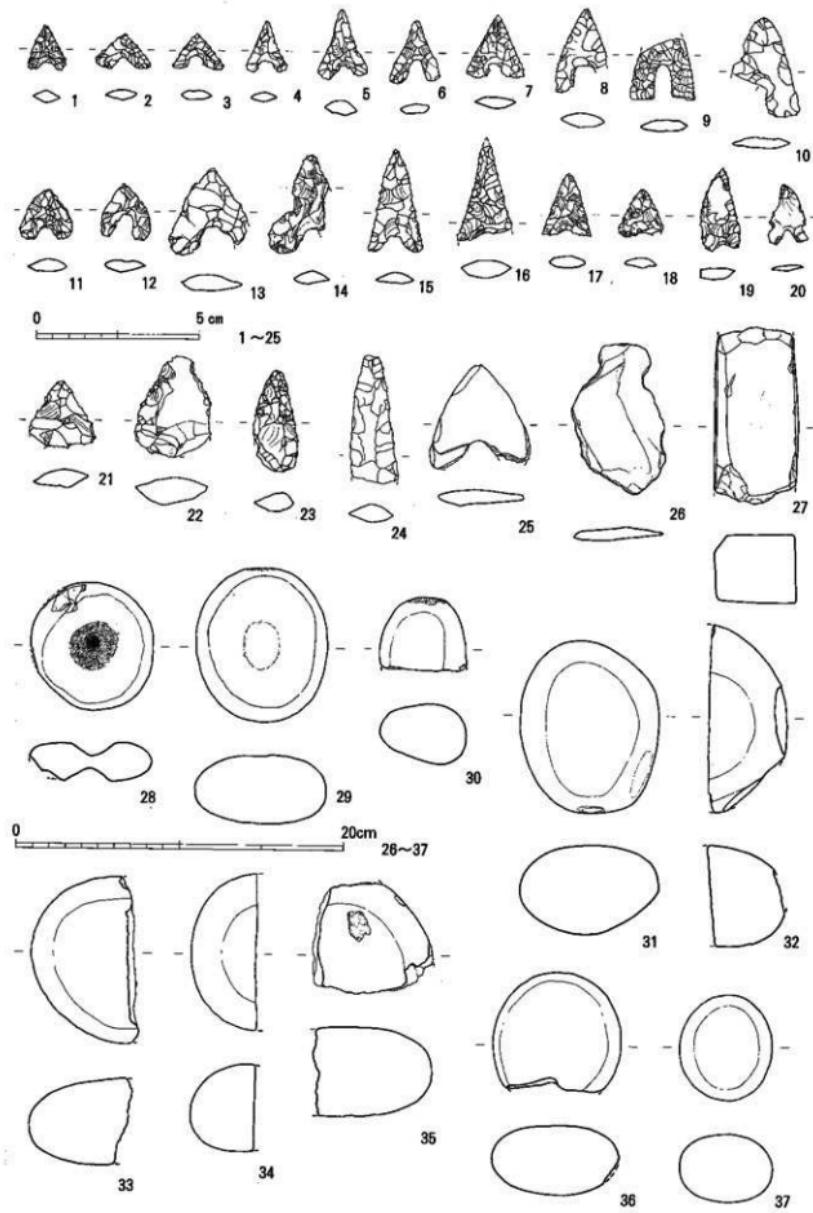
28は両面から中央部を敲打して窪ませている。長さ7.9cm、幅7.5cm、厚さ2.3cmで、凹部は0.7cmである。石材は砂岩である。

#### 敲石 (第23図29・30)

敲石は石器全体の0.6%の2点が出土している。29は長さと幅がほぼ等しく、平面形が円形で、断面形は橢円形のタイプである。表面の中央部と短辺側の側面の1ヶ所を敲打している。30は長さと幅の比がほぼ3:2で平面形が橢円形のタイプである。短辺側の側面を敲打しているが、半分欠損している。两者とも石材は砂岩である。

#### 磨石 (第23図31~37)

磨石は石器全体の3.1%の10点が出土しており、敲石と共に用いている2点を合計すると、12点である。石材はすべて砂岩である。31は長さと幅の比が3:2で、平面形が橢円形のタイプである。36・37は長さと幅がほぼ等しく、平面形が円形で、断面は橢円形のタイプである。この2点以外は半分欠損など欠損品である。



第23図 石器実測図

表2 遺跡出土石器観察表

番号	グリッド	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	備考
1	A-4	打製石鏃	1.4	1.2	0.4	0.4		完形品
2	A-4	打製石鏃	1.1	1.7	0.3	0.4	チャート	完形品
3	A-4	打製石鏃	1.6	1.6	1.3	0.3	チャート	完形品
4	A-4	打製石鏃	1.6	1.2	0.3	0.4	チャート	完形品
5	A-4	打製石鏃	2.2	1.5	0.5	0.9		完形品
6	A-4	打製石鏃	2.0	1.6	0.3	0.6	チャート	完形品
7	A-4	打製石鏃	2.0	1.8	0.3	1.0	チャート	完形品
8	A-4	打製石鏃	2.6	1.6	0.4	1.2		片脚部欠
9	A-4	打製石鏃	1.9	2.0	0.4	1.2	チャート	両脚部のみ
10	A-4	打製石鏃	3.1	2.1	0.3	1.8	チャート	剝一部・片脚部欠
11	A-4	打製石鏃	1.5	1.6	0.4	0.9	チャート	完形品
12	A-4	打製石鏃	1.7	1.5	0.4	0.6		完形品
13	A-4	打製石鏃	2.7	2.4	0.5	2.2	石英	片脚部欠
14	A-4	打製石鏃	3.1	1.9	0.4	1.8	チャート	片脚部欠
15	A-4	打製石鏃	3.2	1.7	0.4	1.5		完形品
16	A-2	打製石鏃	3.0	1.7	0.5	1.7		両脚部欠
17	A-4	打製石鏃	2.0	1.5	0.4	0.8		完形品
18	A-4	打製石鏃	1.5	1.4	0.3	0.6		完形品
19	A-4	打製石鏃	2.6	1.3	0.3	1.2	チャート	完形品
20	A-4	剥片鏃	1.9	1.2	0.2	0.3		完形品
21	A-4	尖頭状石器	2.0	2.1	0.5	1.6	チャート	片端部欠
22	A-4	尖頭状石器	3.1	2.4	0.7	5.3	チャート	片端部欠
23	A-4	尖頭状石器	3.1	1.4	0.6	2.5	チャート	完形品
24	A-2	石錐	4.0	1.5	0.6	3.5		基部欠
25	A-4	磨製石鏃	3.3	3.1	0.5	3.7		完形品
26	A-2	スクレイバー	9.3	5.5	0.7	50		
27	A-4	砥石	10.9	5.2	4.2	440	砂岩	両端部欠
28	A-2 A-4	凹石	7.9	7.5	2.3 0.7	200	砂岩	完形品
29	A-2	敲(磨)石	9.6	8.1	4.2	500	砂岩	完形品
30	A-4	敲(磨)石	4.6	5.4	3.7	122	砂岩	半分欠
31	A-4	磨石	10.6	8.5	5.5	740	砂岩	完形品
32	A-2	磨石	11.7	4.8	6.3	432	砂岩	半分欠
33	A-4	磨石	10.4	6.3	5.2	468	砂岩	半分欠
34	A-4	磨石	9.7	4.1	5.4	314	砂岩	半分欠
35	A-4	磨石	6.9	7.5	5.6	404	砂岩	%欠
36	A-4	磨石	6.8	7.8	4.3	356	砂岩	若干欠
37	A-2	磨石	6.5	5.7	4.2	220	砂岩	完形品

#### 第4節 平安時代以降の遺構と遺物

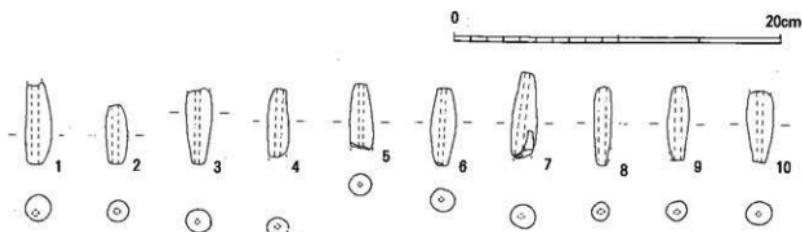
A-2・4区で土錘は出土したが、掘立柱建物等の遺構は検出されなかった。またB地区では堅穴状の落ち込みは検出されたが、堅穴住居としては認定できなかった。またB地区の東端部付近で五輪塔が一ヶ所に集積されていた。

##### (1) 堅穴状遺構

B区で検出された堅穴状遺構の規模は927cm×312cm+αで深さ10cmと非常に浅い。柱穴・焼土・硬化面などが検出されておらず、堅穴住居としては認定が難しい。遺物としては須恵器の高台付鉢・ヘラ切り坏・土錘2が出土した。

##### (2) 土錘

土錘はA-4区から13点出土しており、すべて土師質で、筒状をしている。2は長さ3.6cm、幅1.35cm、孔径0.39cm、重さ6.0gである。6は長さ4.80cm、幅1.50cm、孔径0.29cm、重さ10.2gである。この2点以外は端部を欠如している。法量は表3のとおりで、平均は幅1.44cm、孔径0.37cmである。



第24図 土錘実測図

表3 土錘法量表

No	出土区	長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重(g)	備考
1	A 4-E	5.05 <sup>**</sup>	1.65	0.40	12.0 <sup>**</sup>	端部欠
2	A 4-E	3.60	1.35	0.39	6.0	完形
3	A 4-W	4.70 <sup>**</sup>	1.55	0.30	11.8 <sup>**</sup>	端部欠
4	A 4	4.20 <sup>**</sup>	1.30	0.35	5.0 <sup>**</sup>	端部欠
5	A 4	4.10 <sup>**</sup>	1.40	0.28	8.0 <sup>**</sup>	端部欠
6	A 4	4.80	1.50	0.29	10.2	完形
7	A 4	5.30 <sup>**</sup>	1.55	0.39	12.0 <sup>**</sup>	端部欠
8	A 4	4.90	1.15	0.43	7.0 <sup>**</sup>	端部欠
9	A 4	4.60	1.30	0.38	7.0 <sup>**</sup>	端部欠
10	A 4	4.45 <sup>**</sup>	1.60	0.35	12.0 <sup>**</sup>	端部欠
11	A 4	3.70 <sup>**</sup>	1.60	0.43	9.0	両端部欠
12	A 4	3.80 <sup>**</sup>	1.65 <sup>**</sup>	0.52	4.5 <sup>**</sup>	端部欠
13	A 4	3.80 <sup>**</sup>	1.35	0.28	6.0 <sup>**</sup>	端部欠

## 第5節 まとめ

早日渡遺跡は、アカホヤ下層の縄文時代早期に営まれた遺跡であり、集石遺構が5基検出された。

縄文早期の土器群のうち押型文土器が主体であり、楕円押型文土器・山形押型文土器がほぼ半数出土している。次いで多いのが撚糸文土器であり、縄文土器は少数である。貝殻条痕文土器は非常に少数である。

なおA-4では12回に分けて遺物の取り上げを行った。その結果、楕円押型文土器は649点(40.5%)、山形押型文土器は481点(30.0%)、撚糸文土器は382点(23.9%)、縄文土器は42点(2.6%)、格子目押型文土器は14点(8.7%)であり、押型文土器が圧倒的である。撚糸文土器は全時期にわたって押型文土器と共に伴っているが、縄文土器は3回目からである。遺物の量としては6回目と8回目にピークがあり、7回目を除くとすべて楕円押型文土器が主流で、次いで多いのが1・2・5回目が撚糸文土器で、残りはすべて山形押型文土器である。

表4 縄文土器取り上げ回数毎状況表

回目 文様	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
●楕円押型文	21	7	71	60	33	75	48	91	68	44	69	62	649
■山形押型文	11	3	53	52	20	68	56	72	39	30	39	38	481
○撚糸文	20	6	46	41	26	41	49	53	30	19	32	19	382
▲縄文	0	0	2	10	4	5	7	3	4	3	2	2	42
原体	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	2	0	6
△格子目	0	0	0	1	1	5	4	0	1	1	0	1	14
合計	52	16	174	165	86	203	165	222	146	98	146	128	1,601

以上のように押型文土器は外側は縦方向の押型文、内面は横方向の押型文の下位に原体条痕を施し、口縁部が外反する下背生B式七器、外面に粗大化した縦方向の押型文を、内面には長大化した原体条痕を施し、口縁部が外反する田村式土器である。

集石遺構は5基検出されたが、すべて掘り込みを有するタイプである。

当遺跡から出土した石器320点を用途別に分類すると、打製石器253点(79.1%)・尖頭状石器52点(16.3%)などの狩猟用具が95.3%、磨石10点(3.1%)・敲石2点(0.6%)などの植物調理用石器が4.7%、スクレイパー1点(0.3%)・砥石1点(0.3%)・凹石1点(0.3%)であり、狩猟具偏重という縄文時代早期的一般的傾向を示している。

遺跡からは出土石器総数の79.1%を占める253点の石器が出土した。完形品が91点で全体の36.0%を占め、欠損品のうち全体の27.3%の69点が片脚部の欠損、残りは先端部欠損が16点(11.3%)、両脚部欠損が12点(8.5%)、先端・片脚部欠損と半分欠損が11点(7.8%)である。石器の重量は0.5~1.0gが44点(48.4%)と多く、次いで0~0.5gが29点(31.9%)、1.0~1.5gが10点(11.3%)である。長さ1.1~2.3cm、幅1.0~2.1cmの範囲にほぼ収まる。平均は長さ1.7cm、幅1.6cm、0.8gである。形態はすべて凹基無茎鐵で、その中でも基部の抉りが非常に深い鋸形鐵が主体である。石材はチャートが81.4%、砂岩が39.5%、黒曜石3.6%で、チャートが主体である。

尖頭状石器は尖頭石器、円基式石器などと呼ばれる一群で、基部は多くは円基である。遺跡からは出土石

器総数の16.8%を占める52点の尖頭状石器が出土した。石材はチャートが96.2%も占めている。

なお石材としては打製石礫の81.4%・尖頭状石器の96.2%はチャートが、磨石は砂岩が多く使用されており、器種による石材の選択が行われている。

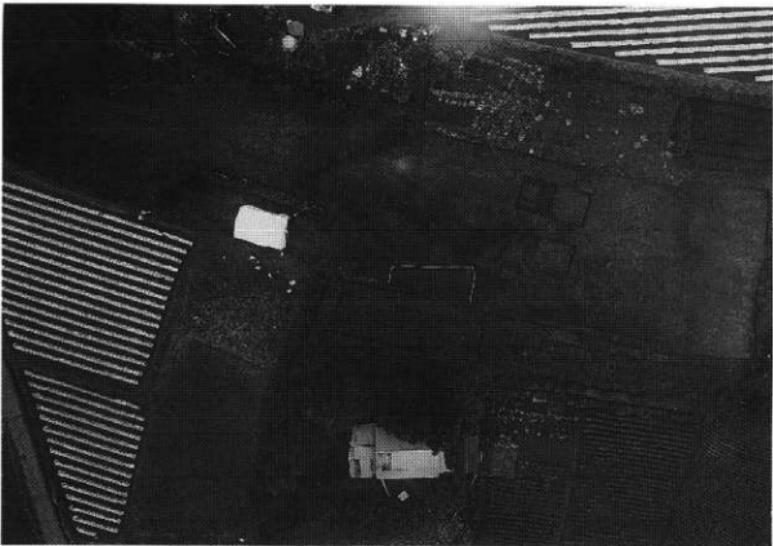
今回の発掘調査によって県北部の縄文時代早期の様相が部分的であるが明らかになると併に、隣接地の大分県を含めた東九州を踏まえて比較的検討する資料を得ることができたのはひとつの成果であった。

#### 〈参考文献〉

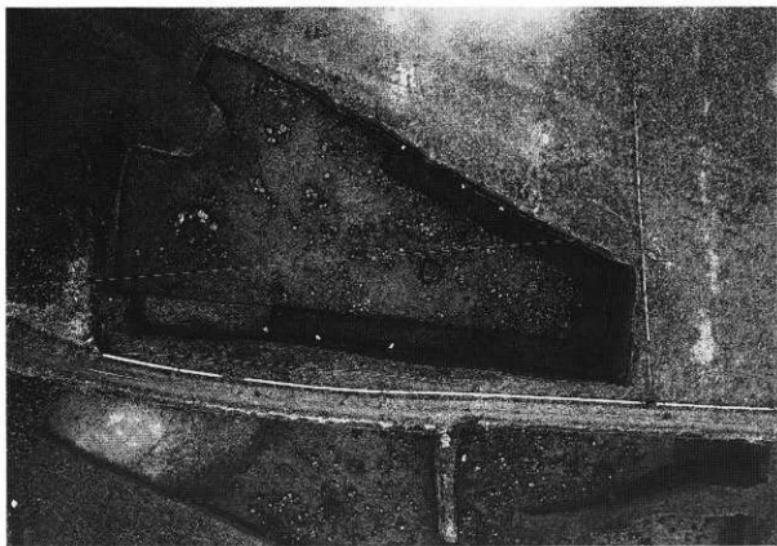
- (1) 山崎純男「押型分土器の施文法と原体——福岡市柏原遺跡F区出土土器の観察を中心として——」『森貞次郎博士古稀記念 古文化論集 上巻』(1982)
- (2) 板本嘉弘「押型文土器の変遷」『大分県史 先史編Ⅰ』大分県(1983)
- (3) 松永幸男「押型文土器にみられる様相の変化について」『古文化談叢』第13集 九州古文化研究会(1984)
- (4) 多々良友博「九州地方の押型文土器——文様構成から見たその動態——」『金立開拓遺跡——九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(4)』佐賀県教育委員会(1984)
- (5) 板本嘉弘・牧尾義則「菅無田遺跡」『野津川流域の遺跡VII 大分県野津地区土地改良事業関係遺跡群発掘調査報告書』大分県野津町教育委員会(1986)
- (6) 後藤一重・高橋 徹「下菅生B遺跡」「菅生台地と周辺の遺跡VI 大分県竹田市菅生地区土地改良事業関係遺跡群発掘調査報告書」大分県竹田市教育委員会(1986)
- (7) 松永幸男「九州地方における押型文土器編年の再検討」「岡崎 敬先生退官記念論集 東アジアの考古と歴史中」同朋社(1987)



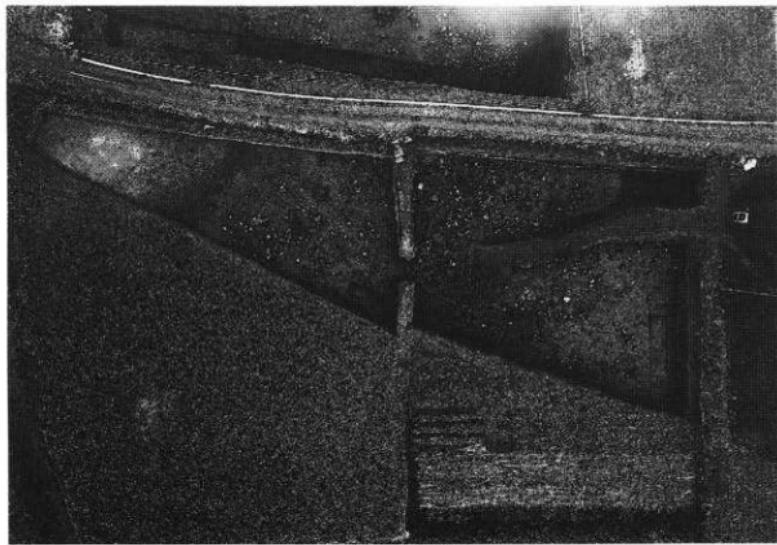
早日渡遺跡遠景（南から）



早日渡遺跡B地区



早日渡遺跡B-2区

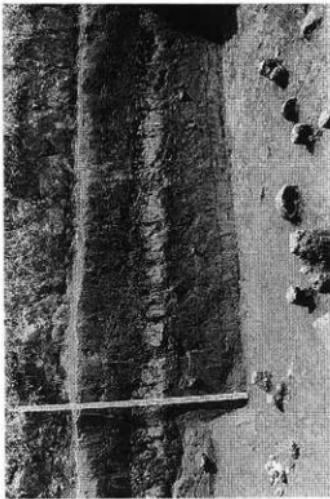


早日渡遺跡B-4区

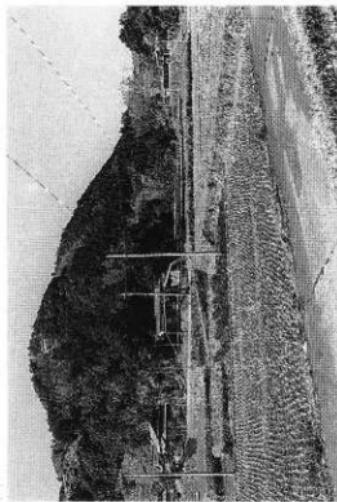
図版3



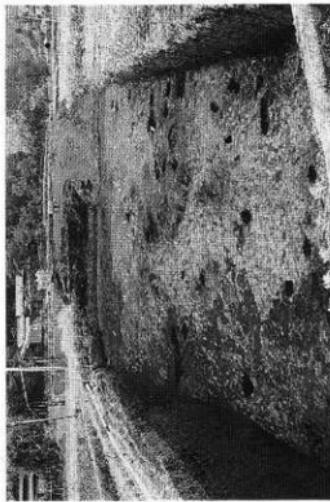
A-4区調査風景



A-4区断面



早日沢流域A-2区地区調査前(東から)



早日沢流域A-2区(アカホヤ面・東から)

図版4



A-4区遺物出土状況(東から)



S11

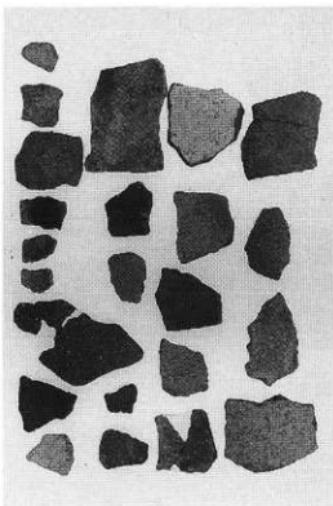


A-2区遺物出土状況(西から)

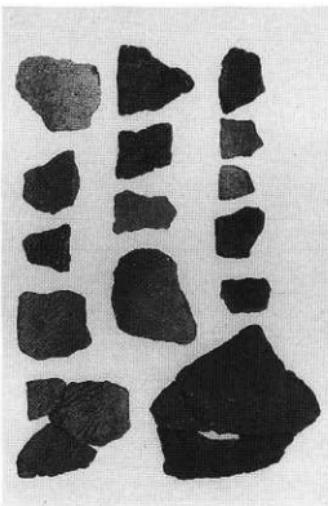


S14

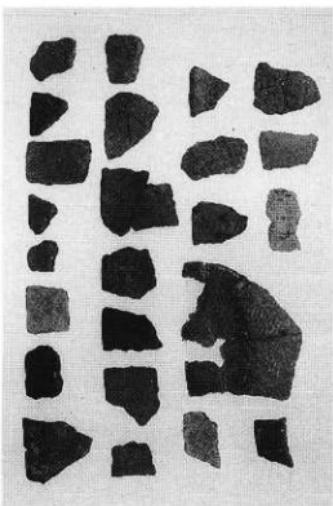
図版 5



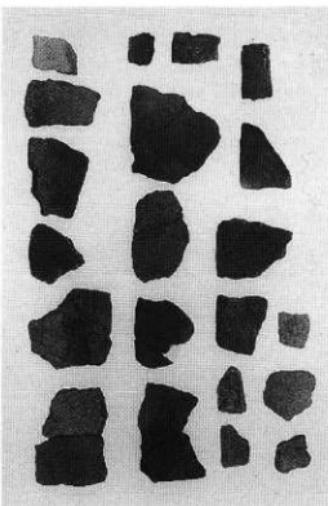
I j・k類 (25~47)



II f・Va・b・m類 (69~83)

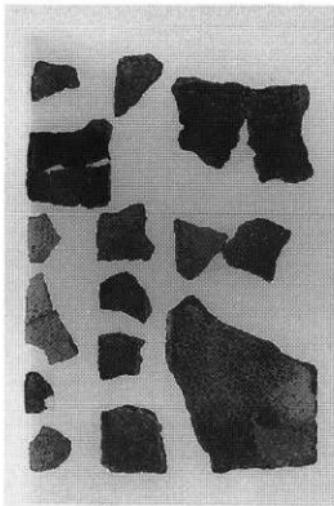


I g~j類 (1~24)

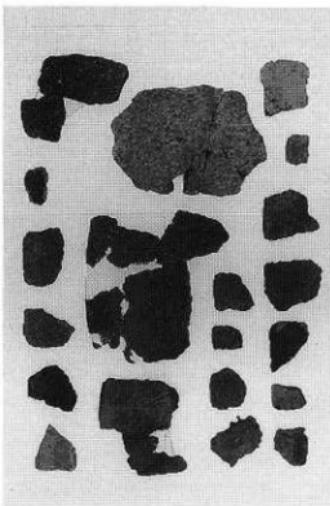


II b・f・h類 (48~68)

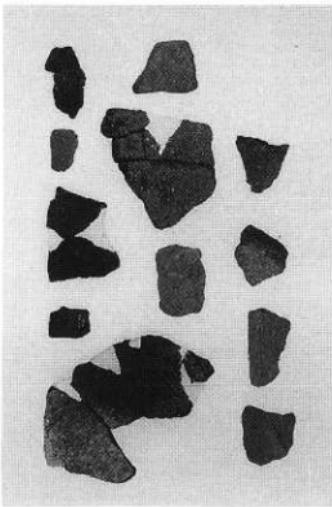
圖版 6



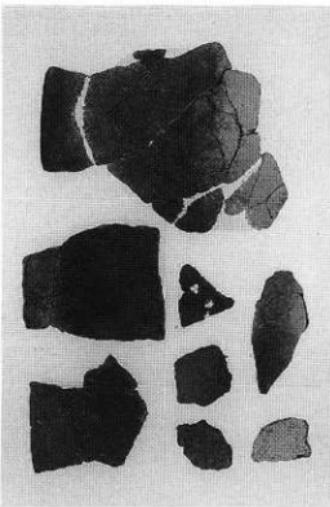
I a • b 總 (107~120)



I b 總 (129~148)

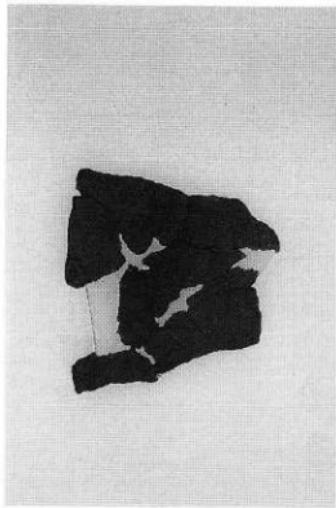


II • Vj • Vld 總 (84~95)

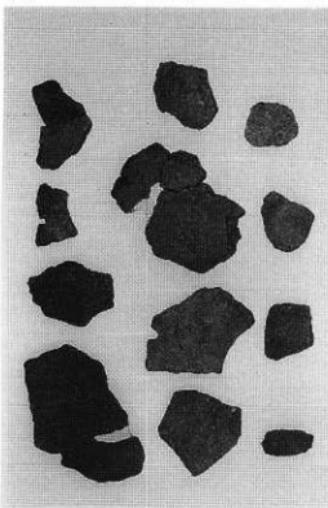


I b 總 (121~128)

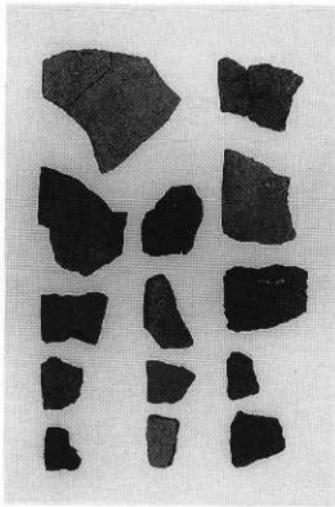
図版7



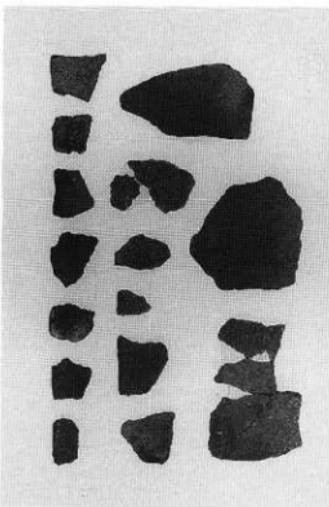
I h 級 (163)



I 級 (179~190)

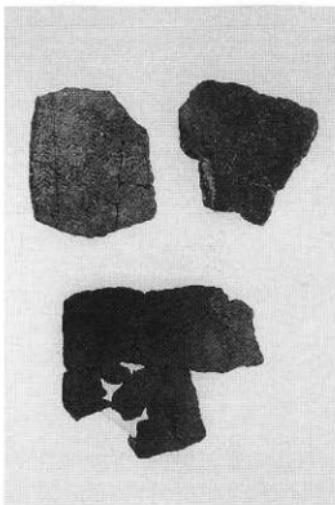


I c ~ f ~ h 級 (149~162)

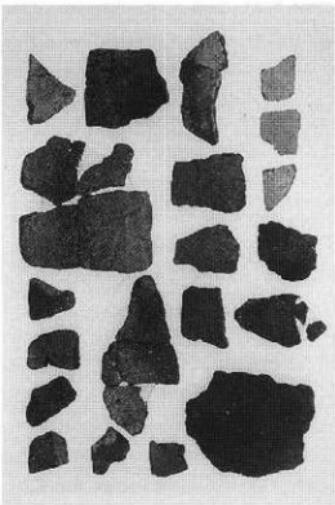


I d ~ h ~ i 級 (164~176)

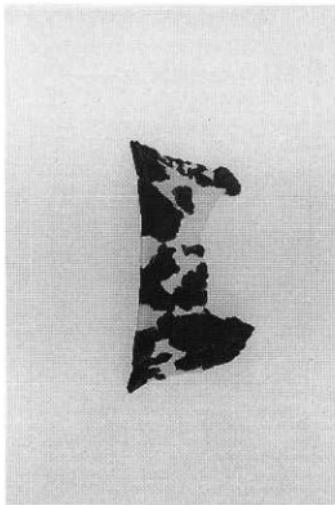
圖版8



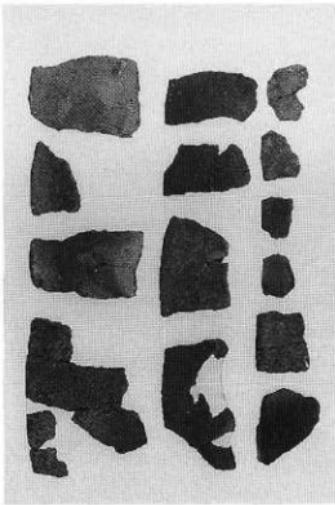
II b 瓦 (192~194)



II e・b・d・f~g 瓦 (210~229)



II a 瓦 (191)



II b・c 瓦 (196~209)